



StarSuite™ 7 Office Suite

Sun™ ONE Software Offering

管理ガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 817-1822-10
July 2003, Revision A

著作権と商標について

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. has intellectual property rights relating to technology embodied in the product that is described in this document. In particular, and without limitation, these intellectual property rights may include one or more of the U.S. patents listed at <http://www.sun.com/patents> and one or more additional patents or pending patent applications in the U.S. and in other countries.

This document and the product to which it pertains are distributed under licenses restricting their use, copying, distribution, and decompilation. No part of the product or of this document may be reproduced in any form by any means without prior written authorization of Sun and its licensors, if any.

Third-party software, including font technology, is copyrighted and licensed from Sun suppliers.

This product is based in part on the work of the Independent JPEG Group and The FreeType Project.

Portions Copyright 2000 SuSE, Inc. Word for Word Copyright © 1996 Inso Corp. International CorrectSpell spelling correction system Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo, Java, Solaris, Starsuite, the Butterfly logo, the Solaris logo, and the Starsuite logo are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

UNIX is a registered trademark in the U.S. and in other countries, exclusively licensed through X/Open Company, Ltd. Screen Beans and Screen Beans clipart characters are registered trademarks of A Bit Better Corporation.

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS" AND ALL EXPRESS OR IMPLIED CONDITIONS, REPRESENTATIONS AND WARRANTIES, INCLUDING ANY IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NON-INFRINGEMENT, ARE DISCLAIMED, EXCEPT TO THE EXTENT THAT SUCH DISCLAIMERS ARE HELD TO BE LEGALLY INVALID.

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書で説明している製品に取り入れられている技術に関する知的所有権を有しています。これらの知的所有権には、特に、<http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つまたは複数の米国特許権、ならびに米国およびその他の国における 1 つまたは複数のその他の特許権または出願中の特許申請が含まれていることがあります、これらに限定されません。

本製品およびそれに関連する文書は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することを禁じます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、Independent JPEG Group および FreeType Project の作業に基づいています。

Portions Copyright 2000 SuSE, Inc. Word for Word Copyright © 1996 Inso Corp. International CorrectSpell Spelling Correction System Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク、Java, Solaris, StarSuite, Butterfly のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、および StarSuite のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。

UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。Screen Beans および Screen Beans のクリップアート キャラクターは、A Bit Better Corporation の登録商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含む、明示的ないし黙示的ななんらの保証も行われぬものとします。ただし、これが法に触れる場合は、この限りではありません。

目次

1	このマニュアルについて	7
	使われているマークについて	7
	皆様のご意見やご要望	8
2	Solaris™ オペレーティングシステム または Linux ネットワークでの StarSuite の配布	9
	サーバーインストールと ワークステーションインストール	10
	ワークステーションインストール	12
	ソースコードのサンプル	12
	StarSuite Basic マクロとライブラリ	16
	Basic ライブラリのディレクトリ	16
	Basic ライブラリの割り当て	19
	テンプレート	22
	テンプレートの追加	22
	テンプレートディレクトリの追加	22
	入力支援	23
	入力支援カテゴリーの追加	23
	入力支援ディレクトリの追加	24
	StarSuite の登録	25
	E-mail のセットアップ	26
	MAPI プロファイルの使用 (Windows のみ)	26
	Netscape 6.x および 7.x プロファイルの使用 (Windows と UNIX)	26

ほかの E-mail クライアント用にプロファイルを作成 27

3	レスポンスファイルによる StarSuite のインストール	31
	インストール前	32
	レスポンスファイルの作成	32
	レスポンスファイルの検証	33
	レスポンスファイルの使用	34
	レスポンスファイルの構造	34
	セクション: [Environment]	35
	セクション: [Module_Specify]	41
	セクション: [Java]	44
	セクション: [Procedures]	45
	セクション: [Windows_Desktop_Integration]	45
	レスポンスファイルパラメータによる StarSuite セットアップの起動	48
	-sdump	48
	-debug	48
	StarSuite Basic 関数	49
	DirEntry 関数	49
	DefuseRestart 関数	50
	GetOS* 関数	51
	getSetupEnv オブジェクト	51
	SetDestinationPath 関数	53
	SetReboot 関数	54
	SetUser* 関数	55
	ShowSetup / HideSetup 関数	56
	SelectModuleSet / DeSelectModuleSet 関数	57
	SelectModuleByName / DeSelectModuleByName 関数	58
	SelectModuleByID / DeSelectModuleByID 関数	59
	レスポンスファイルの例	60
	基本的なレスポンスファイル	65

レスポンスファイルのエラーコード 65

4 ユーザーインターフェースの カスタマイズ	67
XML によるユーザーインターフェースの設定	67
メニューバーの XML 要素と属性	68
アクセラレータの XML 要素と属性	72
ステータスバーの XML 要素と属性	78
ツールバーの XML 要素と属性	83
イベントの XML 要素と属性	94
イメージの XML 要素と属性	96
StarSuite 機能の制限	103
スロット設定ファイルの作成	103
スロット設定の例	106
5 StarSuite Configuration Manager	109
概念	109
6 付録	113
UNIX でのプリンタ、FAX、およびフォントの設定	113
プリンタの設定	114
FAX 機能の使用	117
フォントのインストール	118
StarSuite インストールセットの モジュール ID リスト	121
StarSuite スロット ID コマンド名の リスト	129
StarSuite 7 – グローバルモジュールのスロット コマンド名	129
StarSuite 7 – Writer スロットコマンド名	156
StarSuite 7 – Calc スロットコマンド名	173
StarSuite 7 – Draw スロットコマンド名	183

StarSuite 7 – Chart スロットコマンド名	198
StarSuite 7 – Math スロットコマンド名	201
Solaris オペレーティングシステムでの パッチのインストール	203

第 1 章

このマニュアルについて

このマニュアルでは、StarSuite™7をネットワークにインストールするのに必要となる概念と手順について説明します。このマニュアルは、インストール元のサーバーから StarSuite の複数のユーザー用コピーをインストールし、セットアップするシステム管理者を対象とします。以降の章では、StarSuite インストールの手引きでは説明されていない、高度なセットアップと設定方法について説明します。

使われているマークについて

このマニュアルでは、3種類のマークを使用して役立つ情報を示します。



「重要」マークは、データやシステムのセキュリティに関する重要な情報を表します。



「ノート」マークは、追加情報を表します。たとえば、ある操作を実行するための別の方法を示します。



「ヒント」マークは、より効率的な方法でプログラムを実行するための説明を表します。

皆様のご意見やご要望

常にマニュアルの充実化に努めております。皆様のご意見、ご要望などをお聞かせください。宛先は次のとおりです。

StarSuite-administration-feedback@sun.com

お送りいただいた **E-Mail** につきましては、こちらから受信確認のメールを送らせていただきます。皆様からご意見やご希望は、今後の **StarSuite** マニュアルの充実化に役立たせていただきます。

ただし、こちらのメールアドレスでは技術サポートは受け付けていません。お間違えのないように。

Solaris™ オペレーティングシステム または Linux ネットワークでの StarSuite の配布

-net インストール機能を使用すると、StarSuite を中央のサーバーからセットアップ、インストール、および実行できるようになります。ただし、StarSuite の機能を十分に活用するには、ローカルからアクセスする必要があります。通常のマルチユーザーインストールまたはネットワークインストールでは、システム管理者は次の操作を行います。

- StarSuite のサーバーインストールを実行する
- サーバーインストールをカスタマイズする (ファイルおよびテンプレートの追加、削除、変更)
- ネットワーク上の各ユーザーに対して、ワークステーションインストールを実行する

サーバーインストール上のファイル、テンプレート、および設定に対して、各ユーザーは読み取り専用のアクセス権を持ちます。各ユーザーのカスタマイズ情報は、ローカルのインストールディレクトリに格納されます。

サーバーインストールと ワークステーションインストール

以降の節では、Solaris/Linux ネットワークサーバーに StarSuite をインストールするサンプルスクリプトを示します。また、サーバーインストールのほかに、各ユーザーに対して、ワークステーションインストールを自動的に実行できるレスポンスファイルについても示します。



ワークステーションインストールを実行する前に、StarSuite が中央のサーバーにインストールされている必要があります。

サーバーインストール

1. root に変更し、コマンドラインを使用して StarSuite をインストールします。

```
./setup -net
```

2. 読み取りと実行アクセス権を付与したディレクトリをすべての StarSuite ユーザーに作成します。
3. 新しいディレクトリに、次のファイルを作成またはコピーします。

- responsefile.txt
- centralInstall.sh
- executeSetup.sh

サンプルの responsefile.txt、centralInstall.sh、および executeSetup.sh スクリプトは、この章の最後にあります。



ワークステーションインストールに使用するレスポンスファイルの作成方法と使用方法については、第 3 章の「レスポンスファイルによる StarSuite のインストール」(31 ページ)を参照してください。

4. すべての StarSuite ユーザーに、centralInstall.sh および executeSetup.sh スクリプトの読み取りと実行アクセス権と、responsefile.txt ファイルの読み取り専用アクセス権を付与します。
5. 新しいディレクトリに respCSV.txt という名前のファイルを作成して、このファイルに対する読み取り専用アクセス権をすべての StarSuite ユーザーに付与します。

6. 以下の構造を使用して、ユーザーのインストールデータをファイルに追加します。各列は、セミコロンで区切る必要があります。

列	説明
1	StarSuite ユーザーの UNIX® ユーザー名
2	会社名
3	ユーザーの名前
4	ユーザーの姓
5	ユーザー ID
6	ユーザーの住所 (市町村名番地)
7	ユーザーの住所 (都道府県名)
8	郵便番号
9	ユーザーの E-mail アドレス

respCSV.txt ファイルの例

```
office;company;firstname;lastname;ini;street;city;zip;email  
office2;company;firstname2;lastname2;ini2;street;city;zip;email2  
... and so on ...
```

名前と住所の列は、StarSuite のユーザーデータに追加されます。



列 1 の UNIX ユーザー名を除き、すべてのデータフィールドの指定は任意です。

centralInstall.sh スクリプトは、respCSV.txt ファイルに指定されている各ユーザー名に対して、個別にワークステーションインストールを開始します。したがって、respCSV.txt ファイルには、StarSuite をインストールするすべてのユーザー名が登録されている必要があります。

ワークステーションインストール

1. root に変更して、サーバーインストール内の **StarSuite** セットアップファイルへのパスを確認します。



StarSuite インストール CD に含まれるセットアップファイルは使用しないでください。

2. centralInstall.sh スクリプトが含まれるディレクトリに移動します。
3. 以下のコマンドラインを入力します。

```
./centralInstall.sh <setup file dir>/setup
```

ワークステーションインストールが正常に行われると、以下のメッセージが表示されます。

```
root@turner/instttest:> ./centralInstall.sh /opt/so7.net/setup
Found StarSuite setup, begin with the installation
Starting StarSuite setup for user : office
=====
ResponseFile Session
started at xx/xx/xx 12:05:39 PM
Setup for user office has been finished
Starting StarSuite setup for user : office2
=====
ResponseFile Session
started at xx/xx/xx 12:08:39 PM
Setup for user office2 has been finished
```

ソースコードのサンプル

この節では、以下のソースコードのサンプルを示します。

- centralInstall.sh
- executeSetup.sh
- responsefile.txt

centralInstall.sh のサンプルスクリプト

centralInstall.sh スクリプトでは、以下のソースコードを使用できます。

```
#!/bin/sh

# 現在のユーザーを確認する
UserIDName=`id |cut -d "(" -f2 |cut -d ")" -f1`

if [ ${UserIDName} != "root" ]
then
echo ""
echo " The install program requires the User ID to be 'root'"
exit 1
fi

if [ -x $1 ]
then
echo ""
echo " Found StarSuite setup, begin with the installation"
else
echo ""
echo " Can't find the StarSuite setup at : " $1
exit 1
fi

CWD=`pwd`

RESP_DEF=${CWD}/respCSV.txt
export RESP_DEF

for sname in `cat $RESP_DEF | grep ";" | cut -f1 -d ';'`; do
echo " Starting StarSuite setup for user :"${sname}
su - ${sname} -c "${CWD}/executeSetup.sh $1 ${CWD}" > /dev/null
echo " Setup for user ${sname} has been finished"
```

doneexecuteSetup.sh のサンプルスクリプト

executeSetup.sh スクリプトでは、以下のソースコードを使用できます。

```
#!/bin/sh

# このスクリプトは単独で起動しないでください。
# このスクリプトは、centralInstall.sh スクリプトと共に動作します。

CWD=`pwd`

DISPLAY=:0.0
export DISPLAY

RESP_DEF=$2/respCSV.txt
export RESP_DEF

$1 -r:$2/responsefile.txt"
```

レスポンスファイルのサンプル

このレスポンスファイルは、StarSuite ネットワーククライアントをインストールします。Java™ JDK/JRE 1.x. は、各ユーザーにインストールする必要があります。

```
[ENVIRONMENT]
INSTALLATIONMODE=INSTALL_WORKSTATION
INSTALLATIONTYPE=WORKSTATION
MIGRATION=NO
DESTINATIONPATH=<home>/StarSuite7
LANGUAGELIST=01
STARTPROCEDURE=startProc
ENDPROCEDURE=endProc

[JAVA]
JavaSupport=preinstalled_or_none

[PROCEDURES]
Sub endProc
  'Msgbox "StarSuite has been successfully installed"
End Sub

Sub startProc
  sCSVFile = environ("RESP_DEF")
  ' Name and path of the user definition file.
  ' for more details see the documentation for the response file
  ' Use the UNIX user name to specify the user
  ' settings in the definition file
  sUsername = environ("USER")

  if Len( Dir( sCSVFile ) ) = 0 then
    msgbox "user definition file not found"
    exit sub
  end if
```

```

iFileHandle = FreeFile
Open sCSVFile For INPUT As #iFileHandle

Do Until EOF( #iFileHandle )
  Line Input #iFileHandle, sLine

  iEndPos = InStr( 1, sLine, ";" )
  If iEndPos > 0 Then
    sName = Left( sLine, iEndPos - 1 )

    If sName = sUsername Then
      For iCounter=1 To 15
        iBeginPos = iEndPos + 1
        iEndPos = InStr( iBeginPos, sLine, ";" )
        If iEndPos > 0 Then
          sItem = Mid$( sLine, iBeginPos, iEndPos - iBeginPos
)

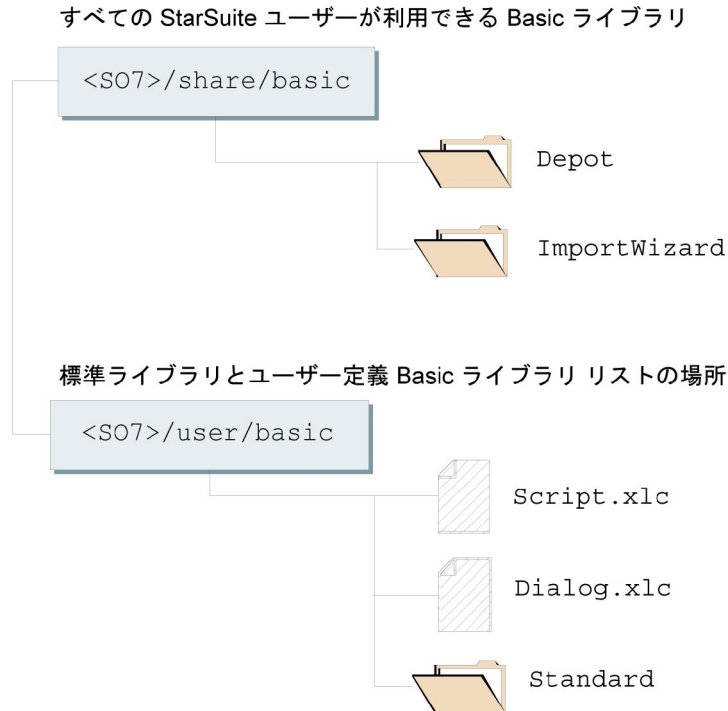
          Select Case iCounter
            Case 1
              SetUserCompanyName( sItem )
            Case 2
              SetUserFirstName( sItem )
            Case 3
              SetUserLastName( sItem )
            Case 4
              SetUserID( sItem )
            Case 5
              SetUserStreet( sItem )
            Case 6
              SetUserCity( sItem )
            Case 7
              SetUserZip( sItem )
            Case 8
              SetUserEMail( sItem
            End Select
          Else
            Exit Sub
          End If
        Next iCounter
      End If
    End If
  Loop

  Close #iFileHandle
End Sub

```

StarSuite Basic マクロとライブラリ

StarSuite の Basic マクロは、ライブラリ内のモジュールに格納されます。ライブラリは、基本モジュールとダイアログのコンテナになります。



Basic ライブラリのディレクトリ

Basic ライブラリは、ユーザーがアクセス可能な任意のディレクトリに格納できます。ただし、script.xlc と dialog.xlc 設定ファイルは、特定のディレクトリに置く必要があります。各ユーザーの以下のディレクトリに置いてください。

```
<StarSuite 7 dir>/user/basic
```

この 2 つの設定ファイルは、割り当て済みのすべての Basic ライブラリとダイアログのリストを格納します。これらのファイルの詳細については、18 ページを参照

してください。このディレクトリは、デフォルトの **Standard Basic** ライブラリおよびすべてのユーザー定義ライブラリの格納にも使用します。

StarSuite で提供されるすべての **Basic** ライブラリは、以下のディレクトリにあります。

```
<StarSuite 7 dir>/user/basic
```

StarSuite ユーザーは、このディレクトリ内の **Basic** ライブラリを利用できます。**Basic** ライブラリをすべてのユーザーに割り当てるには、このディレクトリが最も適しています。**Basic** ライブラリは、ディレクトリおよび少なくとも 4 つの異なる XML ベースのファイルで表されます。詳細については、以降の節で説明します。

StarSuite Basic ライブラリのディレクトリ構造

StarSuite Basic ライブラリは、ソースコードやダイアログなどの一連のファイルを含むディレクトリです。ディレクトリの名前は、**Basic** ライブラリの名前と同じになります。ライブラリには、次のファイルが含まれます。

ファイル名	説明
script.xlb	含まれるすべてのモジュール名の XML ベースファイル
dialog.xlb	含まれるすべてのダイアログ名の XML ベースファイル
*.xda	基本ソースコードを格納するファイル。各ファイルに、1 つの基本モジュール用のソースが含まれます。ファイル名は、モジュール名と同じになります。
*.xdl	基本ダイアログのダイアログ要素を格納するファイル。ファイル名は、ダイアログ名と同じになります。
*.pba	パスワードで保護された基本ソースモジュール。ソースは暗号化されます。ファイル名は、モジュール名を表します。

script.xlc ファイルの構造

script.xlc ファイルは、XML ベースのファイルであり、StarSuite で利用可能なすべての Basic ライブラリのリストを含みます。

以下のタグが使用されます。

タグ	説明
library:name	Basic ライブラリの名前
xlink:href	ライブラリの script.xlb ファイルへのパス。すべてのオペレーティングシステムで、file:/// URL 表記を使用する必要があります。 ライブラリが、ユーザーインストールの /share/basic ディレクトリにある場合は、このタグは不要です。ただし、ネットワークインストールの /share/basic ディレクトリにある場合には必要です。
xlink:type	xlink:href タグがある場合、このタグは必須です。このタグが xlink:href と共に使用されている場合、このタグの値を、simple にする必要があります。
library:link	ユーザーインストールの user/basic ディレクトリに配置されないライブラリはすべて、リンクを使用します。例として、 Standard ライブラリがあります。この場合、タグの値は false にする必要があります。このほかのライブラリはすべて、値 true にする必要があります。
Library:readonly	必須のタグ。値が true の場合、ライブラリを読み取り専用モードで読み込みます。

script.xlc のサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE library:libraries PUBLIC
  "-//OpenOffice.org//DTD OfficeDocument 1.0//EN" "libraries.dtd">

<library:libraries
  xmlns:library="http://openoffice.org/2000/library"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink">

  <library:library library:name="Standard"
    xlink:href="file:///.../user/basic/Standard/script.xlb/"
    xlink:type="simple" library:link="false"/>

  <library:library library:name="FormWizard"
    xlink:href="file:///.../share/basic/FormWizard/script.xlb/"
    xlink:type="simple" library:link="true" library:readonly="false"/>
</library:libraries>
```

dialog.xlc ファイルの構造

dialog.xlc ファイルは、xlink:href タグを除き、script.xlc ファイルと同じ XML タグを使用します。dialog.xlc ファイルの xlink:href タグは、script.xlb ではなく dialog.xlb を指します。完全なライブラリ登録には、ライブラリにダイアログが含まれていなくても、これら両ファイルのエントリが必要です。

Basic ライブラリの割り当て

Basic ライブラリの割り当てには、2つの方法があります。

- Basic ライブラリを手動でインストールディレクトリにコピーし、StarSuite 設定ファイルにパスを追加する
- ワークステーションごとにマクロを実行する

Basic ライブラリを手動でインストールする

Basic ライブラリを手動でインストールするには、2つのシナリオがあります。

- すべての既存ユーザーのワークステーションに、Basic ライブラリをインストールする
- 新しいクライアントに、Basic ライブラリをインストールする

すべてのユーザーワークステーションに Basic ライブラリをインストールする

- サーバー上の Basic ライブラリのディレクトリの内容を、各ワークステーションの <SO 7 network dir>/share/basic ディレクトリにコピーします。



既存ライブラリのリストは、script.xlc と dialog.xlc ファイルに格納されています。これらのファイルは、インストールしたすべてのワークステーションの /user/basic ディレクトリにあります。これは、通常ホームディレクトリまたは各ユーザーのローカルマシン上にあります。

- script.xlc ファイルを開き、script.xlb へのリンクを追加します。

- dialog.xlc ファイルを開き、dialog.xlb へのリンクを追加します。次の書式で入力します。

```
<library:library library:name="<Name>"  
xlink:href="file:///<path of network installation>/share/basic/  
FormWizard/script.xlb/" xlink:type="simple"  
library:link="true" library:readonly="false"/>
```

新しいクライアントのみに Basic ライブラリをインストールする

- サーバー上の Basic ライブラリのディレクトリの内容を、各新しいクライアントの <SO 7 network dir>/user/basic ディレクトリにコピーします。



既存ライブラリのリストは、script.xlc と dialog.xlc ファイルに格納されています。これらのファイルは、インストールしたすべてのワークステーションの /user/basic ディレクトリにあります。これは、通常ホームディレクトリまたは各ユーザーのローカルマシン上にあります。

- script.xlc ファイルを開き、script.xlb へのリンクを追加します。
- dialog.xlc ファイルを開き、dialog.xlb へのリンクを追加します。次の書式で入力します。

```
<library:library library:name="<Name>"  
xlink:href="file:///<path of network installation>/share/basic/  
FormWizard/script.xlb/" xlink:type="simple"  
library:link="true" library:readonly="false"/>
```

マクロを使って Basic ライブラリをインストールする

Basic ライブラリのインストールマクロは、クライアントごとに実行する必要があります。

- マクロをドキュメントに保存します。このドキュメントには、マクロを含むライブラリと、インストールメカニズムを含むライブラリの記述が必要です。
- ドキュメントにコマンドボタンを含め、ユーザーがマクロをインストールできるようにします。

```
Sub AddBasicLibrary
  Dim SourceLibraryName As String, DestLibraryName As String
  Dim oSrcLib As Object, oDestLib As Object, iCounter As Integer
  Dim oLib As Object, oGlobalLib As Object

  ' set these 2 variables to your lib name
  SrcLibraryName = "TextLib"
  ' The name of the library that contains the modules
  DestLibraryName = "NewLib"
  ' This library will be created and is the
  ' destination for the modules from the source document.

  oLib = BasicLibraries          ' For Basic libraries
  oGlobalLib = GlobalScope.BasicLibraries
  For iLib = 1 To 2
    If oGlobalLib.hasByName( DestLibraryName ) = False Then
      oGlobalLib.createLibrary( DestLibraryName )
    End If

    If oLib.hasByName( SrcLibraryName ) Then
      oSrcLib = oLib.getByName( SrcLibraryName )
      sSrcModules = oSrcLib.getElementNames()
      iCounter = lBound( sSrcModules() )

      while( iCounter <= uBound( sSrcModules() ) )
        oDestLib = oGlobalLib.getByName( DestLibraryName )
        If oDestLib.hasByName( sSrcModules(iCounter) ) = False
          Then
            oDestLib.insertByName( sSrcModules(iCounter),
              oSrcLib.getByName( sSrcModules(iCounter) ) )
          End If
          iCounter = iCounter + 1
        wend
      End If

      oLib = DialogLibraries      ' The same for the Dialog libraries
      oGlobalLib = GlobalScope.DialogLibraries
    Next iLib
  End Sub
```

テンプレート

ドキュメントテンプレートおよびテンプレートディレクトリは、システム管理者によって、作成または **StarSuite** のネットワークインストールにコピーされます。これらのテンプレートは、すべてのユーザーが利用できます。

テンプレートの追加

すべてのユーザーにテンプレートを追加するには、テンプレートを以下のディレクトリにコピーします。

```
<SO 7 network dir>/share/template/english
```

特定のユーザーにテンプレートを追加するには、テンプレートを以下のディレクトリにコピーします。

```
<SO 7 dir>/user/template/english
```



このディレクトリの名前は、**StarSuite** の言語バージョンにより異なります。



ユーザーにテンプレートファイルへの書き込み権を許可しないでください。

テンプレートディレクトリの追加

ディレクトリのリストは、`Common.xcu` 設定ファイルに格納されます。テンプレートの対象者に応じて、以下のいずれかを使用します。

```
<SO network dir>/share/registry/data/org/  
openoffice/Office/Common.xcu
```

StarSuite をインストールするすべてのユーザーに、上記を使用します。

```
<SO workstation dir>/user/registry/data/org/  
openoffice/Office/Common.xcu
```

シングルユーザーには、上記を使用します。

ディレクトリのリストは、XML 属性の `Template` に格納されます。この属性は、ユーザーがテンプレートパスを手動で変更するまで存在しません。この属性の書式は、以下の通りです。

```
<node oor:name="Path">  
  <node oor:name="Current">  
    <prop oor:name="Template" oor:type="oor:string-list">  
      <value oor:separator=" " >$(inst)/share/template/$(value)</value>  
    </prop>  
  </node>  
</node>
```

この属性には、複数のディレクトリパスを格納できます。リストは空白で区切り、ディレクトリ文字列の符号化には、URL 符号化方式 (RFC 1738) を使用します。

StarSuite により、これらのディレクトリに配置されたすべてのテンプレートドキュメントが利用可能になります。ディレクトリの名前は、グループ名として使用されます。

入力支援

入力支援項目は、カテゴリに格納されます。カテゴリは、*.bau ファイルとして保存されます。また、このカテゴリが保存されるディレクトリへのポインタは、StarSuite 設定ファイルに追加されます。起動時、StarSuite はポインタを使用して、すべての入力支援カテゴリファイルを動的に読み込みます。

入力支援カテゴリの追加

入力支援カテゴリをすべてのユーザーに利用可能にする



入力支援カテゴリの作成方法については、StarSuite Writer のオンラインヘルプで、キーワード `AutoText` を入力して検索してください。

カテゴリファイル (*.bau) を以下のディレクトリにコピーします。

```
<SO 7 network dir>/share/autotext/english
```

これにより、StarSuite のすべてのユーザーが、カテゴリファイルの内容を利用できるようになります。



ユーザーが誤って入力支援ライブラリを変更するのを防止するために、カテゴリファイルに対する書き込みアクセス権を付与しないでください。



このディレクトリの名前は、StarSuite の言語バージョンにより異なります。

入力支援カテゴリーをシングルユーザーに利用可能にする

StarSuite のワークステーションインストールの AutoText ディレクトリに、カテゴリーファイルをコピーします。

```
<SO 7 workstation dir>/autotext/autotext/english
```

これにより、このユーザーはカテゴリーファイルの内容を利用できるようになります。

入力支援ディレクトリの追加

入力支援カテゴリーファイルの場所に、デフォルトディレクトリを使用する必要はありません。StarSuite 設定ファイルを変更すれば、任意の場所を使用することができます。

ディレクトリのリストは、Common.xcu 設定ファイルに格納されます。入力支援の対象者に応じて、以下のいずれかを使用します。

```
<SO network dir>/share/registry/data/org/  
openoffice/Office/Common.xcu
```

StarSuite インストールのすべてのユーザーに、上記を使用します。

```
<SO workstation dir>/user/registry/data/org/  
openoffice/Office/Common.xcu
```

シングルユーザーには、上記を使用します。

ディレクトリのリストは、XML 属性の AutoText に格納されます。この属性は、ユーザーがテンプレートパスを手動で変更するまで存在しません。この属性の書式は、以下の通りです。

```
<node oor:name="Path">  
  <node oor:name="Current">  
    <prop oor:name="AutoText" oor:type="oor:string-list">  
      <value oor:separator=" " >$(inst)/share/autotext/</value>  
    </prop>  
  </node>  
</node>
```

この属性には、複数のディレクトリパスを格納できます。リストは空白で区切り、ディレクトリ文字列の符号化には、URL 符号化方式 (RFC 1738) を使用します。

StarSuite により、これらのディレクトリに配置されたすべてのテンプレートドキュメントが利用可能になります。ディレクトリの名前は、グループ名として使用されます。

StarSuite の登録

StarSuite の 2 回目の起動時に、登録ダイアログが自動的に現れます。登録するとき、ダイアログを使用するか、あるいは ヘルプ → 登録 を選択すると、デフォルトブラウザで Registration Web ページが呼び出されます。

登録済みのユーザーとして、最初に StarSuite に関する最新の情報をすべて受け取ります。

登録は、<StarSuite 7 dir>/user/registry/data/org/openoffice/Officedirectory にある Common.xcu ファイル内のエントリを変更することで制御できます。登録ダイアログを次回から表示しないようにするには、**Registration** の **RequestDialog** の値を **0** に設定します。このメニューコマンドを次回から表示しないようにするには、XML ノード **Registration** の **ShowMenuItem** の値を **false** に設定します。

ReminderDate	ユーザーに通知される日付の文字列表現。DD.MM.YYYY の日付書式を使用します。 xsi:nil="true" に設定すると、この機能を非アクティブにできます。
RequestDialog	ダイアログがいつ起動されるかを決定するために内部で使用される数字。 0 - ダイアログを表示しない 1 - 最初の起動時にダイアログを表示する X - StarSuite の X 番目の起動時にダイアログを表示する
ShowMenuItem	ヘルプ → 登録 メニュー項目を表示または非表示にするブール型の値

```
<node oor:name="Help">
  <node oor:name="Registration">
    <prop oor:name="ReminderDate">
      <value xsi:nil="true"/>
    </prop>
    <prop oor:name="RequestDialog" oor:type="xs:int">
      <value>0</value>
    </prop>
    <prop oor:name="ShowMenuItem" oor:type="xs:boolean">
      <value>>false</value>
    </prop>
  </node>
```

E-mail のセットアップ

StarSuite 7には、外部メールクライアントを制御するためのインターフェースがあります。ユーザーはこれを使用して、現在の文書を添付ファイルにして、新しいメールを作成できます。StarSuite には、以下の 2つのデフォルト E-mail プロファイルがあります。

- MAPI (Windows のみ)
- Netscape™ 6.x および 7.x (Windows と UNIX)

MAPI プロファイルの使用 (Windows のみ)

MAPI は、Windows プロトコルなので、Solaris プラットフォームまたは Linux では利用できません。

MAPI E-mail プロファイルを使用する

1. Windows のデフォルトの E-mail プログラムが、MAPI プロトコルをサポートしていることを確認します。
2. ツール → オプション → **StarSuite** → 補助プログラム を選択して、標準 **E-mail** プログラム チェックボックスをオンにします。



Netscape を使用している場合は、バージョン 6.2 以降が MAPI をサポートしています。

Netscape 6.x および 7.x プロファイルの使用 (Windows と UNIX)

一連のコマンドラインパラメータを使用して、Netscape 6.x、7.x、または Mozilla™ 1.x の E-mail クライアントを直接呼び出すように StarSuite を設定できます。ユーザーはこれを使用して、現在の文書を添付ファイルにして、新しいメールを作成できます。

Netscape 6.x および 7.x E-mail プロファイルを使用する

1. ツール → オプション → **StarSuite** → ヘルププログラム を開いて、標準 **E-mail** プログラム チェックボックスをオフにします。
2. プログラム テキストボックスの隣にある 検索 ボタンをクリックし、Netscape 6.x/7.x 実行可能ファイルを選択します。

ほかの E-mail クライアント用にプロファイルを作成

プロファイルを作成できるのは、コマンドラインパラメータをサポートする E-mail クライアントのみです。Netscape 6.x プロファイルの例は、この章の最後にあります。

外部 E-mail クライアントのプロファイルを作成する

1. ExternalMailer と呼ばれるノードは、最初から

```
<SO 7 dir>/user/registry/data/org/openoffice/Office/  
Common.xcu
```

設定ファイルに存在しません。

ユーザーがダイアログ オプション の ツール → オプション → ヘルププログラム セクションの一部に変更を加えると、自動的に StarSuite によってこのノードが追加されます。

E-mail クライアントが MAPI プロトコルをサポートする場合は、属性 UseDefaultMailer の値を true に設定し、サポートしない場合は false に設定します。



UseDefaultMailer タグは、Windows でのみ読み取られ解釈されます。

2. 同様に、属性 Program cfg も設定します。この属性は、E-mail クライアントの実行可能ファイルへのフルパスを格納します。パスには、file:/// URL 表記を使用してください。MAPI プロトコルをサポートしない E-mail クライアントには、このタグが必須です。
3. E-mail クライアントプロファイルを複数作成する場合は、CommandProfile タグを使用して、アクティブにするプロファイルを指定します。

4. Common.xcu 設定ファイルをテキストエディタで開きます。外部メール設定を必要とするユーザーに応じて、設定ファイルの場所が異なります。すべての StarSuite ユーザー用の設定ファイルは、以下の場所にあります。

```
<SO 7 dir>/share/registry/data/org/openoffice/Office/
```

シングルユーザーの設定ファイルは、以下の場所にあります。

```
<SO 7 dir>/user/registry/data/org/openoffice/Office/
```

5. /share/ ディレクトリツリーの common.xcu 設定ファイルには、以下の表で説明する XML ノードと属性がすでに含まれています。/user/ ディレクトリツリーの設定ファイルには、ノードと属性が含まれていません。ユーザーがノードと属性を追加する必要があります。

ノード/属性名	説明
FormatStrings タグは、以下の属性セットを定義します。	
base	メールアプリケーションを呼び出す最初のパラメータを定義します。このタグは、実行可能ファイル名を含みません。
from	送信者の E-mail アドレス。アドレスは StarSuite の設定から取得されます。
to cc bcc	受信者の E-mail アドレス。タグの値は、メールアプリケーションの呼び出しに使用されるパラメータの名前を指定します。FormatString セクションの以下のタグは、すべて同じ使用方法です。
subject	新しい E-mail の件名
attachment	添付文章への完全修飾パス
body	文書の本文
EnumDelimiter タグは、以下の属性を定義します。	
Base cc bcc attachment	区切り文字を定義します。

例:

以下のファイルに含まれる Netscape 6.x E-mail プロファイル

```
<SO 7>/share/registry/data/org/openoffice/Office/  
Common.xcu
```

```
<node oor:name="ExternalMailer">  
  <node oor:name="Profiles">  
    <node oor:name="Netscape 6.x" oor:op="replace">  
      <node oor:name="FormatStrings">  
        <prop oor:name="base">  
          <value>-compose &quot;%s&quot;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="from">  
          <value/>  
        </prop>  
        <prop oor:name="to">  
          <value>to=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="cc">  
          <value>cc=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="bcc">  
          <value>bcc=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="subject">  
          <value>subject=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="attachment">  
          <value>attachment=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="body">  
          <value>body=&apos;%s&apos;</value>  
        </prop>  
      </node>  
      <node oor:name="EnumDelimiters">  
        <prop oor:name="base">  
          <value>,</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="cc">  
          <value>,</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="bcc">  
          <value>,</value>  
        </prop>  
        <prop oor:name="attachment">  
          <value>,</value>  
        </prop>  
      </node>  
    </node>  
  </node>  
</node>
```

以下のファイルに含まれる **ExternalMailer** ノードの例

```
<SO 7>/user/registry/data/org/openoffice/Office/Common.xcu
```

```
<node oor:name="ExternalMailer">  
<prop oor:name="UseDefaultMailer" oor:type="xs:boolean">  
<value>>false</value>  
</prop>  
<prop oor:name="Program" oor:type="xs:string">  
<value>file:///opt/Mozilla/mozilla</value>  
</prop>  
</node>
```

レスポンスファイルによる StarSuite のインストール

ネットワーク上の複数のユーザーに **StarSuite** を手動でインストールし設定するのは、時間のかかる作業です。インストールと設定を手動で行う代わりにレスポンスファイルを使用することができます。これにより、インストールと設定処理を自動化でき、さらに既存のインストールの修復とインストールの削除を実行することができます。レスポンスファイルは、コマンドラインオプションが含まれたテキストファイルです。レスポンスファイルを使用して、以下のことを指定できます。

- **StarSuite** のインストール、修復、設定、またはインストールの削除
- モジュールのインストールまたはインストールの削除
- レスポンスファイルコマンドラインの影響を受けるユーザーまたはユーザーグループ

レスポンスファイルを使用して、**StarSuite** の異なるセットアップ設定を定義することもできます。これにより、パラメータを使用して、設定を特定のユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。同様に、レスポンスファイルにより、`StartofSetup`、`Installation`、および `EndofSetup` の実行時に既定義の基本スクリプトを実行することができます。

以降の節では、ネットワーク上に **StarSuite** をインストールし設定するように設計されている レスポンスファイルの、基本構造とコンポーネントについて説明します。レスポンスファイルから呼び出すことができる基本コマンドの概要と、サンプル レスポンスファイルについても示します。

インストール前

レスポンスファイルで **StarSuite** をインストールするには、以下のものが必要です。

- レスポンスファイル
- **StarSuite** の完全なインストールセット (CD またはネットワークから)
- ワークステーションへのアクセス

レスポンスファイルの作成

ここでは、レスポンスファイルを作成するための概要について説明します。各手順の詳細については、以降の節で説明します。

1. どの種類のインストールを実行するかを決定します。インストール可能な種類の詳細については、**StarSuite** インストールの手引きを参照してください。

インストールモードと種類の定義は、レスポンスファイルの [Environment] セクションの一部で行います。インストール方式を設定するタグは、以下のとおりです。

```
INSTALLATIONMODE  
INSTALLATIONTYPE
```

2. **StarSuite 5.2** のインストールがネットワーク上に存在している場合、レスポンスファイルの [Environment] セクションにタグ `MIGRATION=YES` を追加し、ほかのセットは `MIGRATION=NO` を追加します。
3. レスポンスファイルの [Environment] セクションの `DESTINATIONPATH` タグで、**StarSuite** のインストール場所を定義します。このタグには、動的パスを構築するための変数がいくつかあります。
4. `LANGUAGELIST` タグで、インストール言語を指定します。



`LANGUAGELIST` タグは必須です。このタグで指定できる言語は 1 つのみです。

5. 必要に応じて `STARTPROCEDURE` タグを使用して、インストールの開始時に実行する **StarSuite** の基本プロシージャを指定します。このタグは、プロシージャの名前を使用します。基本プロシージャは、レスポンスファイルの [PROCEDURES] セクションで定義されます。

6. 必要に応じて `ENDPROCEDURE` タグを使用して、インストールの最後に実行する **StarSuite** の基本プロシージャを指定します。このタグは、プロシージャの名前を使用します。基本プロシージャは、レスポンスファイルの `[PROCEDURES]` セクションで定義されます。
7. レスポンスファイルの `[JAVA]` セクションの `JavaSupport` タグを使用して、**StarSuite** での `Java` のインストール方式と使用について指定します。
8. レスポンスファイルの `[PROCEDURES]` セクションで、インストールの開始と終わりに実行される **StarSuite** の基本プロシージャを定義します。

レスポンスファイルのサンプル

```
[ENVIRONMENT]
INSTALLATIONMODE=INSTALL NORMAL
INSTALLATIONTYPE=STANDARD
MIGRATION=NO
DESTINATIONPATH=<home>/StarSuite7
LANGUAGELIST=01
STARTPROCEDURE=
ENDPROCEDURE=

[JAVA]
JavaSupport=preinstalled_or_none

[PROCEDURES]
```

レスポンスファイルの検証

レスポンスファイルを検証するには、次の操作を実行します。

1. インストールの検証用にテストディレクトリを作成します。
2. レスポンスファイルの `DestinationPath` パラメータを、作成したディレクトリのパスに変更します。
3. オペレーティングシステムのシェルを開き、パラメータに レスポンスファイル名を指定して `setup` コマンドを実行します。パラメータ `-debug` を指定すると、詳細なメッセージが出力されます。

```
./setup -r:/opt/responsefile.txt -debug
```
4. テストディレクトリでレスポンスファイルのセットアップの結果を調べます。



`setup` コマンドラインに `-debug` パラメータを指定すると、レスポンスファイルにより生成されたリターンコードをメッセージボックスに表示できます。

詳細については、「レスポンスファイルパラメータによる StarSuite セットアップの起動」(48 ページ) を参照してください。

レスポンスファイルの使用

選択したシェルで、パラメータ `-r` とレスポンスファイル名を StarSuite の `setup` スクリプトに渡します。以下の例を参照してください。

```
./setup -r:/opt/responsefile.txt
```

レスポンスファイルの構造

この節では、StarSuite Setup に必要なレスポンスファイルの構造、使用されるコンポーネント、およびそれらがどのように機能するかについて詳細に説明します。レスポンスファイルには、4 つのセクションがあります (Windows の場合は 5 つ)。

- [Environment]
- [Module_Specify]
- [Java]
- [Procedures]
- [Windows_Desktop_Integration] (Windows のみ)

セクション: [Environment]

Environment セクションには、レスポンスファイルを使用してインストールする場合に必要なすべてのエントリを記述します。これらのエントリは、通常の **StarSuite Setup** セッションでのユーザーアクションに影響します。その一部はパラメータを使用して呼び出すことができます。この目的用に以下のキーが定義されています。

- InstallationMode
- InstallationType
- Migration
- DestinationPath
- LanguageList
- StartProcedure
- EndProcedure

INSTALLATIONMODE

値

INSTALL_NORMAL	ローカルの StarSuite スタンドアロンバージョンをインストールします。
INSTALL_NETWORK	StarSuite のネットワークバージョンをインストールします。
INSTALL_WORKSTATION	既存のネットワークインストールから、ワークステーションバージョンをインストールします。
DEINSTALL	既存の StarSuite インストールを削除します。
REPAIR	StarSuite バージョンを修復します。
REINSTALL	StarSuite バージョンを再インストールします。
MIGRATION	YES に設定した場合、 StarSuite の旧バージョンが見つかりと移行が実行されます。NO に設定するか、キーを省略した場合、移行は実行されません。
PATCH	StarSuite Product Updates は、レスポンスファイルを使用して StarSuite を暗黙に更新できます。

例

```
[Environment]
INSTALLATIONMODE=INSTALL WORKSTATION
INSTALLATIONTYPE=WORKSTATION
...
```

InstallationMode は、レスポンスファイルが実行される汎用コンテキストをセットします。INSTALL_NORMAL、INSTALL_NETWORK、および INSTALL_WORKSTATION の各モードは、初期インストールを実行します。これら 3 つのモードは、実行中に InstallationType に適合します。

INSTALL_WORKSTATION モードは、ネットワークインストールのディレクトリ上で Setup でのみ使用できます。

DEINSTALL、REPAIR、および REINSTALL の各モードは、すでにインストールされているバージョンでのみ使用できます。DEINSTALL および REPAIR には、別の仕様を指定する必要はなく、直ちに実行されます。REINSTALL は、[MODULE_SPECIFY] セクションを評価して、実行するアクションを判断します。

PATCH モードは StarSuite Product Update ファイルでのみ使用できます。StarSuite Product Update をダウンロードして、通常の -R: パラメータを使用して実行可能ファイルを呼び出し、レスポンスファイルを調べます。StarSuite Product Update は、現在インストールされている StarSuite バージョンを更新します。

INSTALLATIONTYPE

値

STANDARD	Setup スクリプトでデフォルトとして定義されているモジュール選択をインストールします。
SPECIFY	[MODULE_SPECIFY] セクションで定義されているモジュール選択をインストールします。
MINIMUM	Setup スクリプトで最小 (minimal) として定義されているモジュール選択をインストールします。
WORKSTATION	小規模ユーザーのワークステーションインストールのみをクライアントにコピーします。

例

```
[Environment]
INSTALLATIONMODE=INSTALL WORKSTATION
INSTALLATIONTYPE=WORKSTATION
...
```

インストールの種類は、INSTALL_* モードでのみ有効です。Setup が INSTALL_WORKSTATION モードの場合、STANDARD タイプは、完全にローカルで実行可能なユーザーバージョンをクライアントにインストールします。一方、WORKSTATION タイプは、小規模ワークステーションインストールのみをインストールします。

MIGRATION

値

Yes	StarSuite 5.2 の構成設定のほとんどを StarSuite 7 に移行します。
No	StarSuite 5.2 の設定の変更は何も移行されません。これは既定値です。

例

```
[Environment]
...
MIGRATION=YES
...
```

説明

StarSuite 5.2 インストールの構成設定のほとんどを StarSuite 7 に移行します。詳細については、*StarSuite 5.2 -> 6.x Migration FAQ* を参照してください。

DESTINATIONPATH

値

/opt/StarSuite7	UNIX で、指定したディレクトリに StarSuite をインストールします。
C:\StarSuite7	Windows で、指定したディレクトリに StarSuite をインストールします。
<firstfree>\StarSuite7	Windows で、ディスクに空き容量が十分にある最初のドライブに StarSuite をインストールします。
<home>/StarSuite7	UNIX で、ユーザーのホームディレクトリに StarSuite をインストールします。Windows の場合は、ユーザーの マイ ドキュメント ディレクトリにインストールします。マイ ドキュメント の正確な名称は、Windows の言語により異なります。

例

```
[Environment]
...
DESTINATIONPATH=<home>/StarSuite7
```

説明

インストール先のパスには、絶対パスを入力するか、**Setup** が置き換える識別子による相対パスを入力できます。<firstfree> は、指定したインストールの種類 (Windows) を格納できる、十分な空きディスク容量を持つ最初のドライブ文字で置き換えられます。<home> は、ホームディレクトリ (UNIX) またはユーザーの マイ ドキュメント ディレクトリ (Windows) で置き換えられます。

LANGUAGELIST

値

番号は、国際電話の国番号に基づきます。以下に例を示します。

国番号	言語
01	英語
49	ドイツ語
33	フランス語
34	スペイン語
39	イタリア語
46	スウェーデン語
81	日本語
82	韓国語
86	簡体字中国語
88	繁体字中国語

例

```
[Environment]
...
LANGUAGELIST=01
...
```

説明

LANGUAGELIST は、StarSuite のインストール言語を指定します。StarSuite のインストールセットは、1つの言語のみをサポートします。StarSuite インストールセットの言語は、このパラメータで指定する必要があります。

STARTPROCEDURE

値

[PROCEDURE] セクションで定義される **StarSuite** の基本プロシージャの名前。

例

```
[Environment]
...
STARTPROCEDURE=myStartProcedure
```

説明

セットアップが、インストールと **StarSuite Setup** スクリプトの `BEFORE_INST` で定義されているプロシージャを開始する前に、`StartProcedure` が実行されます。プロシージャは、[PROCEDURE] セクションで実装される必要があります。

プロシージャは、実行時ライブラリを使用して **StarSuite Basic** で記述する必要があります。説明については、**StarSuite ヘルプ** を参照してください。

ENDPROCEDURE

値

[PROCEDURE] セクションで定義される **StarSuite** の基本プロシージャの名前。

例

```
[Environment]
...
ENDPROCEDURE=myEndProcedure
```

説明

`Setup` スクリプトの `AFTER_INST` で定義されているプロシージャを含み、セットアップが完了したあとで、`EndProcedure` が実行されます。プロシージャは、[PROCEDURE] セクションで実装される必要があります。プロシージャは、実行時ライブラリを使用して **StarSuite Basic** で記述する必要があります。説明については、**StarSuite ヘルプ** を参照してください。

セクション: [Module_Specify]

このセクションを使用して、個々の StarSuite モジュールセットを構成し、それらをインストールプロシージャまたはインストールの削除プロシージャに割り当てます。setup スクリプトに含まれるモジュールは、どのような組み合わせでも定義できます。モジュールには、モジュール名またはモジュール ID のいずれかを使用してアクセスできます。

すべてのモジュール名およびモジュール ID のリストについては、付録の 121 ページを参照してください。



-sdump setup コマンドラインパラメータを使用して、setup スクリプトファイルを作成します。-setup コマンドラインパラメータも参照してください。

MODULSETNAME

値

要素名は、モジュール名またはモジュール ID のコンマ区切りのリストで定義されたモジュールセットの任意の名前です。

例

```
[Module_Specify]
...
mModuleSet=gid_Module_Root,gid_Module_Prg
...
SelectModuleSet=mModuleSet
```

説明

このセクションは、モジュールの論理セットを定義するために使用します。定義された論理セットは、レスポンスファイル内の異なる場所で名前によってアクセスされるか、StarSuite Basic によってアクセスされます。setup スクリプトにリストされているように、自己定義の名前、「=」記号、モジュール名を入力します。モジュール名は 1 行に記述し、コンマで区切る必要があります。SelectModuleSet および DeSelectModuleSet 関数を使用することにより、StarSuite Basic でこれらのモジュールセットにアクセスできます。

すべてのモジュール名およびモジュール ID のリストについては、付録 (121 ページ) を参照してください。

INSTALLMODULESET

値

モジュールセットの名前。

例

```
[Module_Specify]
...
mModuleSet=gid_Module_Root, gid_Module_Prg
...
InstallModuleSet=mModuleSet
...
```

説明

InstallModuleSet は、特定のインストールの種類がこのセクションを参照し、レスポンスファイルの **setup** がインストールコンテキスト (INSTALL_NORMAL、REINSTALL など) に設定されている場合にインストールされるモジュールセットを定義します。

DEINSTALLMODULESET

値

モジュールセットの名前。

例

```
[Module_Specify]
...
mModuleSet=gid_Module_Root, gid_Module_Prg
...
DeInstallModuleSet=mModuleSet
...
```

説明

DeInstallModuleSet は、特定のインストールの種類またはインストールモードがこのセクションを参照し、レスポンスファイルの **setup** がインストール削除コンテキスト (DEINSTALL、REINSTALL) に設定されている場合にインストールが削除されるモジュールセットを定義します。

INSTALLPROCEDURE

値

モジュールセットの名前。

例

```
[Module_Specify]
...
InstallProcedure=myInstallProcedure
...
```

説明

InstallProcedure は、インストールの種類またはインストールモードがこのセクションを参照する場合にインストールされるモジュールを決定するプロシージャです。モジュールセットには、**StarSuite Basic** を使用してアクセスできます。プロシージャは、[Procedures] セクションで実装される必要があります。このセクションで InstallModuleSet が InstallProcedure と共に定義された場合、プロシージャは常に実行されます。

DEINSTALLPROCEDURE

値

モジュールセットの名前。

例

```
[Module_Specify]
...
DeInstallProcedure=MyDeInstallProcedure
...
```

説明

DeInstallProcedure は、インストールの種類またはインストールモードがこのセクションを参照する場合にインストールが削除されるモジュールを決定するプロシージャです。モジュールセットには、**StarSuite Basic** を使用してアクセスできます。プロシージャは、[Procedures] セクションで実装される必要があります。このセクションの DeInstallProcedure で、別の DeInstallModuleSet を定義した場合、プロシージャは常に実行されます。

セクション: [Java]

このセクションを使用して、既存の Java インストールを含めるかどうかを決定します。

JavaSupport

値

none	StarSuite は Java を使用しません。
preinstalled_or_none	StarSuite は、システムにある既存の Java バージョンを使用します。既存のバージョンがない場合、StarSuite は Java バージョンをインストールしません。
newinstall	StarSuite インストールセットに含まれるバージョンの Java Runtime Environment をインストールします。 Java インストールダイアログは、手動で操作する必要があります。

例

```
[JAVA]  
JavaSupport=preinstalled_or_none
```

説明

StarSuite では、事前に Java Runtime Environment v1.4.0 またはそれ以降のバージョンがインストールされている必要があります。Java サポートがないと、データベースクライアントは JDBC 機能を使用できません。また、一部のオートパイロットも動作しません。

セクション: [Procedures]

[PROCEDURES] セクションでは、レスポンスファイル内の異なる場所 (StartofSetup や EndofSetup 間隔など) に割り当てることができる Basic 関数を実装できます。これらの関数は独立しているため、相互に呼び出すことができません。

例:

```
Sub ProcedureName
  Code ...
EndSub

Sub NextProcedureName
  Code ...
EndSub
```

セクション: [Windows_Desktop_Integration]

Microsoft Windows の場合にのみ、いくつかのキーを使用して、Microsoft Office ドキュメントタイプ、または HTML のデフォルトエディタとして StarSuite が登録されるのを抑制できます。

REGISTERFORMSWORD

値

Yes	Microsoft Word ファイルに対して StarSuite を登録します。
No	Microsoft Word ファイルに対して StarSuite を登録しません。

例

```
[Windows_Desktop_Integration]
...
RegisterForMsWord=NO
...
```

説明

StarSuite と Microsoft Word ドキュメントを関連付けます。これは Windows の場合にのみ利用可能です。

REGISTERFORMSEXCEL

値

Yes	Microsoft Excel ファイルに対して StarSuite を登録します。
No	Microsoft Excel ファイルに対して StarSuite を登録しません。

例

```
[Windows_Desktop_Integration]
...
RegisterForMsExcel=NO
```

説明

StarSuite と Microsoft Excel ドキュメントを関連付けます。これは Windows の場合にのみ利用可能です。

REGISTERFORMSPowerPoint

値

Yes	Microsoft PowerPoint ファイルに対して StarSuite を登録します。
No	Microsoft PowerPoint ファイルに対して StarSuite を登録しません。

例

```
[Windows_Desktop_Integration]
...
RegisterForMsPowerPoint=NO
...
```

説明

StarSuite と Microsoft PowerPoint ドキュメントを関連付けます。これは Windows の場合にのみ利用可能です。

REGISTERASDEFAULTHTMLEDITOR

値

Yes	HTML のデフォルトエディタとして StarSuite を登録します。
No	HTML のデフォルトエディタとして StarSuite を登録しません。

例

```
[Windows_Desktop_Integration]
...
RegisterAsDefaultHtmlEditor=NO
...
```

説明

StarSuite を HTML ドキュメントのデフォルトエディタとして登録します。これは Windows の場合にのみ利用可能です。

レスポンスファイルパラメータによる StarSuite セットアップの起動

レスポンスファイルパラメータの 1 つを使用して StarSuite Setup を実行するには、次の手順を実行します。

1. シェルから StarSuite Setup を起動します。
2. 以下のように、必須パラメータを入力します。

```
/opt/StarSuite7/setup -Parameter
```

-sdump

Setup を `sdump (script dump)` パラメータを指定して起動すると、`script.htm` HTML ファイルが作成されます。このファイルには、現在のスクリプトのモジュール階層が含まれています。



Setup を CD から起動した場合、`script.htm` ファイルは、現在選択されているディレクトリに作成されます。このファイルを別のディレクトリに作成する場合は、`-D:path (destination path)` パラメータを指定します。この HTML ファイルは、レスポンスファイルを作成するときに、独自の `ModuleSets` を定義するのに役立ちます。

例:

```
/opt/StarSuite7/setup -sdump [-d:<destination_path>]
```

-debug

このパラメータは、デバッグモードにセットアップをセットします。レスポンスファイルの実行中にエラーが発生した場合、プログラムが終了する前に、該当する終了コードとエラー記述がエラーボックスに表示されます。この機能は、独自のレスポンスファイルを検証する際に役立ちます。

例:

```
/opt/StarSuite7/setup -r:<response_file> [-debug]]
```


StarSuite Basic 関数

[PROCEDURES] セクションでは、StarSuite Basic を使用してプロシージャを作成できます。このプロシージャは、レスポンスファイルの実行時に異なる間隔で呼び出されます。

StarSuite Basic の実行時ライブラリ関数はすべて利用可能であり、以下に示す 2 つの関数も使用できます。これらの関数は、レスポンスファイル内で使用して、直接 StarSuite Setup を扱うことができます。

DirEntry 関数

構文

文字列 DirEntry (文字列のパス 1, 文字列のパス 2, ...)

説明

DirEntry 関数は、いくつかのパスコンポーネントを結合して、その結果を現在のシステム規定に変換します。結果は文字列で表されます。

システム	結果
Windows	D:\StarSuite7\help\01
Unix	/home/StarSuite7/help/01

例

```
Sub DirEntryExample
  Dim strAbsPath As String
  strAbsPath = DirEntry( GetSetupEnv.DestPath, "help", "01" )
  MsgBox strAbsPath
End Sub
```

DefuseRestart 関数

構文

DefuseRestart(ブール型の値)

説明

この関数は、セットアップアプリケーションがシステムを再起動するのを防止します。

True	インストール後に、システムを再起動しません。ユーザーは、マシンを手動で再起動することを求めるメッセージを受け取ります。
False	必要に応じて、インストール後にシステムを再起動します。

例

```
Sub DefuseRestartExample
    DefuseRestart( False )
End Sub
```

GetOS* 関数

構文

```
GetOSFavoritesFolder ()  
GetOSTemplateFolder ()  
GetOSAutostartFolder ()  
GetOSDesktopFolder ()  
GetOSSystemFolder ()
```

説明

これらの関数は、Windows 32 ビット環境で使用される一連のシステムディレクトリを決定します。

例

```
Sub GetWinDirectoriesExample  
    sfavFolder=GetOSFavoritesFolder ()  
    sTmpFolder=GetOSTemplateFolder ()  
    sAutoStart=GetOSAutostartFolder ()  
    sDeskFolder=GetOSDesktopFolder ()  
    sSysFolder=GetOSSystemFolder ()  
End Sub
```

getSetupEnv オブジェクト

構文

```
GetSetupEnv.SourcePath  
GetSetupEnv.DestPath  
GetSetupEnv.ProductName  
GetSetupEnv.InstallMode  
GetSetupEnv.InstallType
```

説明

このオブジェクトは、5つの属性を提供し、セットアップの実行時に現在の環境を決定します。これらの属性は、動的レスポンスファイルの構築に役立ちます。

属性名	説明
SourcePath	StarSuite インストールファイルへのパスを示す文字列を返します。StarSuite インストールセットのファイルはすべて、パスで指定されたディレクトリにあります。
DestPath	StarSuite インストールの宛先を示す文字列を返します。setup は、このディレクトリに StarSuite をインストールします。
ProductName	インストールセットの名前とリリース番号を返します。製品名は、名前とリリース番号で示されます。StarSuite 7 のインストールセットを表す文字列「StarSuite 7」を返します。
Installmode	現在のインストールモードを表す文字列を返します。インストールの種類とインストールモードは、レスポンスファイル内の [Environment] セクションで、INSTALLATIONTYPE と INSTALLATIONMODE 属性によって定義されます。 可能なモードは以下のとおりです。 IM_STANDARD IM_NETWORK IM_WORKSTATION IM_INVALID
Installtype	現在のインストールの種類を表す文字列を返します。インストールの種類とインストールモードは、レスポンスファイル内の [Environment] セクションで、INSTALLATIONTYPE と INSTALLATIONMODE 属性によって定義されます。 可能な種類は以下のとおりです。 IT_MINIMAL IT_MAXIMAL IT_USERDEFINED IT_WORKSTATION IT_CHANGE IT_RECOVER IT_UNINSTALL IT_INVALID

例

```
Sub GetWinDirectoriesExample
  sSourcePath=getSetupEnv.SourcePath
  sDestPath=GetSetupEnv.DestPath
  sProName=GetSetupEnv.ProductName
  If GetSetupEnv.Installmode = "IM_STANDARD" Then
    MsgBox "The setup installs StarSuite in the Standard mode"
  End If
  If GetSetupEnv.Installtype = "IM_MINIMAL" Then
    MsgBox "with a minimum on program modules"
  End If
End Sub
```

SetDestinationPath 関数

構文

SetDestinationPath(文字列のパス)

説明

DestinationPath エントリは、セットアップの実行時に宛先パスを定義する自己定義の変数を許可しません。**SetDestinationPath** 関数は、DestinationPath エントリの値を無効にします。この関数は、STARTPROCEDURE の一部として使用します。

この関数は、StarSuite がインストールされるオペレーティングシステムの表記法のパスを想定します。

システム	ディレクトリ
Windows	D:\StarSuite7\
Unix	/home/StarSuite7/

例

```
Sub myStartProcedure
  SetDestinationPath( "/home/StarSuite7" )
End Sub
```

SetReboot 関数

構文

SetReboot (ブール型の値)

説明

インストール後に **StarSuite** のセットアップ がマシンの再起動を要求します。
Windows の場合でのみ再起動が必要です。

DefuseRestart () と SetReboot () では、要求メッセージが異なります。
DefuseRestart (True) の場合、マシンを手動で再起動することを求めるメッセージをユーザーに表示しますが、この関数によって再起動が開始されることはありません。SetReboot (False) も同様の機能を提供しますが、ユーザーにメッセージは表示されません。

True	インストール後にマシンを再起動します。
False	マシンを再起動しません。

例

```
Sub SetRebootExample
    SetReboot ( False )
End Sub
```

SetUser* 関数

構文

```
SetUserFirstName ( 文字列データ )  
SetUserLastName ( 文字列データ )  
SetUserID ( 文字列データ )  
SetUserEMail ( 文字列データ )  
SetUserStreet ( 文字列データ )  
SetUserZip ( 文字列データ )  
SetUserStreet ( 文字列データ )  
SetUserCity ( 文字列データ )  
SetUserCompanyname ( 文字列データ )
```

説明

これらの関数は、StarSuite のユーザーデータの値を設定します。パラメータとして文字列を指定する必要があります。

例

```
Sub SetUserDataExample  
    SetUserFirstName ( "Tom" )  
    SetUserLastName ( "Meyer" )  
    SetUserID ( "tm" )  
    SetUserEMail ( "tm@newcompany.com" )  
    SetUserStreet ( "111 Main Street" )  
    SetUserZip ( "52365" )  
    SetUserCity ( "Springfield" )  
    SetUserCompanyname ( "NewCompany" )  
End Sub
```

ShowSetup / HideSetup 関数

構文

```
ShowSetup()  
HideSetup()
```

説明

HideSetup 関数は、レスポンスファイルのセットアップの実行中に、Setup アプリケーションウィンドウを表示しない場合に使用します。ShowSetup 関数は、Setup アプリケーションウィンドウを表示して、インストールの進行状況を表示します。レスポンスファイルによるセットアップの実行では、ユーザーの影響や、パラメータを送受信するこれらの関数の影響を受けません。

例

```
Sub myStartProcedure  
  HideSetup  
  MsgBox "gone!"  
  ShowSetup  
  MsgBox "and back again!"  
End Sub
```


SelectModuleSet / DeSelectModuleSet 関数

構文

```
SelectModuleSet ( 名前 )  
DeSelectModuleSet ( 名前 )
```

説明

SelectModuleSet を使用すると、セットアップで **StarSuite** セットアップモジュールセットを強制的にインストールします。対象モジュールセットは、モジュール名またはモジュール ID をコンマ区切りのリストで定義した任意のモジュールセット名で指定します。詳細については、セクション: [Module_Specify] を参照してください。

例

```
Sub MySelectProc  
    SelectModuleSet ( "MySet_Calc" )  
End Sub
```

SelectModuleByName / DeSelectModuleByName 関数

構文

```
SelectModuleByName ( モジュール名 )  
DeSelectModuleByName ( モジュール名 )
```

説明

この関数は、セットアップ時に **StarSuite** プログラムモジュールを選択または選択解除します。ここでの「選択」は、セットアップでモジュールがインストールされることを意味し、「選択解除」は、セットアップでモジュールがインストールされないことを意味します。対象モジュールは、モジュール名で指定します。すべての **StarSuite** プログラムモジュール名のリストについては、121 ページを参照してください。

例

```
Sub MySelectProc  
    SelectModuleByName( "StarSuite Calc Help" )  
End Sub
```

SelectModuleByID / DeSelectModuleByID 関数

構文

```
SelectModuleByID ( モジュール ID )  
DeSelectModuleByID ( モジュール ID )
```

説明

この関数は、セットアップ時に **StarSuite** プログラムモジュールを選択または選択解除します。ここでの「選択」は、セットアップでモジュールがインストールされることを意味し、「選択解除」は、セットアップでモジュールがインストールされないことを意味します。対象モジュールは、モジュール ID で指定します。すべての **StarSuite** プログラムモジュール ID のリストについては、[121 ページ](#)を参照してください。

例

```
Sub MySelectProc  
    SelectModuleByID( "gid_Module_Prg_Calc_Help" )  
End Sub
```

レスポンスファイルの例

以下の例では、レスポンスファイルを使用して **StarSuite** をインストールするためのオプションについて説明します。この例の各セクションに、定義されている仕様に関する簡単な説明があります。

[Environment]

このセクションを使用して、レスポンスファイルによって制御されるセットアップのフレームワークを定義します。

```
[Environment]
InstallationMode = INSTALL_NORMAL
InstallationType = SPECIFY
DestinationPath = /home/StarSuite7
LanguageList = 01
StartProcedure = MyStartProc
EndProcedure = MyEndProc
```

コメント	
InstallationMode = INSTALL_NORMAL	StarSuite のスタンドアロンバージョンをインストールします。
InstallationType = SPECIFY	[Module_Specify] セクションで定義されているモジュールをインストールします。
DestinationPath = / home/StarSuite7	明示的な宛先パスを指定します。
LanguageList = 01	StarSuite の言語が英語であることを示しています。LanguageList パラメータは必ず指定する必要があります。
StartProcedure = MyStartProc	Setup の開始前に実行するプロシージャとして MyStartProc を指定しています。
EndProcedure = MyEndProc	Setup の実行後に実行するプロシージャとして MyEndProc を指定しています。

[Module_Specify]

このセクションには、モジュールセットを指定します。指定したモジュールセットと直接やり取りしたり、インストールすることもできます。または、[Procedures] セクションに指定されているインストールプロシージャの 1 つを参照することもできます。

```
[Module_Specify]
MySet_Writer_Draw = gid_Module_Prg_Wrt,gid_Module_Prg_Draw
MySet_Calc = gid_Module_Prg_Calc
InstallModuleSet = MySet_Writer_Draw
InstallProcedure = MySelectProc
```

コメント	
MySet_Writer_Draw = gid_Module_Prg_Wrt, gid_Module_Prg_Draw	MySet_Writer_Draw セットのコンポーネントとして、 StarSuite Writer と StarSuite Draw モジュールを指定します。
MySet_Calc = gid_Module_Prg_Calc	MySet_Calc セットのコンポーネントとして StarSuite Calc を定義します。
InstallModuleSet = MySet_Writer_Draw	MySet_Writer_Draw に指定されているすべてのモジュールをインストールします。
InstallProcedure = MySelectProc	MySelectProc インストールプロシージャを実行します。

[Procedures]

Setup 時にさまざまな間隔で実行されるプロシージャを指定します。

MyStartProc

```
[Procedures]
Sub MyStartProc
  sUsername = environ("USER")
  SetDestinationPath( "/usr/SoUserInst/" & sUsername )
  SetUserFirstName ( "Tom" )
  SetUserLastName ( "Meyer" )
  SetUserID ( "tm" )
  SetUserEMail ( "tm@newcompany.com" )
  SetUserStreet ( "111 Main Street" )
  SetUserZip ( "52365" )
  SetUserCity ( "Springfield" )
  SetUserCompanyname ( "NewCompany" )
  ShowSetup
  MsgBox "Start"
End Sub
```

コメント	
Sub MyStartProc	MyStartProc プロシージャの始まり
sUsername = environ("USER")	環境変数 USER の値を判定して、それをローカル Basic 変数の sUsername に代入します。
SetDestinationPath ("/usr/SoUserInst/" & sName)	レスポンスファイルの DESTINATION-PATH エントリの値を上書きします。
SetUserFirstName ("Tom") SetUserLastName ("Meyer") SetUserID ("TM") SetUserEMail ("tm@newcompany.com")	StarSuite インストールのユーザーパラメータを決定します。これらのパラメータは、環境変数を介して実行時に影響します。
ShowSetup	Setup レスポンスファイルの実行中にアプリケーションウィンドウを表示します。
MsgBox "Start"	テキストボックスに「Start」テキストを表示します。
End Sub	MyStartProc プロシージャの終わり

MyEndProc

```
Sub MyEndProc
  HideSetup
  MsgBox "End"
  DefuseRestart (True)
End Sub
```

コメント	
Sub MyEndProc	MyEndProc プロシージャの始まり
HideSetup	StarSuite Setup アプリケーションウィンドウを表示しません。
MsgBox "End"	テキストボックスに「End」テキストを表示します。
DefuseRestart (True)	インストール後に、システムを再起動しません。ユーザーは、マシンを手動で再起動することを求めるメッセージを受け取ります。
End Sub	MyEndProc プロシージャの終わり

MySelectProc

```
Sub MySelectProc
  SelectModuleSet ( "MySet_Calc" )
  EnvVar = Environ( "user" )
  If EnvVar = "OK" Then
    SelectModuleByName ( "StarSuite Calc" )
    rem DeSelectModuleByName ( "StarSuite Calc" )
  Endif
  SelectModuleByID ( "gid_Module_Prg_Image" )
  rem DeSelectModuleByID ( "gid_Module_Prg_Image" )
End Sub
```

コメント	
Sub MySelectProc	MySelectProc プロシージャの始まり
SelectModuleSet ("MySet_Calc")	モジュールを選択します。モジュールは、MySet_Calc コンポーネントによって決定されます。
Rem DeSelectModuleSet ("MySet_Calc")	モジュールが選択解除されている場合は、MySet_Calc コンポーネントが判定されます。
EnvVar = Environ("user")	EnvVar 変数を定義して、環境変数を値として割り当てます。Environ は、StarSuite Basic の実行時ライブラリ関数です。
If EnvVar = "OK" Then	EnvVar を値 OK で要求します。
SelectModuleByName ("StarSuite Calc")	モジュール名で StarSuite Calc モジュールをさらに選択します。
Rem DeSelectModuleByName ("StarSuite Calc")	モジュール名で指定したモジュールを選択解除します。
Endif	If ループを終了します。
SelectModuleByID ("gid_Module_Prg_Image")	モジュール ID でモジュールを選択します。
Rem DeSelectModuleByID ("gid_Module_Prg_Image")	モジュール ID で指定したモジュールを選択解除します。
End Sub	MySelectProc プロシージャの終わり

[Java]

```
[Java]
JavaSupport=preinstalled_or_none
```

コメント	
JavaSupport = preinstalled_or_none	システムに Java バージョンがインストールされている場合は Java がサポートされます。

基本的なレスポンスファイル

以下のレスポンスファイルは、StarSuite のスタンドアロンインストールを開始します。また、Microsoft Office ファイルタイプに StarSuite が割り当てられます。このスクリプトは、Solaris プラットフォームおよび Linux 用に書かれています。

```
[ENVIRONMENT]
INSTALLATIONMODE=INSTALL NORMAL
INSTALLATIONTYPE=STANDARD
MIGRATION=NO
DESTINATIONPATH=<home>/StarSuite7
LANGUAGELIST=01

[JAVA]
JavaSupport=preinstalled_or_none

[Windows Desktop Integration]
RegisterForMsWord=YES
RegisterForMsExcel=YES
RegisterForMsPowerPoint=YES
RegisterAsDefaultHtmlEditor=NO
```

レスポンスファイルのエラーコード

レスポンスファイルを使用したインストール中に Setup がエラーに遭遇した場合、セットアップを終了してエラーコードを起動プログラム (シェル) に返します。セットアップの起動時に `-debug` パラメータを指定した場合、セットアップが終了する前にエラーボックスにリターンコードが表示されます。以下のエラーメッセージがあります。

異常終了	終了コード	エラーメッセージ
Yes	1	resource file cannot be found
Yes	2	response file cannot be found
Yes	3	illegal installation mode
Yes	4	illegal installation type
Yes	5	script version outdated
Yes	6	wrong command line parameter
Yes	7	setup script file cannot be found
Yes	8	script error
Yes	9	INSTALL_INFO flag is missing
Yes	10	UI procedure cannot be found

異常終了	終了コード	エラーメッセージ
Yes	11	no modules accessible
Yes	12	update installation cannot be found
Yes	13	no updates for Try&Buy versions
Yes	14	installation file cannot be found
Yes	15	WORKSTATION type only available on a network installation
Yes	16	error while reading PROCEDURE section
Yes	17	version already installed
Yes	18	<firstfree> wrong system
Yes	19	<home> wrong system
Yes	20	not enough space on the destination drive
Yes	21	invalid destination path
Yes	22	module cannot be found
Yes	23	installed version required for this type
Yes	24	Install procedure cannot be found
Yes	25	installmoduleset cannot be found
Yes	26	De-install procedure cannot be found
Yes	27	De-install module set cannot be found
Yes	28	wrong or invalid license key
Yes	29	Invalid license
No	-	xterm cannot be found
No	-	could not start xterm
No	-	start xterm return error code
No	-	an error occurred while copying a file
No	-	an error occurred while unpacking a file
No	-	an error occurred while creating a directory

ユーザーインターフェースの カスタマイズ

StarSuite は、ほとんどのユーザーインターフェース (UI) 設定を XML 書式で格納します。UI は、該当する XML 設定ファイルを変更することで簡単にカスタマイズできます。たとえば、メニュー項目の数を減らしたり、アイコンを削除するには、UI XML 要素および属性タグを変更します。また、スロット ID を基に設定ファイルを作成してコンパイルすることで、StarSuite プログラムコンポーネントへのアクセスを制限できます。

XML によるユーザーインターフェース の設定

通常、StarSuite UI に関連付けられる XML コンポーネントは、XML ベース言語である XUL (Extensible User Interface Language) によって定義される構成体に対応します。XUL の主な特徴として、UI コンポーネントをある言語から別の言語に、管理者が容易に移行できることが挙げられます。

StarSuite Writer や StarSuite Calc などの各 StarSuite コンポーネントは、ステータスバー、メニュー、アクセラレータ、および文脈依存ツールバー用に、固有の設定ファイルを持ちます。メニューバー、アクセラレータ、ステータスバー、ツールバー、あるいはイベントの UI 設定は、XML ファイルとしてグローバルユーザー設定パッケージまたは StarSuite ドキュメントに格納されます。ファイルの名前は、その内容を表します。たとえば、writerstatusbar.xml には、StarSuite Writer のステータスバー設定が含まれています。

以降の節では、以下の XML 要素とその属性について説明しています。

- メニューバー
- アクセラレータ
- ステータスバー
- ツールバー
- イベント
- イメージ

メニューバーの XML 要素と属性

メニューとは、ユーザーが選択可能なコマンド、属性、または状態のリストです。メニューは、**See-and-Point** 型のインターフェース原理に基づいています。メニューバーは、メニューが置かれる UI 上の領域です。

メニューバーは、それに含まれるその他すべてのメニュー要素のトップレベルコンテナ要素にまたがります。StarSuite XML ファイル書式では、次の基本規則がメニューバーに適用されます。

- `<menu:menuitem>`、`<menu:menuseparator>`、および `<menu:menu>` 要素は、`<menu:menupopup>` 要素に含まれる必要があります。
- `<menu:menubar>` 要素をネストすることはできません。

メニューバー要素の `<menu:menubar>`

`<menu:menubar>` 要素は、StarSuite コンポーネントが使用するメニューバーを表し、メニューバーの内容および属性を定義します。

XML コード:	<code><menu:menubar></code>
規則:	この要素は、ほかのすべてのメニュー要素のコンテナ要素です。
DTD:	<pre><!ELEMENT menu:menubar (menu:menu+)> <!ATTLIST menu:menubar menu:id %menu-id; #REQUIRED xmlns:menu CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/menu"></pre>

以下の属性を `<menu:menubar>` 要素に関連付けることができます。

- ▲ 識別子（「共通のメニューバー属性」の節を参照）

メニュータイトル要素の <menu:menu>

<menu:menu> 要素は、メニューバー上のメニューのタイトルを表します。この要素は、メニューバー上に置くか、あるいはポップアップメニューメニュー内のサブメニューとして置くことができます。

XML コード:	<menu:menu>
規則:	すべてのメニューは、メニューの機能を表す一意の ID を持つ必要があります。
DTD:	<!ELEMENT menu:menu (menu:menupopup)> <!ATTLIST menu:menu menu:id %menu-id; #REQUIRED menu:label %menu-label; #IMPLIED>

以下の属性を <menu:menu> 要素に関連付けることができます。

- 識別子 (「共通のメニューバー属性」の節を参照)
- ラベル (「共通のメニューバー属性」の節を参照)

ポップアップメニュー要素の <menu:menupopup>

<menu:menupopup> 要素は、メニュータイトルをクリックしたときに現れるポップアップボックスを表します。

XML コード:	<menu:menupopup>
規則:	この要素は、メニュー項目、メニュー区切り文字記号、およびサブメニューのコンテナ要素です。
DTD:	<!ELEMENT menu:menupopup (menu:menuitem menu:menuseparator menu:menu)+>

この要素に関連付けられる属性はありません。この要素は、以下の要素を含むことができます。

- <menu:menuitem>
- <menu:menuseparator>
- <menu:menu>

メニュー項目要素の <menu:menuitem>

<menu:menuitem> 要素は、メニュー上のオプションを表します。

XML コード:	<code><menu:menuitem></code>
規則:	すべてのメニュー項目は、項目の機能を表す一意の ID を持つ必要があります。
DTD:	<pre><!ELEMENT menu:menuitem EMPTY> <!ATTLIST menu:menuitem menu:id %menu-id; #REQUIRED menu:helpid CDATA #IMPLIED menu:label %menu-label; #IMPLIED></pre>

以下の属性を <menu:menuitem> 要素に関連付けることができます。

- 識別子（「共通のメニューバー属性」の節を参照）
- ラベル（「共通のメニューバー属性」の節を参照）
- ヘルプ識別子

メニュー項目の属性

ヘルプ識別子属性の menu:helpid

menu:helpid 属性は、メニュー項目のヘルプ識別子を指定します。

XML コード:	<code>menu:helpid</code>
規則:	この属性の値は、メニュー項目のヘルプ識別子を指定する文字列になります。
DTD:	<pre><!ATTLIST menu:menuitem menu:helpid CDATA #IMPLIED></pre>

メニュー区切り記号要素の <menu:menuseparator>

<menu:menuseparator> 要素は、メニュー項目のグループを区切ります。

XML コード:	<menu:menuseparator>
規則:	
DTD:	<!ELEMENT menu:menuseparator EMPTY>

メニューバーのサンプル

以下の例は、1つの File メニューと 1つの New サブメニューを持つメニューバーを示しています。

```
<menu:menubar menu:id="test">
  <menu:menu menu:id="slot:5300" menu:label="~File">
    <menu:menupopup>
      <menu:menu menu:id="slot:5400" menu:label="~New">
        <menu:menupopup>
          <menu:menuitem menu:id="macro:currency/euro"
            menu:label="~Euro converter"/>
        </menu:menupopup>
      </menu:menu>
      <menu:menuitem menu:id="slot:5301" menu:label="~Open"/>
    </menu:menupopup>
  </menu:menu>
</menu:menubar>
```

共通のメニューバー属性

この節で説明する属性は、メニューバー要素に関連付けることができます。

識別子属性の menu:id

menu:id 属性は、現在のメニューコンポーネントを識別する一意の文字列を指定し、実行される操作を定義します。

XML コード:	menu:id
規則:	この属性の値は、メニュー内で一意の文字列にする必要があります。この属性は、アクティブ化されたあとに実行される操作を定義します。この属性の値は通常、機能を表す slot:5503 のようなコマンド URL になります。
DTD:	<!ENTITY % menu:id "CDATA"> <!ATTLIST menu:menuitem menu:id %menu-id; #REQUIRED>

ラベル要素の menu:label

menu:label 属性は、ファイル または 編集 などのメニューまたはメニュー項目上に現れるテキストを指定します。

XML コード:	menu:label
規則:	この属性には、メニューまたはメニュー項目のテキストが含まれます。 特殊文字の「~」を使用してキーを指定すると、ユーザーがそのキーを押すとメニューまたはメニュー項目が起動されます。通常、テキストラベルでは、この文字に下線が付きます。たとえば、「~File」と指定すると、文字 F でメニューが起動されます。
DTD:	<pre><!ENTITY % menu:label "CDATA"> <!ATTLIST menu:menuitem menu:label %menu-label; #IMPLIED></pre>

アクセラレータの XML 要素と属性

アクセラレータは、メニューコマンドをキーボードショートカットにバインドします。これにより、ユーザーはメニュー項目にアクセスする代わりに、一連のキーを押すことでコマンドを実行できます。

StarSuite XML ファイル書式では、次の基本規則がアクセラレータに適用されません。

- すべての <accel:item> 要素を <accel:acceleratorlist> 要素に含める必要があります。
- <accel:acceleratorlist> 要素をネストすることはできません。

アクセラレータのすべての定義は、StarSuite XML ドキュメントのサブドキュメント、あるいはグローバルユーザー設定用の soffice.cfg パッケージに含まれます。

アクセラレータリスト要素の <accel:acceleratorlist>

<accel:acceleratorlist> 要素は、すべてのアクセラレータ項目のコンテナ要素です。

XML コード:	<accel:acceleratorlist>
規則:	アクセラレータ項目はすべて、この要素に埋め込まれます。
DTD:	<!ELEMENT accel:acceleratorlist (accel:item*)> <!ATTLIST accel:acceleratorlist xmlns:accel CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/accel" xmlns:xlink CDATA #FIXED "http://www.w3.org/1999/xlink">

この要素に関連付けられる変更可能な属性はありません。

アクセラレータ項目要素の <accel:item>

<accel:item> 要素は、キーボードショートカットおよび実行するコマンドを指定します。

XML コード:	<accel:item>
規則:	xlink:href および accel:code 属性に値を指定する必要があります。
DTD:	<!ELEMENT accel:item EMPTY> <!ATTLIST accel:item accel:code CDATA #REQUIRED accel:shift %boolean; #IMPLIED accel:mod1 %boolean; #IMPLIED accel:mod2 %boolean; #IMPLIED xlink:href CDATA #REQUIRED>

アクセラレータ項目の属性

以下の属性を <accel:item> 要素に関連付けることができます。

- キーコード
- Shift キー状態
- 修飾語 1 キー状態
- 修飾語 2 キー状態
- コマンド URL

キーボードコマンドコード属性の accel:code

accel:code 属性は、コマンドを起動するためにユーザーが押すキーのキーコードを指定します。

XML コード:	accel:code
規則:	この属性の値は、キーを表す仮想キーコードです。
DTD:	<!ATTLIST accel:item accel:code CDATA #REQUIRED>

以下の表に、使用可能な仮想キーコードを示します。この表に示されているキーのいくつかは、一部のキーボードで利用できません。

KEY_0	KEY_1	KEY_2	KEY_3
KEY_4	KEY_5	KEY_6	KEY_7
KEY_8	KEY_9	KEY_A	KEY_B
KEY_C	KEY_D	KEY_E	KEY_F
KEY_G	KEY_H	KEY_I	KEY_J
KEY_K	KEY_L	KEY_M	KEY_N
KEY_O	KEY_P	KEY_Q	KEY_R
KEY_S	KEY_T	KEY_U	KEY_V
KEY_W	KEY_X	KEY_Y	KEY_Z
KEY_F1	KEY_F2	KEY_F3	KEY_F4
KEY_F5	KEY_F6	KEY_F7	KEY_F8
KEY_F9	KEY_F10	KEY_F11	KEY_F12
KEY_F13	KEY_F14	KEY_F15	KEY_F16
KEY_F17	KEY_F18	KEY_F19	KEY_F20
KEY_F21	KEY_F22	KEY_F23	KEY_F24
KEY_F25	KEY_F26	KEY_DOWN	KEY_UP
KEY_LEFT	KEY_RIGHT	KEY_HOME	KEY_END
KEY_PAGEUP	KEY_PAGEDOWN	KEY_RETURN	KEY_ESCAPE
KEY_TAB	KEY_BACKSPACE	KEY_SPACE	KEY_INSERT
KEY_DELETE	KEY_ADD	KEY_SUBTRACT	KEY_MULTIPLY
KEY_DIVIDE	KEY_POINT	KEY_COMMA	KEY_LESS
KEY_LESS	KEY_GREATER	KEY_EQUAL	KEY_OPEN
KEY_CUT	KEY_COPY	KEY_PASTE	KEY_UNDO
KEY_REPEAT	KEY_FIND	KEY_PROPERTIES	KEY_FRONT
KEY_CONTEXTMENU	KEY_MENU	KEY_HELP	

Shift キー状態属性の accel:shift

accel:shift 属性は、キーボードショートカットを使用するときに **Shift** キーを押す必要があるかどうかを指定します。

XML コード:	accel:shift
規則:	この属性の値は、true または false です。値が true の場合、ショートカットを使用するときにユーザーは Shift キーを押す必要があります。
DTD:	<!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST accel:item accel:shift %boolean; "false">

修飾語 1 キー状態属性の accel:mod1

accel:mod1 属性は、キーボードショートカットを使用するときに修飾語 1 キーが必要かどうかを指定します。修飾語 1 キーは、以下のようにシステムによって異なります。

- Windows = 左または右の **Ctrl** キー
- UNIX = 左または右の **Ctrl** キー
- Mac = コマンドキー

XML コード:	accel:mod1
規則:	この属性の値は、true または false です。
DTD:	<!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST accel:item accel:mod1 %boolean; "false">

修飾語 2 キー状態属性 accel:mod2

accel:mod2 属性は、キーボードショートカットを使用するときに修飾語 2 キーが必要かどうかを指定します。修飾語 2 キーは、以下のようにシステムによって異なります。

- Windows = Alt キー
- UNIX = Alt キー
- Mac = オプションキー

XML コード:	accel:mod1
規則:	この属性の値は、true または false です。
DTD:	<!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST accel:item accel:mod2 %boolean; "false">

コマンド URL 属性の xlink:href

xlink:href 属性は、アクセラレータがアクティブ化されたときに実行するコマンドを指定します。

XML コード:	xlink:href
規則:	
DTD:	<!ENTITY % url "CDATA"> <!ATTLIST xlink:href %url; #REQUIRED>

2つのアクセラレータ項目が含まれたサンプルのアクセラレータリスト

```
<accel:acceleratorlist>  
  <accel:item accel:code="KEY_F4" xlink:href="slot:5501"/>  
  <accel:item accel:code="KEY_Z" accel:mod1="true"  
xlink:href="slot:5701"/>  
</accel:acceleratorlist>
```

ステータスバーの XML 要素と属性

ステータスバーは、通常、ウィンドウ下部に沿って配置されており、ユーザーにステータス情報を提供します。StarSuite XML ファイル書式では、次の基本規則がステータスバーに適用されます。

- `<statusbar:statusbaritem>` 要素は、`<statusbar:statusbar>` 要素内に置く必要があります。
- `<statusbar:statusbar>` 要素をネストすることはできません。

ステータスバーは、StarSuite XML ドキュメントの個別のサブドキュメントとして含まれるか、グローバルユーザー設定用の `soffice.cfg` パッケージに含まれます。

ステータスバー `<statusbar:statusbar>`

`<statusbar:statusbar>` 要素は、ステータスバー項目のコンテナ要素です。

XML コード:	<code><statusbar:statusbar></code>
規則:	すべてのステータスバー項目をこの要素に含める必要があります。
DTD:	<pre><!ELEMENT statusbar:statusbar (statusbar:statusbaritem*)> <!ATTLIST statusbar:statusbar xmlns:statusbar CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/statusbar" xmlns:xlink CDATA #FIXED "http://www.w3.org/1999/xlink"></pre>

ステータスバー項目要素の <statusbar:statusbaritem>

<statusbar:statusbaritem> 要素は、ステータスバーに表示される情報フィールドを表します。

XML コード:	<statusbar:statusbaritem>
規則:	xlink:href 属性に、有効な値を指定する必要があります。
DTD:	<pre><!ELEMENT statusbar:statusbaritem EMPTY> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem xlink:href CDATA #REQUIRED statusbar:align %alignment; #IMPLIED statusbar:style %style; #IMPLIED statusbar:autosize %boolean; #IMPLIED statusbar:ownerdraw %boolean; #IMPLIED statusbar:width %numeric; #IMPLIED statusbar:offset %numeric; #IMPLIED></pre>

ステータスバー項目の属性

以下の属性を <statusbar:statusbaritem> 要素に関連付けることができます。

- ステータス URL
- 配置
- スタイル
- 自動サイズ
- Ownerdraw
- 幅
- オフセット

ステータス URL 属性の xlink:href

xlink:href 属性は、このステータスバー項目について表示する状態を指定します。

XML コード:	xlink:href
規則:	この属性の値は、有効なステータス URL にする必要があります。現在利用可能なコマンド ID のリストについては、付録 (???) ページ) を参照してください。
DTD:	<pre><!ATTLIST statusbar:statusbaritem xlink:href CDATA #REQUIRED></pre>

配置属性の `statusbar:align`

`statusbar:align` 属性は、ステータスバーの境界ボックスに、情報をどのように配置するかを指定します。

XML コード:	<code>statusbar:align</code>
規則:	この属性の値は、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">■ <code>left</code>: 情報は、境界ボックスの左側の枠に揃えられる■ <code>center</code>: 情報は、境界ボックスの中央で揃えられる■ <code>right</code>: 情報は、境界ボックスの右側の枠に揃えられる この属性の既定値は、 <code>center</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % alignment "(left center right)"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:align % alignment; "center"></pre>

スタイル属性 `statusbar:style`

`statusbar:style` 属性は、ステータスバーの境界ボックスに、ステータスバー項目をどのように表示するかを指定します。

XML コード:	<code>statusbar:style</code>
規則:	この属性の値は、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">■ <code>in</code>: 情報は、3D 効果でボックス内に表示される■ <code>out</code>: 情報は、3D 効果でボックス内に表示される■ <code>flat</code>: 情報は、3D 効果なしでフラットボックス内に表示される この属性の既定値は、 <code>in</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % style "(in out flat)"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:style % style; "in"></pre>

自動サイズ属性 `statusbar:autosize`

`statusbar:autosize` 属性は、ステータスバー項目の境界ボックスのサイズが、ステータスバーに合わせて自動的に設定されるかどうかを指定します。

XML コード:	<code>statusbar:autosize</code>
規則:	この属性の値は、 <code>true</code> または <code>false</code> です。値が <code>true</code> の場合、境界ボックスのサイズは、ステータスバーに合わせて自動的に設定されます。値が <code>false</code> の場合、境界ボックスのサイズは <code>statusbar:width</code> 属性によって決定されます。既定値は、 <code>false</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:autosize %boolean; "false"></pre>

Ownerdraw 属性の `statusbar:ownerdraw`

`statusbar:ownerdraw` 属性は、ステータスバー項目を外部関数を使用して表示するかどうか指定します。

XML コード:	<code>statusbar:ownerdraw</code>
規則:	この属性の値は、 <code>true</code> または <code>false</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:ownerdraw %boolean; "false"></pre>

幅属性 `statusbar:width`

`statusbar:width` 属性は、ステータスバー項目の境界ボックスの幅を指定します。

XML コード:	<code>statusbar:width</code>
規則:	この属性は、 <code>statusbar:autosize</code> 属性の値が <code>false</code> に設定されている場合にのみ有効です。 属性の値は、正の値にする必要があります。既定値は、 <code>0</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:width % numeric; "0"></pre>

オフセット属性 `statusbar:offset`

`statusbar:offset` 属性は、ステータスバー項目のテキストが X 軸上でオフセットされる距離を指定します。

XML コード:	<code>statusbar:offset</code>
規則:	この属性の値には、ピクセル単位の数値を指定する必要があります。既定値は、5 ピクセルです。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST statusbar:statusbaritem statusbar:offset % numeric; "5"></pre>

ステータスバーのサンプル

以下の例は、2つの情報フィールドを持つステータスバーを示しています。

```
<statusbar:statusbar>
  <statusbar:statusbaritem xlink:href="slot:10000"
    statusbar:align="center" statusbar:width="35"/>
  <statusbar:statusbaritem xlink:href="slot:21181"
    statusbar:align="left" statusbar:autosize="true"
    statusbar:width="54"/>
</statusbar:statusbar>
```

ツールバーの XML 要素と属性

ツールバーは、最も重要で、頻繁に使用される機能への視覚的なアクセスを提供する UI コンポーネントです。ツールバー上の項目は、それぞれイメージやテキストラベル、あるいはこの両方を表します。

ツールバー要素は、それに含まれるその他すべてのツールバー要素のためのコンテナにまたがります。**StarSuite XML** ファイル書式では、次の基本規則がツールバーに適用されます。

- すべての `<toolbar:toolbaritem>`、`<toolbar:toolbarspace>`、`<toolbar:toolbarbreak>`、および `<toolbar:toolbarseparator>` 要素を `<toolbar:toolbar>` 要素に埋め込む必要があります。
- `<toolbar:toolbar>` 要素をネストすることはできません。
- `<toolbar:toolbarlayouts>` 要素は、**StarSuite** 内部で使用されるすべてのツールバーのレイアウト情報のトップレベルコンテナ要素です。
- `<toolbar:toolbarlayout>` 要素は、`<toolbar:toolbarlayouts>` 要素内に置く必要があります。
- `<toolbar:toolbarlayouts>` 要素をネストすることはできません。

ツールバーのすべての定義は、**StarSuite XML** ドキュメントのサブドキュメント、あるいはグローバルユーザー設定用の `soffice.cfg` パッケージに含まれます。

すべてのツールバーは、追加のレイアウト情報を持ちます。追加のレイアウト情報は、`toolbarlayout.xml` という名前の別のサブドキュメントに格納されています。ツールバーを完全に記述するには、`toolbarlayout.xml` サブドキュメントに有効なエントリが必要になります。

ツールバー要素 <toolbar:toolbar>

<toolbar:toolbar> 要素は、ボタン付きのツールバーと、区切り記号、スペース、改行などの項目を表します。

XML コード:	<toolbar:toolbar>
規則:	
DTD:	<pre><!ELEMENT toolbar:toolbar (toolbar:toolbaritem toolbar:toolbarspace toolbar:toolbarbreak toolbar:toolbarseparator)*> <!ATTLIST toolbar:toolbar xmlns:toolbar CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/toolbar" xmlns:xlink CDATA #FIXED "http://www.w3.org/1999/xlink" ></pre>

次のツールバー要素を <toolbar:toolbar> 要素に含めることができます。

- <toolbar:toolbaritem>
- <toolbar:toolbarspace> (section missing)
- <toolbar:toolbarbreak> (section missing)
- <toolbar:toolbarseparator> (section missing)

ツールバー項目要素の <toolbar:toolbaritem>

<toolbar:toolbaritem> 要素は、ツールバー上のボタンを定義します。ボタンは機能を表します。

XML コード:	<toolbar:toolbaritem>
規則:	
DTD:	<pre><!ELEMENT toolbar:toolbaritem EMPTY> <!ATTLIST toolbar:toolbaritem xlink:href CDATA #REQUIRED toolbar:visible %boolean; "true" toolbar:userdefined %boolean; "false" toolbar:text CDATA #IMPLIED toolbar:width %numeric; "0" toolbar:style CDATA #IMPLIED toolbar:bitmap CDATA #IMPLIED toolbar:helpid CDATA #IMPLIED></pre>

ツールバー項目の属性

以下の属性を <toolbar:toolbaritem> 要素に関連付けることができます。

- コマンド URL
- 可視性
- ユーザー定義
- テキスト
- 幅
- スタイル
- ビットマップ
- ヘルプ識別子

コマンド URL 属性の xlink:href

xlink:href 属性は、ユーザーがツールバー項目を選択すると実行されるコマンドを指定します。

XML コード:	xlink:href
規則:	
DTD:	<!ATTLIST toolbar:toolbaritem xlink:href CDATA #REQUIRED>

可視性属性の toolbar:visible

toolbar:visible 属性は、ユーザーが入力できる最小値を指定します。

XML コード:	toolbar:visible
規則:	この属性の値は、true または false になります。既定値は、true です。
DTD:	<!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST toolbar:toolbaritem toolbar:visible % boolean; "true">

ユーザー定義属性の `toolbar:userdefined`

`toolbar:userdefined` 属性は、ツールバー項目がユーザー定義かどうかを指定します。

XML コード:	<code>toolbar:userdefined</code>
規則:	この属性の値は、 <code>true</code> または <code>false</code> になります。既定値は、 <code>false</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST toolbar:toolbaritem toolbar:userdefined %boolean; "false"></pre>

テキスト属性の `toolbar:text`

`toolbar:text` 属性は、このツールバー項目のテキストを指定します。テキストは、ツールバーのレイアウトスタイルが `text` または `symboltext` に設定されている場合にのみ表示されます。`<toolbar:toolbarlayout>` 要素を参照してください。

XML コード:	<code>toolbar:text</code>
規則:	
DTD:	<pre><!ATTLIST toolbar:text CDATA #IMPLIED></pre>

幅属性の `toolbar:width`

`toolbar:width` 属性は、ツールバー項目の幅を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:width</code>
規則:	この属性の既定値は、 <code>0</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST toolbar:width %numeric; "0"></pre>

スタイル属性の `toolbar:style`

`toolbar:style` 属性は、ツールバー項目の追加のスタイルを指定します。

XML コード:	<code>toolbar:style</code>
規則:	<p>この属性の値は、以下のスタイルのスペース区切りのリストになります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ <code>Radio</code>: この値は、ツールバー項目が項目グループに属することを示す。グループ内の 1 つの項目のみをアクティブにできる■ <code>auto</code>: この値は、ツールバー項目をアクティブと非アクティブで切り替え可能であることを指定する■ <code>left</code>: この値は、ツールバーのレイアウトスタイルが <code>symboltext</code> に設定されている場合にのみ有効です。アイコンは、タスクバーのエントリと同様、テキストの左側に配置されます■ <code>autosize</code>: この値は、ツールバー項目のサイズが自動的に調整されることを指定します■ <code>dropdown</code>: この値は、ツールバー項目が、追加機能用のドロップダウンメニューまたはツールバーをサポートすることを指定します■ <code>repeat</code>: この値は、マウスボタンをクリック & ホールドしている間、コマンドを実行し続けることを指定します <p>この属性の既定値は、空の文字列になります。</p>
DTD:	<code><!ATTLIST toolbar:style CDATA #IMPLIED></code>

ビットマップ属性の toolbar:bitmap

toolbar:bitmap 属性は、ツールバー項目のユーザー定義ビットマップの名前を指定します。現行では、ビットマップファイルは、ツールバーサブドキュメントに隣接して配置する必要があります。

XML コード:	toolbar:bitmap
規則:	この属性の値は、空にするか、イメージファイルの名前を指定します。
DTD:	<!ATTLIST toolbar:bitmap CDATA #IMPLIED>

ヘルプ識別子属性の toolbar:helpid

toolbar:helpid 属性は、任意指定のヘルプ識別子を指定します。通常、xlink:href は、ヘルプテキストとツールバー項目を関連付けます。この属性は、追加ヘルプテキストとツールバー項目を関連付けます。

XML コード:	toolbar:helpid
規則:	
DTD:	<!ATTLIST toolbar:helpid CDATA #IMPLIED>

以下に、2つのツールバー項目、1つの区切り記号、追加のツールバー項目が含まれるツールバーのサンプルを示します。

```
<toolbar:toolbar>
  <toolbar:toolbaritem xlink:href="slot:5500"/>
  <toolbar:toolbaritem xlink:href="slot:5596" toolbar:width="300"/>
  <toolbar:toolbarseparator/>
  <toolbar:toolbaritem xlink:href="slot:5962"
    toolbar:style="dropdown"/>
</toolbar:toolbar>
```


ツールバーレイアウト要素の <toolbar:toolbarlayouts>

<toolbar:toolbarlayouts> 要素は、すべての特定のツールバーレイアウト要素のためのトップレベルコンテナ要素です。

XML コード:	<toolbar:toolbarlayouts>
規則:	この要素は、ツールバーレイアウト要素のコンテナ要素です。
DTD:	<!ELEMENT toolbar:toolbarlayouts (toolbar:toolbarlayout*)> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayouts xmlns:toolbar CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/toolbar">

この要素に関連付けられる属性はありません。この要素は、<toolbar:toolbarlayout> 要素を含むことができます。

ツールバーレイアウト要素の <toolbar:toolbarlayout>

<toolbar:toolbarlayout> 要素は、特定のツールバーのレイアウトの詳細を指定します。

XML コード:	<toolbar:toolbarlayout>
規則:	この要素は、<toolbar:toolbarlayouts> 要素に埋め込む必要があります。
DTD:	<!ELEMENT toolbar:toolbarlayout EMPTY> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:id CDATA #REQUIRED toolbar:floatingposleft %numeric; #IMPLIED toolbar:floatingpostop %numeric; #IMPLIED toolbar:floatinglines %numeric; "0" toolbar:dockinglines %numeric; "1" toolbar:align %alignment; "left" toolbar:visible %boolean; "false" toolbar:floating %boolean; "false" toolbar:style %style; "symbol">

ツールバーレイアウト属性

以下の属性を <toolbar:toolbarlayout> 要素に関連付けることができます。

- 識別子
- 可動状態
- 可動位置
- 可動行
- 連結行
- 連結配置
- 可視

スタイル識別子の toolbar:id

toolbar:id 属性は、ツールバーレイアウトエントリの一意の識別子です。この識別子は、対応するツールバー定義の検出に使用されます。たとえば、toolbar:id の値が writerobjectbar の場合、writerobjectbar という名前のファイルが StarSuite インストールの config/soffice.cfg ディレクトリに存在します。

XML コード:	toolbar:id
規則:	この属性には、対応するツールバー定義の xml ファイルを検出できる有効な名前を指定する必要があります。
DTD:	<!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:id CDATA #REQUIRED>

可動状態属性の toolbar:floating

toolbar:floating 属性は、ツールバーの初期状態を指定します。

XML コード:	toolbar:floating
規則:	この属性の既定値は、true または false になります。 値が true の場合、toolbar:floatingposleft および toolbar:floatingpostop 属性がツールバーの初期位置を決定します。 値が false の場合、ツールバーは連結され、toolbar:align 属性が初期連結位置を決定します。
DTD:	<!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:floating % boolean; "false">

可動位置属性の `toolbar:floatingposleft`

`toolbar:floatingposleft` 属性は、ツールバーが可動状態のときに、ツールバーの初期左位置を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:floatingposleft</code>
規則:	この属性は、 <code>toolbar:floating</code> 属性の値が <code>true</code> の場合にのみ有効です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:floatingposleft %numeric; #IMPLIED></pre>

可動位置属性の `toolbar:floatingpostop`

`toolbar:floatingpostop` 属性は、ツールバーが可動状態のときに、ツールバーの初期のトップ位置を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:floatingpostop</code>
規則:	この属性は、 <code>toolbar:floating</code> 属性の値が <code>true</code> の場合にのみ有効です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:floatingpostop %numeric; #IMPLIED></pre>

可動行属性の `toolbar:floatinglines`

`toolbar:floatinglines` 属性は、ツールバーが可動状態のときに、ツールバーの表示に使用する行数を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:floatinglines</code>
規則:	<code>toolbar:floating</code> 属性の値が <code>true</code> の場合は、この属性に値を割り当てる必要があります。この属性の既定値は、0 です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST form:formatted-text form:min-value CDATA #IMPLIED></pre>

連結行属性の `toolbar:dockinglines`

`toolbar:dockinglines` 属性は、ツールバーが連結される場合に、ツールバーの表示に使用する行数を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:dockinglines</code>
規則:	この属性の既定値は、1 です。
DTD:	<pre><!ENTITY % numeric "CDATA"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:dockinglines %numeric; "1"></pre>

連結配置属性の `toolbar:align`

`toolbar:align` 属性は、ツールバーの初期連結位置を指定します。

XML コード:	<code>toolbar:align</code>
規則:	<p>この属性は、<code>toolbar:floating</code> 属性の値が <code>false</code> の場合にのみ有効です。</p> <p>この属性の値は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ <code>top</code>: ツールバーは、ドキュメントウィンドウの上部で連結される■ <code>bottom</code>: ツールバーは、ドキュメントウィンドウの下部で連結される■ <code>left</code>: ツールバーは、ドキュメントウィンドウの左側で連結される■ <code>right</code>: ツールバーは、ドキュメントウィンドウの右側で連結される <p>この属性の既定値は、<code>left</code> です。</p>
DTD:	<pre><!ENTITY % alignment "(top bottom left right)"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:align % numeric; "1"></pre>

可視性属性の `toolbar:visible`

`toolbar:visible` 属性は、初期状態でツールバーを表示するかどうかを指定します。

XML コード:	<code>toolbar:visible</code>
規則:	この属性の値は、 <code>true</code> または <code>false</code> になります。既定値は、 <code>false</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % boolean "(true false)"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:visible % boolean; "false"></pre>

スタイル属性の `toolbar:style`

`toolbar:style` 属性は、ツールバー項目の表示スタイルを指定します。このスタイルは、ユーザー定義ツールバー項目の表示スタイルには影響しません。`toolbaritem` 属性の説明を参照してください。

XML コード:	<code>toolbar:style</code>
規則:	この属性の値は、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">■ <code>symbol</code>: 標準のツールバー項目は、その項目の機能を表すイメージが付いたボタンで表示される■ <code>text</code>: 標準のツールバー項目は、その項目の機能を説明するテキストが付いたボタンで表示される■ <code>symboltext</code>: 標準のツールバー項目は、その項目の機能を表すイメージとテキストが付いたボタンで表示される この属性の既定値は、 <code>symbol</code> です。
DTD:	<pre><!ENTITY % style "(symbol text symboltext)"> <!ATTLIST toolbar:toolbarlayout toolbar:style % style; "symbol"></pre>

以下に、`functionbar` と `fullscreenbar` という名前の 2 つのツールバーを持つ、ツールバーレイアウト定義のサンプルを示します。

```
<toolbar:toolbarlayouts>
  <toolbar:toolbarlayout toolbar:id="functionbar"
    toolbar:align="top" toolbar:visible="true"
    toolbar:style="symbol"/>
  <toolbar:toolbarlayout toolbar:id="fullscreenbar"
    toolbar:align="top" toolbar:visible="true"
    toolbar:floating="false" toolbar:style="symbol"/>
</toolbar:toolbarlayouts>
```

イベントの XML 要素と属性

イベントを使用すると、特定のアクションが発生したときにマクロを実行できます。たとえば、ドキュメントを開いた場合、このアクションにより、特定の単語でドキュメントを検索するマクロを実行できます。StarSuite XML ファイル書式では、次の基本規則がイベントに適用されます。

- すべてのイベントを <event:events> コンテナ要素に埋め込む必要があります。
- イベントをネストすることはできません。

グローバルコンテキスト内に定義されているイベントは、**user/configuration** ディレクトリにある **soffice.cfg** パッケージに、サブドキュメントとして格納されます。

イベント要素の <event:events>

<event:events> 要素は、すべての要素のトップレベルコンテナ要素です。

XML コード:	<event:events>
規則:	
DTD:	<pre><!ELEMENT event:events (event:event*)> <!ATTLIST event:events xmlns:event CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/event"> <!ATTLIST event:events xmlns:xlink CDATA #FIXED "http://www.w3.org/1999/xlink"></pre>

<event:events> 要素に関連付けられる属性はありません。

イベント要素の <event:event>

<event:event> 要素は、イベントを定義します。

XML コード:	<event:event>
規則:	
DTD:	<pre><!ELEMENT event:event EMPTY> <!ATTLIST event:event event:name CDATA #REQUIRED event:language CDATA #REQUIRED event:library CDATA #REQUIRED event:macro-name CDATA #REQUIRED xlink:type CDATA #FIXED "simple" xlink:href CDATA #IMPLIED></pre>

イベント属性

以下の属性を `<event:event>` 要素に関連付けることができます。

- 名前
- 言語
- ライブラリ
- マクロ名
- ライブラリが存在する任意指定の URL

名前属性の `event:name`

`event:name` 属性は、マクロを起動するときに必ず発生するイベントの名前を指定します。

XML コード:	<code>event:name</code>
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<code><!ATTLIST event:event event:name CDATA #REQUIRED></code>

言語属性の `event:language`

`event:language` 属性は、マクロの記述に使用する言語を指定します。**StarSuite XML** が現在サポートする言語は、**StarSuite Basic** のみです。

XML コード:	<code>event:name</code>
規則:	この属性には値を指定する必要があります。 StarSuite XML が現在サポートする値は、 StarSuite Basic のみです。
DTD:	<code><!ATTLIST event:event event:language CDATA #REQUIRED></code>

ライブラリ属性の `event:library`

`event:library` 属性は、マクロを格納するライブラリを指定します。

XML コード:	<code>event:library</code>
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<code><!ATTLIST event:event event:library CDATA #REQUIRED></code>

マクロ名属性の event:macro-name

event:macro-name 属性は、マクロの名前を指定します。

XML コード:	event:macro-name
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<!ATTLIST event:event event:macro-name CDATA #REQUIRED>

以下に、アプリケーションの起動時に実行されるマクロ用に 1 つのグローバルイベント定義を持つイベントを示します。

```
<event:events>
  <event:event event:name="OnStartApp" event:language="StarBasic"
    event:library="StarSuite"
    event:macro-name="Tools.Strings.CheckDouble"/>
</event:events>
```

イメージの XML 要素と属性

ツールバーボタンやメニュー項目に、カスタムイメージを使用することができます。イメージを使用することで、ユーザーは、ボタンやメニュー項目の機能を簡単に識別できます。StarSuite XML ファイル書式では、次の基本規則がイメージに適用されます。

- イメージコンテナ要素は、それに埋め込まれるその他すべてのイメージ要素のトップレベルコンテナ要素にまたがります。
- 内部イメージと外部イメージを含むすべてのイメージを、トップレベルコンテナ要素に埋め込む必要があります。
- エントリはイメージエントリに埋め込み、外部エントリは外部イメージ要素に埋め込む必要があります。これらを混合することはできません。
- イメージコンテナは多数の内部イメージ要素を持つことができますが、外部イメージ要素は 1 つしか持つことができません。
- イメージまたは外部イメージをネストすることはできません。

イメージコンテナ要素の <image:imagescontainer>

<image:imagescontainer> 要素は、すべてのイメージ定義のトップレベルコンテナです。

XML コード:	<image:imagescontainer>
規則:	
DTD:	<!ELEMENT image:imagescontainer (image:image*, image:externalimages?)> <!ATTLIST image:imagescontainer xmlns:image CDATA #FIXED "http://openoffice.org/2001/image" xmlns:xlink CDATA #FIXED "http://www.w3.org/1999/xlink">

<image:imagescontainer> 要素に関連付けられる属性はありません。

イメージ要素の <image:images>

<image:images> 要素は、1 つ以上のイメージを含む内部ビットマップ用のコンテナを定義します。

XML コード:	<image:images>
規則:	xlink:href 属性に、有効な値を指定する必要があります。
DTD:	<!ELEMENT image:images (image:entry*)> <!ATTLIST image:images xlink:href %uriReference; #REQUIRED xlink:type CDATA #FIXED "simple" image:maskmode %maskMode; "maskcolor" image:maskcolor %color; "#000000" image:maskurl %url; #IMPLIED>

イメージ属性

以下の属性を <image:images> 要素に関連付けることができます。

- 参照
- マスクモード
- マスクカラー
- マスクのビットマップ

参照属性の xlink:href

xlink:href 属性は、イメージの URI (Uniform Resource Identifier) を指定します。この属性は、1 つ以上のイメージを含むことができます。

XML コード:	xlink:href
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<pre><!ENTITY % uriReference "CDATA"> <!ATTLIST image:images xlink:href %uriReference; #REQUIRED></pre>

マスクモード属性の image:maskmode

image:maskmode 属性は、イメージのマスクモードを指定します。

XML コード:	image:maskmode
規則:	この属性の値は、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• maskbitmap: イメージは、マスクとして使用されるイメージを持つ別のビットマップを含む• maskcolor: 色は透明色として使用される この属性の既定値は、maskcolor です。
DTD:	<pre><!ATTLIST event:event event:language CDATA #REQUIRED></pre>

マスクカラー属性の image:maskcolor

image:maskcolor 属性は、透明色としてレンダリングされる色を指定します。

XML コード:	image:maskcolor
規則:	この属性の値は、image:maskmode 属性の値が maskcolor の場合にのみ有効です。 属性の値は、#rrggbb の書式で指定する必要があります。また、3 色の値は 16 進数にする必要があります。 既定値は、#000000 (黒) です。
DTD:	<pre><!ENTITY % color "CDATA"> <!ATTLIST image:images image:maskcolor %color; "#000000"></pre>

マスクのビットマップ属性の image:maskbitmap

image:maskbitmap 属性は、埋め込みイメージを持つ別のビットマップを指定します。このビットマップは、xlink:href で参照されるイメージのマスクとして使用されます。

XML コード:	image:maskurl
規則:	この属性の値は、image:maskmode 属性の値が maskbitmap の場合にのみ有効です。
DTD:	<!ENTITY % url "CDATA"> <!ATTLIST image:maskurl %url; IMPLIED>

エントリ要素の <image:entry>

<image:entry> 要素は、親要素の <image:images> によって指定される内部ビットマップに埋め込まれる 1 つのイメージを定義します。

XML コード:	<image:entry>
規則:	image:command および image:bitmap-index 属性が必要です。
DTD:	<!ELEMENT image:entry EMPTY> <!ATTLIST image:entry image:command %url; #REQUIRED image:bitmap-index CDATA #REQUIRED>

エントリ属性

以下の属性を <image:entry> 要素に関連付ける必要があります。

- コマンド URL
- ビットマップインデックス

コマンド URL 属性の image:command

image:command 属性は、イメージにバインドされるコマンドの URL を指定します。

XML コード:	image:command
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<!ENTITY % url "CDATA"> <!ATTLIST image:command %url; #REQUIRED>

ビットマップインデックス属性の image:bitmap-index

image:bitmap-index 属性は、内部ビットマップに埋め込まれるイメージへのインデックスを指定します。イメージは親コンテナ要素の <image:images> によって指定されます。

XML コード:	image:bitmap-index
規則:	この属性には、正の整数値を指定する必要があります。
DTD:	<!ATTLIST image:entry image:bitmap-index CDATA #REQUIRED>

外部イメージ要素の <image:externalimages>

<image:externalimages> 要素は、外部ビットマップのコンテナ要素です。

XML コード:	<image:externalimages>
規則:	<image:imagescontainer> 要素に含まれる <image:externalimages> 要素は 1 つだけです。
DTD:	<!ELEMENT image:externalimages (image:externalentry*)>

<image:externalimages> 要素に関連付けられる属性はありません。この要素は、以下の要素を含むことができます。

- <image:externalimages> (次の節を参照)

外部エントリ要素の <image:externalentry>

<image:externalentry> 要素は、外部ビットマップを参照するイメージエントリを定義します。

XML コード:	<image:externalimages>
規則:	この要素は、<image:externalimages> 要素に含まれる必要があります。 image:command および xlink:href 属性が必要です。
DTD:	<!ELEMENT image:externalentry EMPTY> <!ATTLIST image:externalentry image:command %url; #REQUIRED xlink:href %uriReference; #REQUIRED xlink:type CDATA #FIXED "simple">

外部イメージ属性

以下の属性を <image:externalentry> 要素に関連付ける必要があります。

- コマンド URL
- 参照

コマンド URL 属性の image:command

image:command 属性は、イメージにバインドされるコマンドの URL を指定します。

XML コード:	image:command
規則:	この属性には値を指定する必要があります。
DTD:	<!ENTITY % url "CDATA"> <!ATTLIST image:command %url; #REQUIRED>

参照属性の xlink:href

xlink:href 属性は、ビットマップの URI を指定します。ビットマップは、画面上でレンダリングされる時に正しい寸法にスケールされます。

XML コード:	image:bitmap-index
規則:	この属性には、正の整数値を指定する必要があります。
DTD:	<!ATTLIST image:entry image:bitmap-index CDATA #REQUIRED>

イメージ設定のサンプル

以下の例では、内部イメージリストと外部イメージリストをそれぞれ 1 つずつ含むイメージ設定を示しています。これら両方のリストには、2 つのイメージエントリが含まれています。

```
<image:imagescontainer>
  <image:images xlink:href="/bitmaps/functionbar.bmp
    image:maskcolor=#808080>
    <image:entry image:command="slot:5500" image:bitmap-index="0"/>
    <image:entry image:command="slot:5510" image:bitmap-index="1"/>
  </image:images>
  <image:externalimages>
    <images:externalimage image:command="slot:5400"
      xlink:href="file:///bitmaps/file_new.bmp"/>
    <images:externalimage image:command="slot:5401"
      xlink:href="file:///bitmaps/file_save.bmp"/>
  </image:externalimages>
</image:imagescontainer>
```

StarSuite 機能の制限

StarSuite プログラムモジュールの機能は、制限することができます。

一般的な制限は、ネットワークインストールのすべてのユーザーに適用されます。ユーザー制限は、個々のユーザーまたはユーザーグループに適用されます。したがって、ユーザーごとに異なる制約を適用することができます。

これを行うには、StarSuite Configuration Manager を使用するか、スロット設定ファイルを手動で作成します。StarSuite Configuration Manager のインストールと使用方法については、Enterprise Customer CD に含まれる別のドキュメントで説明されています。



ユーザースロット設定は、一般的なスロット設定を無効にします。

スロット設定ファイルの作成

スロット設定ファイルは、以下の 3 段階のプロセスで作成します。

- 制限する機能のスロットコマンド名を決定する
- コマンド名のリストを登録した XML ベースの設定ファイルを作成する
- StarSuite ツリー内の設定ファイルをコピーする

スロット設定ファイルを作成する

1. 制限する機能のスロットコマンド名を決定します。



StarSuite のすべてのスロットコマンド名のリストについては、このマニュアルの付録 (??? ページ) を参照してください。スロットコマンド名のリストは、StarSuite モジュールごとに分類されています。機能または機能グループの簡単な説明が、コマンド名ごとに提供されています。

2. Commands.xcu という名前 XML ベースの設定ファイルを作成します。専用の XML エディタまたは任意のテキストエディタを使用できます。

設定ファイルの構造は、以下のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<oor:node oor:name="Commands" oor:package="org.openoffice.Office"
xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <node oor:name="Execute">
    <node oor:name="Disabled">
      <node oor:name="CommandName" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>CommandName</value>
        </prop>
      </node>
    </node>
  </node>
</oor:node>
```

設定ファイルのスキーマファイルは、以下のようになります。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<oor:component-schema oor:name="Commands"
oor:package="org.openoffice.Office" xml:lang="en-US"
xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <templates>
    <group oor:name="CommandType">
      <prop oor:name="Command" oor:type="xs:string"/>
    </group>
  </templates>
  <component>
    <group oor:name="Execute">
      <set oor:name="Disabled" oor:node-type="CommandType"/>
    </group>
  </component>
</oor:component-schema>
```

3. それぞれに対して、制限するスロットコマンド名、名前としてコマンド名を持つ個別のノード、および値を追加します。終了したらファイルを保存します。

Commands.xcu ファイルの例

```
?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<oor:node oor:name="Commands" oor:package="org.openoffice.Office"
xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <node oor:name="Execute">
    <node oor:name="Disabled">
      <node oor:name="About" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>About</value>
        </prop>
      </node>
      <node oor:name="ActiveHelp" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>ActiveHelp</value>
        </prop>
      </node>
    </node>
  </node>
</oor:node>
```

スロット設定ファイルのコピー

コンパイル済みのスロット設定ファイルは、StarSuite 7 を実行する任意のプラットフォームでアクティブにできます。スロット設定は、単一のワークステーションインストールまたはネットワークインストールに適用できます。

スロット設定ファイルをアクティブにする

次のいずれかの操作を行います。

- ネットワーク上のすべてのユーザー用に、Commands.xcu ファイルを以下のディレクトリにコピーします。

```
<SO network dir>/share/registry/data/org/openoffice/Office
```

- ネットワーク上の特定のユーザー用に、Commands.xcu ファイルを以下のディレクトリにコピーします。

```
<SO workstat dir>/user/registry/data/org/openoffice/Office
```



詳細については、第 ?? 章 (??? ページ) を参照してください。StarSuite ネットワークインストールのディレクトリ構造に関する詳細について説明されています。



再起動前に、Windows プラットフォームのシステムトレイにある Quick-starter も含むすべての StarSuite 7 プログラムが終了していることを確認してください。

スロット設定の例

シナリオ:ユーザーが StarSuite メニューおよびツールバーをカスタマイズするのを防止したいとします。このカスタマイズ機能には、ツール → ユーザー設定 → メニュー からアクセスするか、任意のツールバーで右クリックして 設定 または カスタマイズ を選択することでアクセスできます。

メニューのカスタマイズを無効化するには、以下の手法を使用します。

1. メニューカスタマイズに関連付けられているスロットコマンド名を見つけます。

メニューカスタマイズ機能は、すべてのプログラムモジュールで利用可能です。スロットコマンド名を見つけるには、??? (??? ページ) の Base コンポーネントの次の項目を参照してください。

名前	コマンド名
Configure Dialog	ConfigureDialog
Load Toolbox	LoadToolBox

次のエントリで Commands.xcu ファイルを作成して保存します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<oor:node oor:name="Commands" oor:package="org.openoffice.Office"
xmlns:oor="http://openoffice.org/2001/registry"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <node oor:name="Execute">
    <node oor:name="Disabled">
      <node oor:name="ConfigureDialog" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>ConfigureDialog</value>
        </prop>
      </node>
      <node oor:name="ConfigureToolboxVisible" oor:op="replace">
        <prop oor:name="Command">
          <value>LoadToolBox</value>
        </prop>
      </node>
    </node>
  </node>
</oor:node>
```

2. この例では、スロット設定はすべてのユーザーに有効にする必要があります。したがって、コンパイルした `Commands.xcu` を以下のディレクトリにコピーします。
`<SO network dir>/share/registry/data/org/openoffice/Office`
3. 任意の **StarSuite** モジュールを開始して、設定を検証します。メニューカスタマイズオプションは、利用できなくなっています。

StarSuite Configuration Manager



StarSuite Configuration Manager のインストールおよび使用方法に関する情報および説明については、『StarSuite Configuration Manager 1.0 インストールと使用方法』を参照してください。

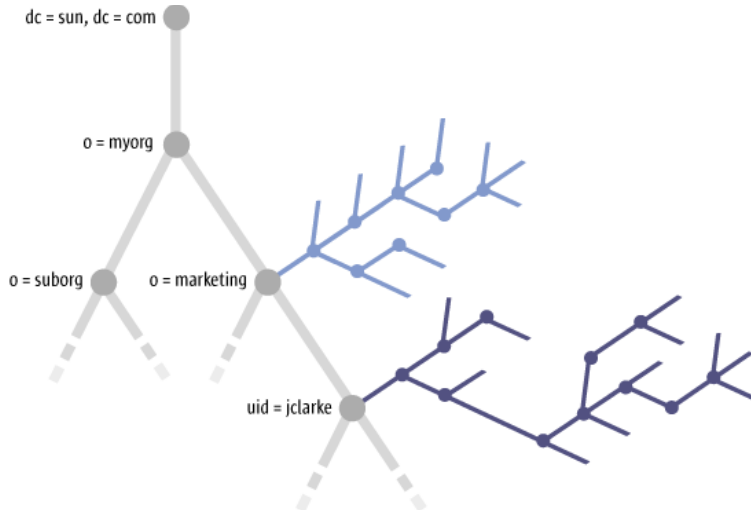
StarSuite Configuration Manager (SCM) は、StarSuite 設定およびユーザー設定を中央で管理できるようにする Web アプリケーションです。StarSuite Configuration Manager では、LDAP ディレクトリを使用して、組織の StarSuite Enterprise の設定を表示または変更することができます。このため、各マシン上で設定をローカルに管理する必要がありません。

概念

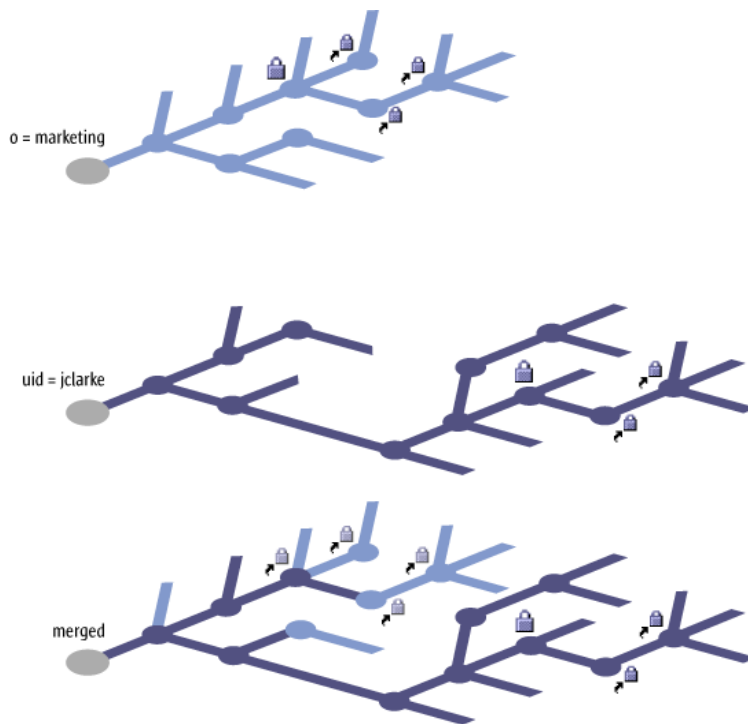
SCM (StarSuite Configuration Manager) を使用する上で設定データの構成方法を知ることは非常に重要です。設定データは、2つの構造から成ります。

- 1 つめの構造は LDAP 構造で (通常、すでに存在しています)、組織、役割、ユーザーなどのエンティティから成る、企業の内部を反映する組織的構造です。
- 2 つめの構造は StarSuite の設定構造で、構成設定を含む要素から成ります。最上位レベルでは、要素はコンポーネントにまとめられています。各コンポーネントは特定のアプリケーションに対応する要素 (StarSuite Writer 関連の設定など) を表します。要素は、ツリー構造で階層的に編成され、特定の構成設定がパスで示されます。

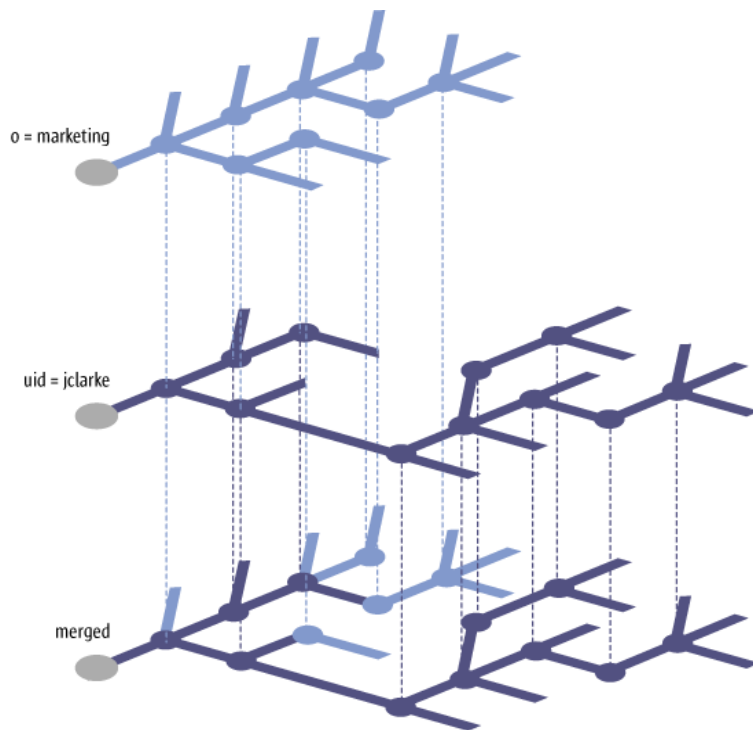
StarSuite の設定データは、LDAP 構造にシームレスに統合されるため、既存の LDAP 構造を再利用することにより、セキュリティとデータの階層的な管理が容易になります。これは、初期の設定構造 (ルートレイヤーまたはデフォルトレイヤーと呼ばれる) をいったん挿入し、このデフォルトレイヤーでのエンティティ固有の変更を、LDAP ツリーのどの LDAP エンティティにも保存できるようにすることで実現しています。この StarSuite の設定ツリーは LDAP エンティティに接続されるため、「(StarSuite の設定) ツリーを含む (LDAP) ツリー」が作成されます。



ある LDAP エンティティに対する実質的に有効な StarSuite 設定は、ルートレイヤーから始まる LDAP 階層をたどって、対象の LDAP エンティティに至るまでの設定レイヤーをすべて統合することで得られます。ある LDAP エンティティ (例、o=marketing と定義される組織) に関連付けられたレイヤー中で発生した StarSuite の設定変更は、後続のレイヤーで別の指定がない限り、その組織に属する LDAP エンティティ (例、uid=jclarke と定義されるユーザー) に関連付けられているすべての StarSuite の設定レイヤーに継承されます。



このメカニズムは、純粋な設定データのみならず、セキュリティ特性にもあてはまります。つまり、`o=marketing` のレイヤー内の構成設定の 1 つに「保護」のセキュリティ属性を指定すると、すべての下位レイヤーでこの設定が読み取り専用となります。さらにその保護特性は、この保護された設定より下位にあるすべての **StarSuite** 設定データに継承されます。このようにして保護された設定より下位にあるすべての **StarSuite** の構成設定は保護され、下位レイヤーのすべての設定が読み取り専用となります。



StarSuite Configuration Manager は組織の組織階層を横断して、すべての LDAP エンティティに関連する構成設定を表示し、設定することができます。

付録

本付録には、UNIX におけるプリンタ、FAX、PDF 出力、およびフォントの設定に関して、StarSuite インストールの手引きから抜粋した節が含まれています。また、スロット ID およびレスポンスファイルでの作業で、参照する表もあります。

UNIX でのプリンタ、FAX、およびフォントの設定

UNIX では、StarSuite で使用するプリンタ、FAX、およびフォントのセットアップに、プリンタ管理プログラムの `spadmin` を使用できます。

プリンタ管理プログラム `spadmin` は、次のようにして呼び出します。

- StarSuite7/program ディレクトリに移動します。
- 次のように入力します: `./spadmin`

プリンタ管理プログラム `spadmin` が起動すると、このプログラムのウィンドウが現れます。このウィンドウで、重要な設定をすべて行えます。

ネットワークインストールの実行時に、システム管理者は、最初にユーザー `root` としてログオンし、プリンタ管理プログラム `spadmin` を呼び出します。次に、システム管理者は、すべてのユーザー用に StarSuite7/share/psprint/psprint.conf という名前の汎用プリンタ設定ファイルを作成します。変更内容はすべて、StarSuite のすべてのユーザーに直ちに有効になります。

システム管理者は、ネットワークインストールのすべてのユーザー用にフォントを追加することもできます。ただし、追加したフォントが有効になるのは、StarSuite を再起動したあとです。

プリンタの設定

UNIX の StarSuite がダイレクトサポートを提供するのは PostScript プリンタのみです。ほかのプリンタの場合、「StarSuite のプリンタドライバ」の節で説明する手順に従って設定する必要があります。StarSuite は自動的に各システムキュー用のデフォルトドライバでプリンタを提供します。必要に応じてプリンタをさらに追加できます。

プリンタの追加

1. 新しいプリンタ ボタンをクリックします。
2. プリンタの追加 オプションを選択して、次へ をクリックします。
3. プリンタのドライバを選択します。PostScript プリンタを使用していない場合や、使用しているモデルがリストにない場合は、Generic Printer ドライバを使用するか、以下の手順を実行します。インポート ボタンを使用して新しいドライバを追加できます。また、不要なドライバは削除 ボタンを使用して削除できます (詳細については以下を参照)。次へ をクリックします。
4. プリンタでの印刷に使用するコマンドラインを選択します (たとえば、lp -d my_queue)。次へ をクリックします。
5. プリンタに名前を指定し、これを標準プリンタにするかどうかを決定します。完了 をクリックします。
6. テストページを印刷するには、テストページ をクリックします。テストページの印刷に失敗したか、正しく印刷されなかった場合は、「プリンタ設定の変更」で説明されているすべての設定を調べます。

これで、StarSuite に新しいプリンタが設定されました。

StarSuite のプリンタドライバ

- 非 PostScript 対応のプリンタをインストールする場合、PostScript がそのプリンタ言語に変換されるようにシステムを設定する必要があります。現行の PostScript 変換ソフトウェアである Ghostscript の使用を推奨します。
(<http://www.cs.wisc.edu/~ghost/>)

この場合、Generic Printer を設定する必要があります。また、ページの余白が正しくセットされていることを確認してください。この情報については、以降の節で説明されています。

- PostScript 対応のプリンタを所有している場合は、プリンタを適応させる記述ファイル (PostScript Printer Definition - PPD) を必ずインストールする必要があります。このファイルにより、用紙トレイの選択、両面印刷 (プリンタが対応する場合)、および組み込みフォントを利用できるようになります。汎用プリンタドライバも使用することができます。汎用プリンタドライバには、重要なデータが含まれており、ほとんどのプリンタに適合します。汎用プリンタドライバの場合は、用紙トレイを選択せずにページ余白を正しくセットする必要があります。

一部の PPD ファイルは、デフォルトファイルとしてインストールされます。使用しているプリンタに一致する PPD ファイルがない場合は、

<http://www.adobe.com/products/printerdrivers/> で、さまざまな PPD ファイルを見つけることができます。あるいは、プリンタの製造元に PPD ファイルについて問い合わせます。該当するドライバを解凍して、**spadmin** を使用してシステムに接続します。

新しいプリンタを作成するときに、ドライバをインポートするか削除することができます。

- 新しいドライバをインポートするには、ドライバの選択ダイアログでインポートをクリックします。検索をクリックして、PPD ファイルを解凍するディレクトリを選択します。ドライバの選択 リストボックスで、インストールするプリンタドライバを選択し、**OK** をクリックします。
- プリンタドライバを削除するには、削除対象のプリンタドライバを選択して削除をクリックします。汎用プリンタドライバを削除しないように注意してください。また、ネットワークインストールからドライバを削除すると、同じネットワークインストールを使用するユーザーがこのドライバを使用できなくなることに留意してください。
- プリンタに通常の PostScript フォントよりも多くの組み込みフォントがある場合、これらのフォント用に AFM ファイルを読み込む必要があります。AFM ファイルは、StarSuite インストールの `StarSuite7/share/psprint/fontmetric` ディレクトリにコピーするか、ユーザーインストールの `StarSuite7/user/psprint/fontmetric` ディレクトリにコピーします。AFM ファイルは、以下の場所にあります。

<ftp://ftp.adobe.com/pub/adobe/type/win/all/afmfiles/>

プリンタの名前変更または削除

- インストールされているプリンタ リストボックスからプリンタを選択します。
- 選択したプリンタの名前を変更するには、名前の変更 をクリックします。表示されたダイアログにプリンタの名前を入力して、**OK** をクリックします。プリンタ名には、プリンタおよびアプリケーションを認識できる一意の名前を選びます。プリンタ名は、すべてのユーザーに対して同じ名前を割り当てます。ドキュメントを転送した場合に、ドキュメントの受信者が同じ名前のプリンタを持っていれば指定プリンタが変わらないからです。
- 選択したプリンタを削除するには、削除 をクリックします。標準プリンタやネットワークインストールでシステム管理者によって作成されたプリンタは、このダイアログで削除することはできません。

標準プリンタの選択

- インストールされているプリンタ リストボックスで選択したプリンタを標準プリンタにするには、そのプリンタ名をダブルクリックするか、標準 ボタンをクリックします。

プリンタ設定の変更

プリンタ管理プログラム `spadmin` で、インストールされているプリンタ リストボックスからプリンタを選択して、プロパティ をクリックします。いくつかのタブページが含まれる プロパティ ダイアログが現れます。このダイアログでは、選択したプリンタの PPD ファイルに従って使用される設定を定義できます。

- コマンド 見出しページで、コマンドを選択します。削除 ボタンを使用して、不要なコマンドを削除することができます。
- 用紙 見出しページでは、このプリンタの既定値として使用する用紙サイズや用紙トレイを定義できます。
- デバイス 見出しページでは、プリンタの特殊オプションをアクティブにできます。プリンタが白黒印刷しか対応しない場合、色のグレースケールを選択します。それ以外の場合は、カラーを選択します。グレースケールを選択した結果、きれいに印刷されなかった場合は、色のカラーを選択して、プリンタまたは PostScript エミュレータがどのようにそれを適用するかを確認します。さらにこの見出しページでは、PostScript レベルだけでなく、色描画の精度を設定できます。

- フォントの置換 見出しページでは、コンピュータにインストール済みの各フォントの種類から、プリンタで利用するプリンタフォントの種類を選択できます。これにより、プリンタに送信されるデータボリュームを縮小できます。フォントの置換は、各プリンタ別にオンまたはオフに設定できます。
- 汎用プリンタドライバを使用しているときは、印刷が正しく出力されるように、詳細設定 見出しでページ余白をセットする必要があります。また、コメント フィールドに説明を入力することもできます。入力した説明は、印刷 ダイアログにも表示されます。

一部の設定は、StarSuite のダイアログ 印刷 またはダイアログ プリンタの設定で 属性 ボタンを使用して、ドキュメント別または印刷出力別に設定することができます。

FAX 機能の使用

Efax または HylaFax などの FAX パッケージをコンピュータにすでにインストールしてある場合は、StarSuite で FAX を送信できます。

1. 新しいプリンタ をクリックします。ダイアログ プリンタの追加 が開きます。
2. **fax** 機の設置 を選択します。次へ をクリックします。
3. デフォルトドライバを使用するか、別のプリンタドライバを使用するかを選択します。次へ をクリックします。デフォルトドライバを使用しない場合、適切なドライバを選択して、次へ をクリックします。
4. 次のダイアログに、FAX で通信するためのコマンドラインを入力します。各送信 FAX のコマンドラインで、(TMP) は一時ファイルに置き換えられ、(PHONE) は受信 FAX 機の電話番号に置き換えられます。コマンドライン中に (TMP) がある場合、PostScript コードはファイルで転送されます。それ以外の場合は、標準出力 (パイプとして) に転送されます。次へ をクリックします。
5. 新しい FAX プリンタに名前を指定し、テキストで記される電話番号 (以下を参照) を印刷出力時に消去するかどうかを決定します。完了 をクリックします。

これで、プリンタ (上記手順で作成した) に印刷する操作で、FAX を送信できるようになりました。

ドキュメントに FAX 番号をテキストで入力します。または、アクティブデータベースから、FAX 番号を取得するフィールドに入力することもできます。どの場合でも、FAX 番号の先頭を @@# にし、末尾を @@ にする必要があります。したがって、正しい入力書式は、@@#1234567@@ となります。

電話番号を含むこれらの文字を印刷しない場合は、**Fax** 番号を出力から削除 オプションをアクティブにします。このオプションは、見出しページ コマンド の プロパティ にあります。ドキュメントに電話番号を入力しないと、印刷出力後に、電話番号を求めるダイアログが表示されます。

StarSuite では、デフォルト FAX に FAX を送信するボタンをアクティブにできます。この場合、ファンクションバーを右クリックして、表示するアイコン サブメニューを開き、標準 **Fax** の送信 ボタンをクリックします。ツール → オプション → 文書ドキュメント → 印刷 でこのボタンを押すことにより、使用する FAX を設定できます。

各 FAX に対して 1 つの個別の印刷ジョブを作成するようにしてください。そうしないと、最初の受信者がすべての FAX を受信することになります。ファイル → 差し込み印刷 ダイアログで、プリンタ オプションを選択し、次に 個別印刷ジョブの作成 フィールドを選択します。

フォントのインストール

StarSuite で作業していると、使用しているドキュメントに応じて異なるフォント番号が提供されていることに気づきます。これは、すべてのドキュメントで、すべてのフォントが使用できるとは限らないためです。

- したがって、テキストドキュメントで作業する場合、利用可能なフォントのみがフォント選択ボックスに表示され、印刷にも使用されます。実際に紙に印刷できるフォントのみの使用が想定されるからです。
- HTML ドキュメントまたはオンラインレイアウトでは、画面上で利用可能なフォントのみが提供されます。
- 一方、表計算ドキュメントや図形描画で作業する場合、印刷可能なフォントと画面上に表示されるフォントのすべてを使用することができます。

StarSuite では、画面上の表示と印刷出力が一致するようにしています (WYSIWYG)。フォントの使用に関する問題は、書式 → 文字 を選択して開いたダイアログの下の余白に表示されます。

フォントの追加

追加フォントを StarSuite に統合できます。統合するフォントは、StarSuite でのみ利用可能であり、これらのフォントをインストールしなくてもあらゆる Xserver で使用することができます。フォントをほかのプログラムでも同様に利用可能にするには、通常の手順で Xserver にフォントを追加してください。StarSuite は、PostScript Type1 フォントと TrueType フォント (TrueType Collections を含む) を表示し印刷できます。

StarSuite で追加フォントを統合するには、次の手順を実行します。

1. spadmin を起動します。
2. フォント をクリックします。
3. StarSuite に追加されるすべてのフォントが、現れたダイアログにリスト表示されます。選択したフォントを削除するには 削除 ボタンを使用し、新しいフォントを追加するには 追加 ボタンを使用します。
4. 追加 をクリックします。ダイアログ フォントの追加 が現れます。
5. 追加するフォントが含まれるディレクトリを入力します。「...」ボタンを押して、パスの選択 ダイアログでディレクトリを選択するか、ディレクトリを直接入力します。
6. 指定したディレクトリに含まれるフォントのリストが表示されます。追加するフォントを選択します。すべてのフォントを追加するには、すべて選択 をクリックします。
7. 追加時にソフトリンクのみ格納 チェックボックスを使用すると、フォントを StarSuite ディレクトリにコピーするか、単にシンボリックリンクを作成するかを決定できます。追加するフォントが、CD-ROM など、常に利用可能とは限らないデータ媒体上にある場合は、フォントをコピーする必要があります。
8. **OK** をクリックします。これでフォントが追加されます。

ネットワークインストールの場合は、インストール時にフォントがインストールされます (可能な場合)。ユーザーに書き込みアクセス権がない場合、フォントはユーザーインストールでインストールします。この場合、フォントをインストールしたユーザーのみがそのフォントにアクセスできます。

フォントの削除

フォントを削除するには、次の手順を実行します。

1. spadmin を起動します。
2. フォント をクリックします。
3. StarSuite に追加したすべてのフォントが、現れたダイアログにリストされます。削除するフォントを選択して、削除 をクリックします。

削除できるフォントは、StarSuite に追加したフォントのみです。

フォントの名前変更

StarSuite に追加したフォントは、名前を変更することができます。複数のローカライズされた名前が含まれるフォント (英語名と日本語名など) の場合に、名前を変更できると便利です。さらに読み取り不可の名前を含むフォントもあります。このような名前は、適切な名前に置き換えることができます。

1. spadmin を起動します。
2. フォント をクリックします。
3. 名前を変更するフォントを選択して、名前の変更 をクリックします。
4. 現れたダイアログに新しい名前を入力します。フォントにいくつかの名前がある場合、新しい名前を入力するコンボボックスに、これらの名前が候補名として表示されます。
5. **OK** をクリックします。

名前を変更するフォントを複数選択した場合、選択したフォントごとに 1 つのダイアログが現れます。

TrueType Collection (TTC) を選択している場合、これに含まれるフォントごとに、それぞれダイアログが現れます。

StarSuite インストールセットの モジュール ID リスト

このリストには、StarSuite インストールのすべてのモジュール ID が含まれています。各 ID は、StarSuite インストールのモジュールを表します。モジュール ID は、階層構造で構成されます。モジュール ID の **gid_Module_Prg_Wrt** は、StarSuite Writer のすべてのモジュールを表します。モジュール仕様をより詳細にするには、StarSuite Writer の各モジュールを個別に追加する必要があります。

以下に示すリストは、`-sdump` パラメータ (48 ページを参照) により生成された StarSuite レスポンスファイルのスク립トリストの例に基づいています。自分の StarSuite インストール用に特定のリストを生成することもできます。

リストには、可能なすべての StarSuite プログラムモジュールが含まれます。ただし、モジュール ID のうちいくつかは、すべてのプラットフォームで利用可能でないことに注意してください。たとえば、モジュール CDE 統合 は、Solaris プラットフォームでのみ利用可能です。このモジュールは、Linux または Windows プラットフォームでは使用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
StarSuite 7	gid_Module_Root	435
StarSuite Program Modules	gid_Module_Prg	0
StarSuite Writer	gid_Module_Prg_Wrt	0
Program Module	gid_Module_Prg_Wrt_Bin	13
StarSuite Writer Help	gid_Module_Prg_Wrt_Help	2
StarSuite Writer Templates	gid_Module_Prg_Wrt_Temp	6
StarSuite Writer Samples	gid_Module_Prg_Wrt_Sample	3
Optional Text Filters	gid_Module_Prg_Wrt_Flt	0
Claris Works Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Claris	1
Corel Word Perfect Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfect	0
Corel Word Perfect (Win) 7.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfect7	1
Corel Word Perfect (Win) 7 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfect61	1
Corel Word Perfect (Win) 6.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfect6	1
Corel Word Perfect (Win) 5.X ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfect52	1

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
Corel Word Perfect (Mac) 3 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectmac3	1
Corel Word Perfect (Mac) 2 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectmac2	1
Corel Word Perfect (Mac) 1 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectmac1	1
Corel Word Perfect 7 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos61	1
Corel Word Perfect 6.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos6	1
Corel Word Perfect 5.1 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos51	1
Corel Word Perfect 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos5	1
Corel Word Perfect 4.2 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos42	1
Corel Word Perfect 4.1 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wperfectdos41	1
CTOS DEF Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Ctos	1
DataGeneral CEO Write Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Ceowrite	1
DCA Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dca	0
DCA Revisable Form Text ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dcarevisable	1
DCA with Display Write 5 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dcadispwrite	1
DCA/FFT - Final Form Text ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dcafft	1
DEC Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Decimp	0
DEC DX ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Decdx	1
DEC WPS-Plus Import Filter ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Decwps	1
DisplayWrite Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dispwrt	0
DisplayWrite 5.x Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dispwrt5	1
DisplayWrite 2.0-4.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dispwrt2	1
EBCDIC Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Ebcdic	1
Enable Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Enable	1
Frame Maker Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fmaker	0
Frame Maker MIF 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fmaker4	1
Frame Maker MIF 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fmaker5	1
Frame Maker MIF 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fmaker3	1
Frame Work Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fwork	0
Frame Work IV ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fwork4	1

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
Frame Work III ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Fwork3	1
HP AdvanceWrite Plus Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Awrite	1
ICL Office Power Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Icl	0
ICL Office Power 7 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Icl7	1
ICL Office Power 6 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Icl6	1
Interleaf Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Interleaf	0
Interleaf ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Interleafimp	1
Interleaf 5 - 6 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Interleaf6	1
Legacy Winstar onGo Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Legacy	1
Lotus Ami Pro Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Amipro	1
Lotus Manuscript Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Lotusman	1
Mac Write Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macwrite	0
Mac Write Pro ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macwritepro	1
Mac Write II ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macwrite2	1
Mac Write 4.x/5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macwrite5	1
MASS 11 Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mass	0
MASS 11 rel. 8.5 - 9.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mass9	1
MASS 11 rel. 8.0 - 8.3 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mass8	1
Microsoft Word/WinWord Filters ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mword	0
WinWord 2.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mword2	1
WinWord 1.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mword1	1
MacWord 5.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mword5	1
MacWord 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macword4	1
MacWord 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Macword3	1
Word 6.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dosword6	1
Word 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dosword5	1
Word 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dosword4	1
Word 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Dosword3	1
MS Works Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Msworks	0

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
MS Works 4.0 Mac ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Msworks4	1
MS Works 3.0 Win ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Msworks3	1
MS Works 2.0 DOS ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Msworks2	1
MultiMate Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mmate	0
MultiMate 4 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mmate4	1
MultiMate 3.3 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mmate3	1
MultiMate Adv. II 3.7 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mmate37	1
MultiMate Adv. 3.6 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Mmate36	1
NAVY DIF Importv ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Navy	1
OfficeWriter Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Owriter	0
OfficeWriter 6.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Owriter6	1
OfficeWriter 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Owriter5	1
OfficeWriter 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Owriter4	1
Peach Text Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Peach	1
PFS First Choice Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Pfs	0
PFS First Choice 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Pfs3	1
PFS First Choice 2.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Pfs2	1
PFS First Choice 1.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Pfs1	1
PFS Write Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Pfswrite	1
Professional Write Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Profwrt	0
Professional Write Plus ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Profwrtplus	1
Professional Write 2.x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Profwrt2	1
Professional Write 1.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Profwrt1	1
Q&A Write Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Qa	0
Q&A Write 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Qa4	1
Q&A Write 1.0 - 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Qa3	1
Rapid File Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Rapid	0
Rapid File 1.2 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Rapid12	1
Rapid File 1.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Rapid1	1

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
Samna Word IV Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Samna	1
Total Word Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Tword	1
Uniplex Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Uniplex	0
Uniplex V7 - V8 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Uniplex8	1
Uniplex onGO ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Uniplexongo	1
VolksWriter Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Volkswrt	0
VolksWriter Deluxe ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Volkswrtdlx	1
VolksWriter 3 and 4 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Volkswrt4	1
Wang Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wang	0
Wang PC ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wangpc	1
Wang II SWP ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wangswp	1
Wang WP Plus ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wangswpplus	1
Win Write 3.x Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wwrite3	1
WITA Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wita	1
WiziWord 3.0 Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wiziword	1
WordStar Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar	0
WordStar 2000 Rel. 3.5 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar200035	1
WordStar 2000 Rel. 3.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar200030	1
WordStar 7.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar7	1
WordStar 6.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar6	1
WordStar 5.5 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar55	1
WordStar 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar5	1
WordStar 4.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar4	1
WordStar 3.45 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar345	1
WordStar 3.3x ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar33	1
WordStar 2000 1.x - 2.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wstar20001	1
WriteNow 3.0 (Mac) Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Writenow3	1
Writing Assistant Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Wassist	1
XEROX XIF Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xerox	0
XEROX XIF 6.0 (Res Graphic) ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xerox6	1

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
XEROX XIF 6.0 (Color Bitmap) ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xerox6color	1
XEROX XIF 5.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xerox5	1
XEROX XIF 5.0 (Illustrator) ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xerox5illu	1
XyWrite Import ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywrite	0
XyWrite (Win) 1.0 ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywrite1	1
XyWrite IV ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywrite4	1
XyWrite III+ ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywrite3p	1
XyWrite III ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywrite3	1
XyWrite Signature ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywritesign	1
XyWrite Sig. (Win) ¹	gid_Module_Prg_Wrt_Flt_Xywritesignwin	1
StarSuite Calc	gid_Module_Prg_Calc	0
Program Module	gid_Module_Prg_Calc_Bin	5
StarSuite Calc Help	gid_Module_Prg_Calc_Help	2
StarSuite Calc Templates	gid_Module_Prg_Calc_Temp	3
StarSuite Calc Samples	gid_Module_Prg_Calc_Sample	1
Add-in	gid_Module_Optional_Addins	5
StarSuite Impress	gid_Module_Prg_Impress	0
Program Module	gid_Module_Prg_Impress_Bin	2
StarSuite Impress Help	gid_Module_Prg_Impress_Help	3
StarSuite Impress Templates	gid_Module_Prg_Impress_Temp	5
StarSuite Impress Samples	gid_Module_Prg_Impress_Sample	1
StarSuite Draw	gid_Module_Prg_Draw	0
Program Module	gid_Module_Prg_Draw_Bin	2
StarSuite Draw Help	gid_Module_Prg_Draw_Help	3
StarSuite Draw Templates	gid_Module_Prg_Draw_Temp	1
StarSuite Draw Samples	gid_Module_Prg_Draw_Sample	1
StarSuite Math	gid_Module_Prg_Math	0
Program Module	gid_Module_Prg_Math_Bin	5
StarSuite Math Help	gid_Module_Prg_Math_Help	1

1 このプログラムモジュールは Linux と Solaris x86 では利用できません。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
StarSuite Math Samples	gid_Module_Prg_Math_Sample	1
Optional Components	gid_Module_Optional	0
Quickstarter ²	gid_Module_Optional_Quickstart	0
ActiveX Control ²	gid_Module_Optional_Activexcontrol	2
General Help Modules	gid_Module_Optional_Help	0
StarSuite Basic Help	gid_Module_Optional_Help_Basic	0
Additional Gallery Themes	gid_Module_Optional_Gallery	21
Adabas Database ³	gid_Module_Optional_Adabas	0
Graphics Filters	gid_Module_Optional_Grfflt	0
Adobe Photoshop Import Filter	gid_Module_Optional_Grfflt_Adobe	1
TGA Import	gid_Module_Optional_Grfflt_Tga	1
EPS Import/Export Filter	gid_Module_Optional_Grfflt_Eps	3
XPM Export Filter	gid_Module_Optional_Grfflt_Xpm	1
Portable Bitmap Import/Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Pbmp	4
SUN Rasterfile Import/Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Sunrst	2
GIF Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Gif	2
AutoCAD Import	gid_Module_Optional_Grfflt_Acad	1
Kodak Photo-CD Import	gid_Module_Optional_Grfflt_Kodac	1
Mac-Pict Import/Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Macpict	3
OS/2 Metafile Import/Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Os2meta	3
PCX Import	gid_Module_Optional_Grfflt_Pcx	1
PNG Export Filter	gid_Module_Optional_Grfflt_Png	2
TIFF Import	gid_Module_Optional_Grfflt_Tiff	2
SVG Export	gid_Module_Optional_Grfflt_Svg	1
Macromedia Flash (SWF)	gid_Module_Optional_Grfflt_Flash	1
Language Modules ⁴	gid_Module_Optional_Language	0
English	gid_Module_Optional_Language_Inso1	2
French	gid_Module_Optional_Language_Inso2	2

2 このプログラムモジュールは Solaris Sparc、x86、および Linux では利用できません。

3 このプログラムモジュールは Solaris x86 では利用できません。

4 他の言語モジュールを追加できます。

StarSuite モジュール名	インストールセット内のモジュール ID	Cnt
Spanish	gid_Module_Optional_Language_Inso3	2
German	gid_Module_Optional_Language_Inso4	2
Fonts	gid_Module_Optional_Font	0
Arial Narrow	gid_Module_Optional_Font_Arialnarrow	4
Arial Black	gid_Module_Optional_Font_Arialbk	1
Imprint MT Shadow	gid_Module_Optional_Font_Imprintshadow	2
Palace Script	gid_Module_Optional_Font_Palacescript	2
Garamond	gid_Module_Optional_Font_Garamond	4
Broadway	gid_Module_Optional_Font_Broad	1
Kidprint	gid_Module_Optional_Font_Kidprint	2
Sheffield	gid_Module_Optional_Font_Sheffield	3
Andale Sans	gid_Module_Optional_Font_Andalesans	4
CDE Integration ⁵	gid_Module_Optional_Cde	4
GNOME Integration ⁶	gid_Module_Optional_Gnome	18
KDE Integration ⁷	gid_Module_Optional_Kde	17
Mobile Device Filters	gid_Module_Optional_Javafilter	5
Palm	gid_Module_Optional_Javafilter_Palm	3
AportisDoc	gid_Module_Optional_Javafilter_Palm_Aportisdoc	4
Pocket PC	gid_Module_Optional_Javafilter_Pocketpc	4
Pocket Word	gid_Module_Optional_Javafilter_Pocketpc_Pocket_Word	5
Pocket Excel	gid_Module_Optional_Javafilter_Pocketpc_Pocket_Excel	5

5 このプログラムモジュールは Windows と Linux では利用できません。

6 このプログラムモジュールは Windows では利用できません。

7 このプログラムモジュールは Solaris Sparc、x86、および Windows では利用できません。

StarSuite スロット ID コマンド名のリスト

StarSuite 7 – グローバルモジュールのスロットコマンド名

StarSuite 7 グローバルスロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツールバー
About	一般的なプログラム情報を表示する	5301	TRUE	TRUE
AbsoluteRecord	現在アクティブなレコードを示す。番号を入力して、対応するレコードに移動する。	10622	TRUE	TRUE
ActiveHelp	拡張ヒントの表示と非表示	5403	TRUE	TRUE
AddDateField		10936	TRUE	TRUE
AddDirect	新しい StarSuite ドキュメントを作成する。サブメニューを使用して、作業対象の StarSuite モジュールを選択する。	5537	TRUE	TRUE
AddField	フォームに追加するデータベースフィールドを選択できるウィンドウを開く。	10623	TRUE	TRUE
AddressBookSource	このコマンドは、ダイアログ ルビ を開く。	6655	TRUE	TRUE
AddTable	クリックして、デザインウィンドウに挿入するテーブルを選択する。	10722	FALSE	TRUE
AddWatch		30769	TRUE	TRUE
AlignCenter	選択したオブジェクトを水平方向の中央で揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、すべてのオブジェクトは、それぞれの中心点で水平行上に配置される。	10132	TRUE	TRUE
AlignDown	選択したオブジェクトをページ下の余白に揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、そのオブジェクトの下余白に揃えられる	10136	TRUE	TRUE
AlignMiddle	選択したオブジェクトを垂直方向の中央に配置する。複数のオブジェクトが選択されている場合、オブジェクトの中心点が垂直線上に配置される。	10135	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
AlignUp	選択したオブジェクトをページ上の余白に揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、すべてのオブジェクトの上端は、上余白から最も離れているオブジェクト位置で揃えられる。	10134	TRUE	TRUE
AlwaysVisible	現在のタスクの表示を切り替える。	6571	TRUE	TRUE
Arc	このアイコンを使用して、楕円形の円弧を描く。	10114	TRUE	TRUE
ArrangeHorizontal		5601	TRUE	TRUE
ArrangeHorizontal		6617	TRUE	TRUE
ArrangeIcons		5600	TRUE	TRUE
ArrangeVertical	垂直の結合可能なウィンドウを整列させる。	6618	TRUE	TRUE
ArrangeVertical	垂直ウィンドウを整列させる。	5602	TRUE	TRUE
AutoControlFocus		10763	TRUE	TRUE
AutoCorrectDlg	オートコレクト ダイアログで、自動修正機能を要件に応じて調整できる。	10424	TRUE	TRUE
AutoFilter	オートフィルタ機能は、現在選択されているデータフィールドの内容を基に、レコードをフィルタする。	10716	FALSE	TRUE
AutoFormat	オートフォーマットグラフを開く。このダイアログで、グラフの多数の属性を対話式に修正できる。	10242	TRUE	TRUE
AutoPilotAddressDataSource		10934	TRUE	TRUE
AutoPilotAgenda	このコマンドを使用して、会議録テンプレートの作成を容易にするオートパイロットを起動する。	10426	TRUE	TRUE
AutoPilotFax	FAX用のオートパイロットを起動するには、このコマンドを選択する。	10427	TRUE	TRUE
AutoPilotLetter	レターテンプレート用のオートパイロットを起動するには、このコマンドを使用する。このテンプレートは、ビジネスレター用とプライベートレター用の両方に使用できる。	10428	TRUE	TRUE
AutoPilotMemo	メモを作成するオートパイロットをアクティブにする。	10429	TRUE	TRUE
AutoPilotMenu		6381	TRUE	TRUE
AutoPilotPresentations	オートパイロットを使用して、対話式にプレゼンテーションを作成する。オートパイロットを使用して、サンプルテンプレートを要件に適合するように変更できる。	10425	TRUE	FALSE
AutoPilotSDBImport		10909	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
BackgroundColor	選択可能なさまざまな背景色を含む 可動ツールバーを開く。	10185	FALSE	TRUE
BackgroundPatternController		10186	FALSE	TRUE
Backspace	データソースの表示と非表示。	5714	FALSE	FALSE
BackToWebtop		6658	TRUE	TRUE
BasicBreak		6521	TRUE	TRUE
BasicIDEAppear		30783	TRUE	TRUE
BasicStepInto		5956	TRUE	TRUE
BasicStepOut		5963	TRUE	TRUE
BasicStepOver		5957	TRUE	TRUE
BasicStop		5958	TRUE	TRUE
BeamerTaskSensitive		6122	TRUE	TRUE
BezierClose	直線または曲線を閉じる。	10122	FALSE	TRUE
BezierConvert	曲線から直線に、直線から曲線に変換 する。	27065	FALSE	TRUE
BezierCutLine	このアイコンは曲線を分割する。曲線 を分割する点を 1 つまたは複数選択 してから、このアイコンをクリックす る。	10127	FALSE	TRUE
BezierDelete	アイコン 制御点の削除 を使用して、 1 つまたは複数の選択した点を削除す る。複数の点を選択する場合は、Shift キーを押したまま点を複数選択する。	10120	FALSE	TRUE
BezierEdge	選択した 1 つまたは複数の点を角の 頂点に変換する。	27066	FALSE	TRUE
BezierEliminatePoints	現在の点または選択した点を、このア イコンの削除操作の対象とする。	27030	FALSE	TRUE
BezierFill		10118	TRUE	TRUE
BezierInsert	挿入モードをアクティブにする。この モードでは、点を挿入できる。	10119	FALSE	TRUE
BezierMove	点の移動を可能にするモードをアク ティブにする。	10121	FALSE	TRUE
BezierSmooth	角の頂点または左右対称の点を滑ら かな点に変換する。	10123	FALSE	TRUE
BezierSymmetric	角の頂点または滑らかな点を左右対 称の点に変換する。	27067	FALSE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Bezier_Unfilled	自由形式のベジエ曲線を作成する。アイコンをクリックすると、3点を指定して、ドキュメントに曲線を定義できる。マウスをクリックして最初の点をセットし、マウスボタンを押したまま2点目にマウスをドラッグする。マウスボタンを放して、3点目をセットする場所でマウスをクリックする。	10397	TRUE	TRUE
BibliographyComponent	ツール → 蔵書管理データベースを選択して、蔵書管理データベースに新しいレコードを挿入するか、既存のレコードを編集する。	10880	TRUE	TRUE
BmpMask	スポイトウィンドウを開く。このウィンドウでは、ビットマップおよびメタファイル図で、色を選択して別の色に置き換えることができる。	10350	TRUE	TRUE
Bold	このコマンドを使用すると、カーソルの位置にある選択したテキストまたは単語に、太字の書式を適用する。	10009	TRUE	TRUE
BookmarkMenu		6405	TRUE	TRUE
BorderStyle	外枠可動ツールバーを開く。ここでオブジェクトの外枠を変更できる。	10187	FALSE	TRUE
BreakPointsChanged		30804	FALSE	FALSE
BringToFront	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを前面に配置する。	10286	TRUE	TRUE
BrowseView	オンラインレイアウト を選択して、StarSuite Writer ドキュメントをHTML ドキュメントとして表示する。	6313	TRUE	TRUE
Caption	フラグ線付きの凡例を定義する。マウスポインタをフラグ線の開始点にセットする (ポイントする)。マウスボタンを押して、押したままにする。マウスポインタの位置に凡例が現れる。マウスボタンを押したまま、フラグ線を希望の位置までドラッグする。	10254	TRUE	TRUE
Cascade		5603	TRUE	TRUE
CaseMap		10019	FALSE	FALSE
CenterPara	現在の段落を中央揃えにする。複数の段落が選択されている場合、コマンドはすべての段落に適用される。	10030	TRUE	TRUE
ChangeCaseToFullWidth		10915	TRUE	TRUE
ChangeCaseToHalfWidth		10914	TRUE	TRUE
ChangeCaseToHiragana		10916	TRUE	TRUE
ChangeCaseToKatagana		10917	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ChangeCaseToLower		10913	TRUE	TRUE
ChangeCaseToUpper		10912	TRUE	TRUE
CharFontName	リスト内のあらゆるフォントの中から選ぶか、フォント名を直接入力する。	10007	TRUE	TRUE
CharStyle	文字スタイルを決定する。	5541	FALSE	FALSE
Checkbox		10148	TRUE	TRUE
CheckBox	チェックボックスを作成する。	10596	TRUE	TRUE
ChooseControls		10144	FALSE	TRUE
ChooseMacro	標準ツールバー のオンまたはオフを切り替える。このツールバーには、現在のドキュメントの作業に役立つ多数の機能がある。	30770	TRUE	TRUE
ChoosePolygon		10162	TRUE	TRUE
Circle		10385	TRUE	TRUE
CircleArc		10390	TRUE	TRUE
CircleCut	クリックして、楕円形の切片を描く。描画中に Shift キーを押したままにすると、円の扇形を描ける。	10115	TRUE	TRUE
CircleCut_Unfilled		10391	TRUE	TRUE
CirclePie		10388	TRUE	TRUE
CirclePie_Unfilled		10389	TRUE	TRUE
Circle_Unfilled		10386	TRUE	TRUE
ClearDiskCache	ナビゲータをオンまたはオフに切り替える。ナビゲータは、ドキュメント内で、特定の章またはオブジェクトへジャンプするのに使用する。これは、アウトラインレベルの順序を変更したり、開いている別のドキュメントからオブジェクトを挿入するのに役立つ。	6317	TRUE	TRUE
ClearHistory		5703	TRUE	TRUE
ClearMemCache	このメニューには、新しいドキュメントを作成する、開く、閉じる、印刷するなど、ドキュメントに関連する操作のコマンドが含まれている。StarSuite を閉じるには、取り消し をクリックする。	6316	FALSE	FALSE
ClearOutline		10234	TRUE	FALSE
CloseDoc	このメニューコマンドは、アクティブドキュメントを閉じる。	5503	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
CloseWin	このボタンをクリックすると、標準のプレビューに戻る。	5621	TRUE	TRUE
CloseTask	このコマンドは、アクティブなタスクと、それに関連するすべてのウィンドウを閉じる。	6575	TRUE	TRUE
Color	文字 カラーアイコン (StarSuite Writer) または フォント カラーアイコンを使用して、文字に別の色を簡単に割り当てることができる。	10017	FALSE	TRUE
ColorControl	カラーバーは、現在のカラーパレットの色を表示する。非表示オプションを選択することもできる。	10417	TRUE	TRUE
Combobox		10192	TRUE	TRUE
ComboBox	コンボボックスを作成する。	10601	TRUE	TRUE
Comments		5592	FALSE	FALSE
CommercialUse		6607	FALSE	FALSE
CommonTaskBarVisible		5928	TRUE	TRUE
CompareDocuments	ドキュメントの比較 コマンドは、ファイルの選択ダイアログを開く。ドキュメントを選択して、挿入 をクリックする。挿入したドキュメントとアクティブなドキュメントの違いは、変更 としてマークされる。	6586	TRUE	TRUE
CompileBasic		5954	TRUE	TRUE
Config	アイコン フォーム は、可動ツールバーを開く。このツールバーには対話型フォームの作成に必要なツールと機能が含まれている。	10593	FALSE	TRUE
ConfigureDialog	ダイアログ ドキュメントテンプレートの管理 を呼び出して、テンプレートのコピー、削除、編集、インポート、エクスポートを行う。または、新しいテンプレートを作成する。	5904	TRUE	TRUE
ConfigureToolboxVisible	設定に従ってツールバーをカスタマイズできる。	5908	TRUE	TRUE
Context		5310	FALSE	FALSE
ContourDialog	この機能を使用して、画像、オブジェクト、およびフレームの輪郭を編集する。	10334	TRUE	TRUE
ContourExecute		10335	FALSE	FALSE
ControlProperties	選択したコントロールの属性を編集するためのダイアログを開く。	10613	TRUE	TRUE
ConvertToButton	選択したコントロールは、ボタンに変換される。	10735	FALSE	FALSE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ConvertToCheckBox	選択したコントロールは、チェックボックスに変換される。	10738	FALSE	FALSE
ConvertToCombo	選択したコントロールは、コンボボックスに変換される。	10741	FALSE	FALSE
ConvertToCurrency	選択したコントロールは、通貨フィールドに変換される。	10748	FALSE	FALSE
ConvertToDate	選択したコントロールは、日付フィールドに変換される。	10745	FALSE	FALSE
ConvertToEdit	選択したコントロールは、テキストボックスに変換される。	10734	FALSE	FALSE
ConvertToFileControl	選択したコントロールは、ファイルの選択に変換される。	10744	FALSE	FALSE
ConvertToFixed	選択したコントロールは、ラベルに変換される。	10736	FALSE	FALSE
ConvertToFormatted	選択したコントロールは、書式設定されたフィールドに変換される。	10751	FALSE	FALSE
ConvertToGrid		10742	FALSE	FALSE
ConvertToGroup		10740	FALSE	FALSE
ConvertToImageButton	選択したコントロールは、イメージボタンに変換される。	10743	FALSE	FALSE
ConvertToImageControl	選択したコントロールは、イメージコントロールに変換される。	10750	FALSE	FALSE
ConvertToList	選択したコントロールは、リストボックスに変換される。	10737	FALSE	FALSE
ConvertToNumeric	選択したコントロールは、数値フィールドに変換される。	10747	FALSE	FALSE
ConvertToPattern	選択したコントロールは、マスクフィールドに変換される。	10749	FALSE	FALSE
ConvertToRadio	選択したコントロールは、オプションフィールドに変換される。	10739	FALSE	FALSE
ConvertToTime	選択したコントロールは、時刻フィールドに変換される。	10746	FALSE	FALSE
Copy	このコマンドを使用して、選択したテキストまたはオブジェクトをクリップボードにコピーする。	5711	TRUE	TRUE
CountAll		10717	FALSE	TRUE
CurrencyField	通貨フィールドを作成する。	10707	TRUE	TRUE
CurrencyField		10939	TRUE	TRUE
CurrentDate		5312	FALSE	FALSE
CurrentTime	現在の時刻がこのフィールドに表示される。	5311	FALSE	FALSE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Cut	切り取り を使用して、選択したオブジェクトまたはセクションをクリップボードに移動する。	5710	TRUE	TRUE
Dash		27267	FALSE	FALSE
DataImportAddr		12211	FALSE	FALSE
DatasourceAdministration		10882	TRUE	TRUE
DateField	日付フィールドを作成する。	10704	TRUE	TRUE
DecrementIndent	現在の段落の左インデントを減少し、前のタブ位置に左インデントをセットする。	10461	TRUE	TRUE
DefaultBullet	このアイコンを使用して、箇条書きシンボルのマーク付き段落を指定するか、箇条書きシンボルを取り消す。	20138	TRUE	TRUE
Delete		5713	TRUE	TRUE
DeleteFrame		5652	TRUE	TRUE
DeleteRecord	レコードを削除する。削除する前にクエリーを確認する必要がある。	10621	TRUE	TRUE
DeleteStyle		5551	FALSE	FALSE
DesignerDialog	スタイルの割り当てと編成を行うスタイルリストの表示と非表示。	5539	TRUE	TRUE
DesignMode	デザインモードのオンとオフを切り替える。デザインモードでは、フォームレイアウトを定義できる。このモードが非アクティブな場合、フォームコントロールを編集できない。	10629	TRUE	TRUE
DesktopMode		6592	TRUE	TRUE
DistributeSelection	この機能は、オブジェクトを割り当てるために使用する。たとえば、一定の方法でオブジェクトを揃える。 StarSuite Draw または StarSuite Impress の少なくとも 3 つのオブジェクトを選択したあとにダイアログを呼び出す。	5683	TRUE	TRUE
DocumentLanguage		12007	TRUE	FALSE
DocumentManager		5533	TRUE	TRUE
DSBrowserExplorer		10764	TRUE	TRUE
EditDoc		6312	TRUE	TRUE
Edit	テキストボックスを作成する。	10599	TRUE	TRUE
EditFrameSet		5646	TRUE	TRUE
Ellipse	このアイコンを使用して、楕円形を描く。Shift キーを押して、円を描く。	10110	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
EllipseCut		10392	TRUE	TRUE
EllipseCut_Unfilled		10393	TRUE	TRUE
Ellipse_Unfilled		10384	TRUE	TRUE
EnterGroup	このコマンドを使用して、選択したグループのグループ階層の最初のレベルに移動する。グループの個々の要素を選択したり編集できる。	27096	TRUE	TRUE
Explorer		6308	TRUE	TRUE
ExportTo		5829	FALSE	FALSE
ExtendedHelp		5402	TRUE	TRUE
FieldController		10634	FALSE	TRUE
FileControl	ファイルの選択を可能にするボタンを作成する。	10605	TRUE	TRUE
FileDocument		6315	TRUE	TRUE
FillBitmap		10168	FALSE	FALSE
FillColor		10165	TRUE	TRUE
FillShadow		10299	FALSE	FALSE
FillStyle	塗りつぶしの種類または色を決定する。	10164	TRUE	TRUE
FilterCrit	このアイコンを選択して、特定の条件に従うデータをフィルタする。	10715	FALSE	TRUE
FirstRecord	このアイコンにより、最初のレコードに移動する。	10616	TRUE	TRUE
Flash		10406	TRUE	TRUE
FloatingTask	このボタンをクリックして、可動ウィンドウの現在のタスクを表示するか、作業エリアで通常のタスクに表示を戻す。	6570	TRUE	TRUE
FmExplorerController		10637	FALSE	TRUE
FmFilterNavigatorController		10752	FALSE	TRUE
FontDialog	この機能は、特にフォントとフォントの効果を設定するのに役立つ。このダイアログでは、ハイパーリンクまたはマクロを文字に割り当てることができる。	10296	TRUE	TRUE
FontHeight	このリストから異なるフォントサイズを選んだり、手動でサイズを入力することができる。	10015	FALSE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
FontWork	フォントワークを使用して、あらゆるテキスト効果を作成する。このテキスト効果は、標準ツールバーの図形描画機能 (アイコン 図形描画機能) を使用して作成したテキストオブジェクトに割り当てることができる。	10256	TRUE	TRUE
FormatArea	このコマンドを使用して、オブジェクトエリアを編集する。	10142	TRUE	TRUE
FormatGroup	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトをグループ化する。	10454	TRUE	TRUE
FormatLine	Line ダイアログは、図形描画線の作成に役立つ。	10143	TRUE	TRUE
FormatMenu	書式 の下には、個々の文字、段落、あるいはページ全体の書式設定に使用するコマンドがある。図や表など、別のオブジェクトを選択した場合は、異なる書式コマンドが現れる。	5780	TRUE	FALSE
FormattedField	書式設定されたフィールドを作成する。	10728	TRUE	TRUE
FormatUngroup	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトのグループ化を解除する。	10455	TRUE	TRUE
FormFilter	このアイコンを使用して、条件を指定することで可視データをフィルタするようにデータベースサーバーを促す。	10729	FALSE	TRUE
FormFiltered	フィルタされたビューとフィルタされていないビュー間で切り替えを行う。	10723	FALSE	TRUE
FormFilterExecute		10731	FALSE	TRUE
FormFilterExit		10730	FALSE	TRUE
FormFilterNavigator		10732	FALSE	TRUE
FormProperties	このダイアログでは、特に、全フォーム用のデータソースとイベントを指定できる。	10614	TRUE	TRUE
FrameContent		5826	FALSE	TRUE
FrameLineColor		10201	FALSE	FALSE
FrameName		5825	FALSE	TRUE
FrameSpacing		6507	FALSE	TRUE
FrameStyle	このアイコンをクリックして、枠スタイルを選択する。	5543	FALSE	FALSE
FrameTitle		5668	FALSE	FALSE
Freeline		10463	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Freeline_Unfilled	フリーハンドの線を作成する。線の開始点をクリックし、ボタンを押したまま、希望の線を描く。	10464	TRUE	TRUE
FullScreen		5627	TRUE	TRUE
FunctionBarVisible	このメニューコマンドでは、ファンクションバーのアクティブ化と非アクティブ化を行える。	5910	TRUE	TRUE
Gallery		5960	TRUE	TRUE
GeneralOptions	このダイアログを使用して、StarSuiteでの作作用の全般設定を行う。ユーザーデータ、保存、印刷、重要なファイルおよびディレクトリへのパス、および標準色などの情報を設定する。	10432	TRUE	TRUE
GetColorTable		10441	TRUE	FALSE
GoDown		5731	FALSE	TRUE
GoDownBlock		5735	FALSE	FALSE
GoDownBlockSel		26525	FALSE	FALSE
GoDownSel		26521	FALSE	FALSE
GoLeft		5733	FALSE	FALSE
GoLeftBlock		5738	FALSE	FALSE
GoLeftBlockSel		26528	FALSE	FALSE
GoLeftSel		26523	FALSE	FALSE
GoRight		5734	FALSE	FALSE
GoRightSel		26524	FALSE	FALSE
GoToEndOfData		5741	FALSE	FALSE
GoToEndOfDataSel		26532	FALSE	FALSE
GoToEndOfRow		5746	FALSE	FALSE
GoToEndOfRowSel		26534	FALSE	FALSE
GoToStart		5742	FALSE	FALSE
GoToStartOfRow		5745	FALSE	FALSE
GoToStartOfRowSel		26533	FALSE	FALSE
GoToStartSel		26531	FALSE	FALSE
GoUp		5732	FALSE	FALSE
GoUpBlock		5736	FALSE	FALSE
GoUpBlockSel		26526	FALSE	FALSE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GoUpSel		26522	FALSE	FALSE
GrafAttrCrop	このアイコンは、ピクセル図を切り取るためのダイアログを開く。	10883	TRUE	TRUE
GrafBlue	スピンボックス 青色の割合 で、選択した図の RGB カラーコンポーネントの青色の量を増減できる。	10867	TRUE	TRUE
GrafContrast	スピンボックス コントラスト で、選択した図イメージを表示するためのコントラストの高低を設定する。	10864	TRUE	TRUE
GrafGamma	選択したオブジェクト表示のガンマ値を増減する。	10868	TRUE	TRUE
GrafGreen	スピンボックス 緑色の割合 で、選択した図オブジェクトの RGB カラーコンポーネントの緑色の量を増減できる。	10866	TRUE	TRUE
GrafInvert		10870	TRUE	TRUE
GrafLuminance	このスピンボックスでは、選択した図オブジェクト用に明度の高低を選択する。	10863	TRUE	TRUE
GrafMode	図モードのリストボックスで、選択した図オブジェクトに表示属性を選ぶ。現在のファイル内の、埋め込み図オブジェクトまたはリンク図オブジェクトは変更されず、そのオブジェクトの表示のみが変更される。	10871	TRUE	TRUE
GrafRed	スピンボックス 赤色の割合 で、選択した図オブジェクトの RGB カラーコンポーネントの緑色の量を増減できる。	10865	TRUE	TRUE
GrafTransparence	スピンボックス 透過性 では、図オブジェクトの透過性を上げ下げできる。	10869	TRUE	TRUE
GraphicFilterInvert	このフィルタは、カラーイメージの色の値、またはグレースケールや黒/白イメージの明度の値を逆転させる。	10470	TRUE	TRUE
GraphicFilterMosaic	この機能は、ピクセルの小さなグループを同じ色の四角形のエリアに結合する。	10475	TRUE	TRUE
GraphicFilterPopart	このコマンドは、イメージをポップアート書式に変換する。	10478	TRUE	TRUE
GraphicFilterPoster	このコマンドは、ポスターカラーの数を決定するダイアログを開く。	10477	TRUE	TRUE
GraphicFilterRelief	このコマンドは、レリーフを作成するためのダイアログを表示する。	10476	TRUE	TRUE
GraphicFilterRemoveNoise	このフィルタは、イメージから単一ピクセルを削除できる。	10473	TRUE	TRUE
GraphicFilterSepia	ここで、エイジング機能を設定するためのダイアログを開く。	10479	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GraphicFilterSharpen	このフィルタは、イメージ中のコントラストを強くする。	10472	TRUE	TRUE
GraphicFilterSmooth	このフィルタは、イメージ中のコントラストを弱くする。	10471	TRUE	TRUE
GraphicFilterSobel	このコマンドは、イメージを木炭画で表示する。	10474	TRUE	TRUE
GraphicFilterSolarize	このコマンドは、ソラリゼーションを定義するためのダイアログを開く。	10480	TRUE	TRUE
GraphicFilterToolbox	図オブジェクトのツールバー上でアイコン フィルタ をクリックし、ウィンドウ フィルタ を開く。このウィンドウでは、選択した図イメージに対してあらゆるフィルタを使用できる。	10469	FALSE	TRUE
Grid	このアイコンを使用して、データベーステーブル用のコントロールフィールドを作成する。	10603	TRUE	TRUE
GridUse	このアイコンをアクティブにすると、オブジェクトはグリッドポイント間でしか移動できない。	27154	TRUE	TRUE
GridVisible	このオプションを選択すると、グリッドが表示される。	27322	TRUE	TRUE
Group		26331	TRUE	TRUE
GroupBox	いくつかのコントロールを視覚的にグループ化するフレームを作成する。	10598	TRUE	TRUE
Groupbox		10189	TRUE	TRUE
HelpChooseFile		5419	FALSE	TRUE
HelperDialog		5962	TRUE	TRUE
HelpIndex	現在アクティブなアプリケーションの StarSuite ヘルプのメインページを起動できる。	5401	TRUE	TRUE
HelplinesMove	このボックスをチェックすると、オブジェクトの移動中にガイドを表示する。	27153	TRUE	TRUE
HelpMenu	メニュー ヘルプ は、StarSuite のヘルプシステムを起動し、コントロールする。	5410	TRUE	FALSE
HelpOnHelp		5400	TRUE	TRUE
HelpSearch		5412	FALSE	FALSE
HelpTip	ヒントの表示と非表示。	5404	TRUE	TRUE
HFixedLine		10928	TRUE	TRUE
HideDetail		26329	TRUE	FALSE
HideOrShowColumns		12227	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
HideSpellMark		12022	TRUE	TRUE
HScrollbar		10194	TRUE	TRUE
Hyperlink		10361	FALSE	FALSE
HyperlinkDialog	このアイコンを使用して、ハイパーリンクの作成と編集を行えるダイアログを開く。	5678	TRUE	TRUE
Imagebutton	イメージで表示されるボタンを作成する。	10604	TRUE	TRUE
ImageControl	図コントロールを作成する。	10710	TRUE	TRUE
ImageMapDialog	イメージマップエディタを起動する。このエディタでは、クリックするとアクションが開始されるフレーム内または図内のエリアを定義して、参照センシティブな図を作成する。	10371	TRUE	TRUE
IncrementIndent	この機能は、現在の段落の左インデントを増分して、次のタブストップにセットする。	10462	TRUE	TRUE
InsertAnnotation	このコマンドを使用して、現在のカーソル位置にコメントを挿入する。	26276	TRUE	TRUE
InsertApplet	このコマンドは、ドキュメントにアプレットを挿入する。	5673	TRUE	TRUE
InsertDoc	この機能は、カーソル位置にテキストファイルを挿入する。	5532	TRUE	TRUE
InsertDraw		10244	FALSE	FALSE
InsertEdit		10190	TRUE	TRUE
InsertFileControl		10942	TRUE	TRUE
InsertFixedText		10188	TRUE	TRUE
InsertFormattedField		10940	TRUE	TRUE
InsertGraphic	この機能は、ドキュメントに図を挿入する。	10241	TRUE	TRUE
InsertHyperlink	オートパイロットを使用して、ビジネスおよびプライベートレター、FAX、メモ、会議録、およびプレゼンテーションを作成する。	10360	TRUE	TRUE
InsertImage		27105	TRUE	TRUE
InsertImageControl		10926	TRUE	TRUE
InsertListbox		10191	TRUE	TRUE
InsertMath	この機能は、数式の挿入に使用する StarSuite Math をアクティブにする。	27106	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertMode	このフィールドは、現在の挿入モードを表示する。挿入 または 上書き 間で切り替えることができる。	10221	TRUE	TRUE
InsertNumbering	このアイコンをクリックして、選択した段落への番号付けを適用する。番号付けされている段落を選択して、このアイコンを選択すると番号が削除される。	20144	TRUE	TRUE
InsertObject	このコマンドを使用して OLE オブジェクトを選択し、それをドキュメントに埋め込む。OLE オブジェクトとは、ターゲットドキュメントにリンクするか、埋め込むことができるオブジェクトのこと。	5561	TRUE	TRUE
InsertObjectFloatingFrame		5563	TRUE	TRUE
InsertObjectStarChart	グラフをドキュメントに挿入する。	10140	TRUE	TRUE
InsertPatternField		10941	TRUE	TRUE
InsertPlugin	このコマンドは、プラグインを挿入する。	5672	TRUE	TRUE
InsertSound	この機能は、サウンドを挿入する。	5676	TRUE	TRUE
InsertSymbol	この機能は、1 つまたは複数の特殊文字を挿入する。	10503	TRUE	TRUE
InsertTable		10217	TRUE	TRUE
InsertTextFrame		10240	FALSE	TRUE
InsertVideo	この機能は、ビデオを挿入する。	5677	TRUE	TRUE
InternetDialog		10416	TRUE	TRUE
Intersect		5681	TRUE	TRUE
IsLoading		5585	FALSE	TRUE
Italic	このコマンドは、選択したテキストまたは 1 つの単語を斜体にする。	10008	TRUE	TRUE
JustifyPara	このコマンドを使用して、現在選択されている段落のすべての行を同じ幅で均等割付する。最後の行は、別に扱われる (書式 → 段落 → 配置 を参照)。	10031	TRUE	TRUE
JustifyPara		20421	TRUE	TRUE
Label	テキストの表示用にフィールドを作成する。	10597	TRUE	TRUE
LastRecord	このアイコンにより、最後のレコードに移動する。	10619	TRUE	TRUE
LaunchStarImage		30000	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
LeaveGroup	このコマンドを使用して、グループオブジェクト内の個々の要素の編集を終了する。	27097	TRUE	TRUE
LeftPara	左に コマンドまたはアイコン 左揃えは、選択した段落をページの左側で均等割付する。	10028	TRUE	TRUE
LibSelector	このコマンドを使用して、挿入したプラグインをアクティブまたは非アクティブにする。	30787	FALSE	TRUE
Line	これをクリックして、直線を描く。線の開始点をクリックし、線の終了点までマウスをドラッグする。マウスボタンを放して、線を終了する。	10102	TRUE	TRUE
LineDash		10170	TRUE	TRUE
Line_Diagonal		10103	TRUE	TRUE
LineEndStyle	アイコン 線の終点スタイル をクリックして、線の終点 可動ツールバーを開く。表示された記号を使用して、選択した線の終点のスタイルを定義する。	10301	FALSE	TRUE
LineStyle	このアイコンをクリックして、線スタイル 可動ツールバーを開く。このツールバーでは、外枠の線のスタイルを変更できる。	10200	FALSE	TRUE
LineWidth	線の太さを定義する。	10171	TRUE	TRUE
ListBox	リストボックスを作成する。	10600	TRUE	TRUE
LoadBasic		5951	TRUE	TRUE
LoadConfiguration		5933	TRUE	TRUE
MacroBarVisible		5923	TRUE	TRUE
MacroDialog		5959	TRUE	TRUE
MatchGroup		30782	TRUE	TRUE
MenuBarVisible		6661	TRUE	TRUE
Merge		5679	TRUE	TRUE
MergeDocuments	ドキュメントの結合 コマンドを選択して、ファイルの選択ダイアログを開き、ドキュメントのコピーに対して行った変更内容を、オリジナルのドキュメントに挿入する。	6587	TRUE	TRUE
Minimize		5606	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ModifiedStatus	ドキュメントに対する変更がハードディスクに保存されていない場合は、ステータスバーのこのフィールドに(*)が表示される。これは、保存されていない新しいドキュメントも同様に表示される。	5584	FALSE	FALSE
ModifyFrame		5651	TRUE	TRUE
ModuleDialog		30773	TRUE	TRUE
NavigationBarVisible		6603	TRUE	TRUE
Navigator		10366	TRUE	TRUE
NewDoc		5500	TRUE	TRUE
NewFrameSet		6400	TRUE	TRUE
NewRecord	このアイコンをクリックして、新しいレコードを入力する。	10620	TRUE	TRUE
NewWindow	このコマンドは、アクティブタスクを表示する別のウィンドウを開く。この新しいウィンドウは、別のタスクとして表示される。	5620	TRUE	TRUE
NextRecord	このアイコンにより、次のレコードに移動する。	10617	TRUE	TRUE
NumericField	このアイコンを使用して、数値フィールドを作成する。	10706	TRUE	TRUE
NumericField		10938	TRUE	TRUE
ObjectAlign	このアイコンをクリックして、配置可動ツールバーを開く。	10130	FALSE	TRUE
ObjectAlignLeft		10131	TRUE	TRUE
ObjectAlignRight		10133	TRUE	TRUE
ObjectBackOne	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階戻す。	26408	TRUE	TRUE
ObjectBarVisible	このコマンドは、オブジェクトバーの表示をオンまたはオフに切り替える。オブジェクトバーは、コンテキスト関連の機能を提供する。	5905	TRUE	TRUE
ObjectCatalog		30774	TRUE	TRUE
ObjectForwardOne	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階前に進める。	26407	TRUE	TRUE
ObjectMenue	このコマンドを使用して、挿入したオブジェクトを編集する。	5575	TRUE	FALSE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
OnlineOptions	この登録を使用して、StarSuite ドキュメントの基本設定を HTML 書式で定義する。画面に表示したり印刷する内容を定義するためのオプションや、画面ページのスクロール方法、ソーステキストのキーワードを強調表示する方法などを定義するさまざまなオプションがある。	10439	TRUE	TRUE
Open	ファイル → 開く を選択するか、アイコン ファイルを開く をクリックして、ダイアログをアクティブにする。このダイアログは、ドキュメントが StarSuite から外部書式かに関わらず、すべての種類のドキュメントを開く。	5501	TRUE	TRUE
OpenReadOnly	このコマンドを選択すると、ドキュメントがデザインモードで開かれている場合にフォームを開く。	10709	TRUE	TRUE
OpenTemplate	ダイアログを呼び出してテンプレートを開く。	5594	TRUE	TRUE
OpenUrl	イメージマップの定義されたエリアをクリックしたときに、読み込まれる URL (またはローカルファイル) を選択する。	5596	FALSE	TRUE
OpenUrl		6593	TRUE	TRUE
OptionBarVisible		5911	TRUE	TRUE
OptionsTreeDialog	このコマンドは、カスタマイズされたプログラム設定のためのダイアログを開く。	31630	TRUE	TRUE
OrderCrit	表示するデータの並べ替え条件を決定する。	10714	FALSE	TRUE
Organizer		5540	TRUE	TRUE
OutlineBullet		10156	FALSE	TRUE
OutlineCollapse		10231	FALSE	TRUE
OutlineCollapseAll		10155	FALSE	TRUE
OutlineDown	現在の段落 (または任意の選択した段落) を、1 段落下に移動する。	10151	FALSE	TRUE
OutlineExpand		10233	FALSE	TRUE
OutlineExpandAll		10232	FALSE	TRUE
OutlineFont	このコマンドを使用して、選択したテキストまたは単語の周りに輪郭を作成する。	10012	TRUE	TRUE
OutlineFormat		10154	FALSE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
OutlineLeft	このアイコンをクリックすると、選択した段落が階層の 1 レベル上に移動される。	10152	FALSE	TRUE
OutlineRight	このアイコンをクリックすると、選択した段落が階層の 1 レベル下に移動される。	10153	FALSE	TRUE
OutlineUp	このアイコンをクリックすると、現在の段落 (または選択した任意の段落) が、それより 1 つ上の前に配置される。	10150	FALSE	TRUE
ParagraphDialog	このコマンドを使用して、段落の属性を編集する。	10297	TRUE	TRUE
Paste	このコマンドは、クリップボードの内容をドキュメントに挿入する。	5712	TRUE	TRUE
PatternField	マスクフィールドを作成する。	10708	TRUE	TRUE
PickList		5510	TRUE	FALSE
Pie	このアイコンを使用して、楕円形の扇形を描く。Shift キーを押したまま描くと円の扇形が描ける。	10112	TRUE	TRUE
Pie_Unfilled		10387	TRUE	TRUE
PlugInsActive		6314	TRUE	TRUE
PolyFormen		5682	TRUE	TRUE
Polygon_Diagonal		10394	TRUE	TRUE
Polygon_Diagonal_Unfilled		10396	TRUE	TRUE
Polygon_Unfilled	これをクリックして、多角形を描く。最初に多角形の開始点をクリックし、多角形の各点をクリックする。クリックした各点は、前の点に自動的に接続される。多角形を閉じるには、開始点でダブルクリックする。	10395	TRUE	TRUE
Position		10223	FALSE	FALSE
Preview		10196	TRUE	TRUE
PrevRecord	このアイコンにより、前のレコードに移動する。	10618	TRUE	TRUE
Print	印刷 を選択して、さまざまな印刷オプションを定義して印刷処理を開始する。	5504	TRUE	TRUE
PrintDefault	アイコン 印刷 をクリックして、現在の標準印刷設定でアクティブドキュメントを印刷する。	5509	TRUE	TRUE
PrinterSetup	このコマンドは、印刷情報を表示するダイアログを開く。	5302	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
PrintPreview	ドキュメントの印刷プレビューをアクティブにする。	5325	TRUE	TRUE
ProgressBar		10927	TRUE	TRUE
Properties		6350	FALSE	FALSE
PropertyController		10636	FALSE	TRUE
Pushbutton	コマンドボタンを作成する。	10594	TRUE	TRUE
Quit	このコマンドを使用して、StarSuite と開いているすべてのドキュメントを終了する。	5300	TRUE	TRUE
Radiobutton		10147	TRUE	TRUE
RadioButton	オプションフィールドを作成する。	10595	TRUE	TRUE
RecFromText		10625	FALSE	TRUE
Recording		5800	TRUE	TRUE
RecSave	このアイコンをクリックして、新しいデータエントリを保存する。変更内容はデータベースに登録される。	10627	TRUE	TRUE
RecSearch	このアイコンをクリックして、データフィールドの特定の値を検索する。	10725	TRUE	TRUE
Rect	このアイコンを使用して、四角形を描く。Shift キーを押して、正方形を描く。	10104	TRUE	TRUE
RecText		10624	FALSE	TRUE
RecTotal		10626	FALSE	TRUE
RecUndo	このアイコンは、データエントリを元に戻す。	10630	TRUE	TRUE
Redo	元に戻す で取り消した前のコマンドをやり直せる。	5700	TRUE	TRUE
Refresh	このアイコンをクリックして、表示されているデータを更新する。	10724	FALSE	TRUE
Reload	このコマンドを使用して、現在のドキュメントを最後に保存したバージョンのドキュメントで置き換える。	5508	TRUE	TRUE
RemoveFilter		10762	FALSE	TRUE
RemoveFilterSort	この機能を使用して、すべての オートフィルタ と設定されていた並べ替えオプションを削除する。	10711	FALSE	TRUE
Repaint		26012	FALSE	FALSE
Repeat	この機能は、最後のアクションを繰り返す。	5702	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
RightPara	右に コマンドまたはアイコン 右揃えを使用して、現在選択されている段落をページの右側で均等割付する。同時に複数の段落が選択されている場合、このアクションはそれらすべてに適用される。	10029	TRUE	TRUE
RubyDialog		6656	TRUE	TRUE
RunBasic		5955	TRUE	TRUE
Save	このコマンドを使用して、現在開いているドキュメントを保存する。	5505	TRUE	TRUE
SaveAll	このコマンドを使用して、開いているすべてのドキュメントを保存する。	5309	TRUE	TRUE
SaveAs	特定の場所に特定の名前でドキュメントを保存する。	5502	TRUE	TRUE
SaveAsTemplate	現在のドキュメントを新しいテンプレートとして保存する。	5538	TRUE	TRUE
SaveAsUrl		5643	TRUE	TRUE
SaveBasicAs		5953	TRUE	TRUE
SaveConfiguration		5930	TRUE	TRUE
SbaExecuteSql	このアイコンをクリックすると、ビーマでクエリー結果が見えるようになる。	10721	FALSE	TRUE
SbaNativeSql	Native SQL モードでは、SQL コマンドを入力する。このコマンドは、StarSuite Base では解釈されない。クエリーデザインの SQL タブページはアクティブにしておく。これらの変更はクエリーデザインには表示できないので、見出し デザイン は灰色で強調表示され、呼び出すことはできない。	10720	FALSE	TRUE
Scan	イメージをスキャンするコマンドのサブメニューを開く。	10330	TRUE	TRUE
ScEditOptions	ダイアログを使用して、計算表ドキュメント用のあらゆる設定を定義する。セルエントリのあとに表示される内容とカーソル方向を定義する。順序リストを定義し、小数部分の桁数や記録用の設定を決定し、変更を強調表示できる。	10435	TRUE	TRUE
SchEditOptions		10437	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
SdEditOptions	プレゼンテーションドキュメント用のあらゆる設定を定義する。表示される内容、使用される測定単位、グリッド配置を有効にするかどうか、また有効な場合にどのように行われるかを定義できる。さらに、メモおよびハンドアウトを常に印刷するかどうかも定義できる。新しいドキュメントを作成するたびに、プレゼンテーションオートパイロットを起動するように設定できる。	10434	TRUE	TRUE
SdGraphicOptions	このダイアログを使用して、図形描画ドキュメント用のグローバル設定を定義する。特に、表示される内容、使用されるスケール、グリッド配置、およびデフォルトで印刷される内容を定義できる。	10447	TRUE	TRUE
SearchDialog	このコマンドを使用して、テキストおよび書式を見つけ、必要に応じてそれらを置き換える。	5961	TRUE	TRUE
Select	メニューコマンド すべて選択 を選択した場合、図形描画機能で挿入されたドキュメントの全内容、フレーム、またはテキストが選択される。	5720	TRUE	TRUE
SelectAll	メニューコマンド すべて選択 を選択した場合、図形描画機能で挿入されたドキュメントの全内容、フレーム、またはテキストが選択される。	5723	TRUE	TRUE
SelectObject		10128	FALSE	FALSE
SendFax		20028	TRUE	TRUE
SendMail	このコマンドを使用して、現在のドキュメントを E-mail として送信する。	5331	TRUE	TRUE
SendToBack	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトをほかのすべてのオブジェクトの背後に置く。	10287	TRUE	TRUE
SetDefault	既定値 コマンドは、選択した段落を対応する段落書式に再フォーマットする。	10456	TRUE	TRUE
SetObjectToBackground	コンテキストメニューのコマンド 背面へ移動 または同名のアイコンを使用して、選択したオブジェクトを背景に送る。	10282	TRUE	TRUE
SetObjectToForeground	このコマンドは、選択したオブジェクトを前景に移動する。	10283	TRUE	TRUE
Shadowed	このコマンドは、選択したテキストまたは単語に影を付ける。	10010	TRUE	TRUE
ShowAddress		10538	FALSE	FALSE
ShowAddressBook		6644	FALSE	FALSE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ShowBrowser	このフィールドは、アクティブな StarSuite Basic ドキュメントに関する情報を表示する。	10163	TRUE	TRUE
ShowDetail		26330	TRUE	FALSE
ShowFmExplorer	このアイコンをクリックして、フォーム機能の表示 を開く。フォーム機能の表示 は、現在のドキュメントのフォームとサブフォームをそれぞれのコントロールと共にすべて表示する。	10633	TRUE	TRUE
ShowForms		10376	TRUE	TRUE
ShowHidden		10375	TRUE	TRUE
ShowItemBrowser	選択したエントリの属性ダイアログを起動する。	10703	FALSE	TRUE
ShowProperties		10635	FALSE	TRUE
ShowPropBrowser	選択したエントリの属性ダイアログを起動する。	10943	TRUE	TRUE
SimEditOptions		10438	TRUE	TRUE
Size		10224	FALSE	FALSE
SmEditOptions	印刷書式を選択して、保存されているすべての数式ドキュメント用の印刷オプションを定義する。これらのオプションは、StarSuite Math から直接数式を印刷したい場合に適用される。	10436	TRUE	TRUE
SortDown	このアイコンをクリックして、選択したフィールドのデータを降順で並べ替える。	10713	FALSE	TRUE
Sortup	このアイコンをクリックして、選択したフィールドのデータを昇順で並べ替える。	10712	FALSE	TRUE
SourceView		5675	TRUE	TRUE
SpacePara1	現在の段落に一行の行間を適用する。	10034	TRUE	TRUE
SpacePara15	現在の段落の行間を 1.5 行に設定する。複数の段落が選択されている場合、コマンドはすべての段落に適用される。	10035	TRUE	TRUE
SpacePara2	現在の段落に 2 行の行間を適用する。	10036	TRUE	TRUE
Spelling	このコマンドは、スペルチェックをアクティブにする。	10243	TRUE	TRUE
SpellOnline	この機能がアクティブな場合、自動スペルチェックがアクティブになる。	12021	TRUE	TRUE
Spinbutton		10193	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
SplitHorizontal		5647	TRUE	TRUE
SplitParentHorizontal		5649	TRUE	TRUE
SplitParentVertical		5650	TRUE	TRUE
SplitVertical		5648	TRUE	TRUE
Square		10380	TRUE	TRUE
Square_Rounded		10381	TRUE	TRUE
Square_Rounded_Unfilled		10383	TRUE	TRUE
Square_Unfilled		10382	TRUE	TRUE
StartMenu		6577	TRUE	TRUE
StateTableCell		10225	FALSE	FALSE
StatusBar		5642	FALSE	FALSE
StatusBarVisible	このコマンドはウィンドウ下部にあるステータスバーを表示または非表示にする。	5920	TRUE	TRUE
StatusGetPosition		30806	FALSE	FALSE
StatusGetTitle		30808	FALSE	FALSE
StopBrowse		6302	TRUE	TRUE
StopRecording		5800	TRUE	TRUE
Strikeout	このコマンドは、選択したテキストまたは単一の単語を通して線を引く。	10013	TRUE	TRUE
StyleApply	この機能を使用して、既存のスタイル(書式属性)を適用する。詳細なスタイルは、書式 → スタイリスト にある。	5552	FALSE	TRUE
StyleCatalog	スタイルのカタログでは、スタイルの編成と編集を行える。	5573	TRUE	TRUE
StyleNewByExample	このエリアには、新しいスタイルを命名するためのテキストボックスと既存のスタイルをすべてリストするボックスが含まれる。	5555	TRUE	TRUE
StyleUpdateByExample		5556	TRUE	TRUE
SubScript	現在のカーソル位置にある選択したテキストまたは単語を下げる。	10295	TRUE	TRUE
Substract		5680	TRUE	TRUE
SuperScript	選択したテキストまたは単合を基線より上に上げる。	10294	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
SwEditOptions	この登録を使用して、テキストドキュメント用の設定を指定する。これらの設定は、StarSuite でドキュメントがどのように扱われるかを決定する。設定は、すべての新しい StarSuite Writer ドキュメントに適用される。現在のテキストドキュメントのための設定を定義することもできる。たとえば、使用される既定フォントや表示される内容を指定できる。	10433	TRUE	TRUE
SwitchControlDesignMode		10629	TRUE	TRUE
TabDialog	このダイアログでは、タブキーでフォーカスされるコントロールフィールドの順序を変更できる。	10615	TRUE	TRUE
TaskBarVisible	このコマンドはウィンドウ下部にあるステータスバーを表示または非表示にする。	5931	TRUE	TRUE
TestMode		10199	TRUE	TRUE
Text		10006	TRUE	TRUE
Text	テキストを入力できるテキストフレームを定義する。	10253	TRUE	TRUE
TextdirectionLeftToRight	テキストを横方向で定義する。	10907	TRUE	TRUE
TextdirectionTopToBottom	テキストを縦方向で定義する。	10908	TRUE	TRUE
TextFitToSize		10367	TRUE	TRUE
Text_Marquee	この機能を使用して、テキストアニメーションをドキュメントに挿入する。アイコンをクリックして、アニメーションを表示する場所にテキストアニメーションボックスをドラッグする。	10465	TRUE	TRUE
Thesaurus	このコマンドは類義語辞典をアクティブにする。類義語辞典は、よく使われる単語を類義語に置き換えるのに使われる。	10245	TRUE	TRUE
ThisDocument		5576	FALSE	FALSE
ThisWindow		5577	FALSE	FALSE
File		6619	TRUE	TRUE
File		5604	TRUE	TRUE
TimeField	時刻フィールドを作成する。	10705	TRUE	TRUE
TimeField		10937	TRUE	TRUE
ToggleBreakPoint		30768	TRUE	TRUE
ToggleObjectBezierMode	選択した図形描画オブジェクトの点を編集する。	10126	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ToggleObjectRotateMode	このアイコンがアクティブな場合、マウスを使って選択したオブジェクトを回転できる。	10129	TRUE	TRUE
ToolBarVisible		5909	TRUE	TRUE
ToolsMacroEdit		5802	TRUE	TRUE
TransformDialog	このコマンドを使用して、選択した図形描画オブジェクトまたはコントロールフィールドの位置とサイズを定義する。	10087	TRUE	TRUE
TwainSelect	このコマンドは、スキャナーを選択するダイアログを開く。	10331	TRUE	TRUE
TwainTransfer	スキャナーダイアログをアクティブにする。	10332	TRUE	TRUE
Underline	下線 コマンドまたは同名のアイコンを使用して、カーソル位置にある選択したテキストまたは単語に下線を付ける。	10014	TRUE	TRUE
Undo	このコマンドは、最後のコマンドまたはリストボックス (アイコン上でマウスボタンをゆっくり押し放す) から選んだコマンドの操作を元に戻す。	5701	TRUE	TRUE
Ungroup		26332	TRUE	TRUE
UrlButton		10602	FALSE	TRUE
URLButton		10197	TRUE	TRUE
UseWizards	このアイコンを使用して、新しいコントロールフィールドの挿入時に、オートパイロットの自動起動を制御する。	10727	TRUE	TRUE
VersionDialog	1 つのドキュメントの複数のバージョンを保存できるようにする。	6583	TRUE	TRUE
VersionVisible		5313	TRUE	TRUE
VerticalCaption	これを使用して、フラグ線付きの垂直の凡例を定義する。	10906	TRUE	TRUE
VerticalText	これを使用して、縦方向にテキストを入力できるテキストフレームを定義できる。	10905	TRUE	TRUE
VFixedLine		10929	TRUE	TRUE
ViewDataSourceBrowser	どのデータソースのどのテーブルを StarSuite のアドレス帳として使用するかを選択できる。	6660	TRUE	TRUE
ViewFormAsGrid	このアイコンは、フォームビューの場合に、テーブルの追加ビューのオンとオフを切り替える。	10761	TRUE	TRUE
VScrollbar		10195	TRUE	TRUE

StarSuite 7 グローバル スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Window3D	3D オブジェクト用のあらゆる効果を定義する。	10644	TRUE	TRUE
XLineColor	このリストボックスでは、行の色を定義できる。	10172	TRUE	TRUE
XLineStyle	希望の線スタイルを選択する。	10169	TRUE	TRUE
Zoom	この機能を使用して、プレビューのスケールを変更できる。	10000	TRUE	TRUE
Zoom100Percent		10099	TRUE	TRUE
ZoomIn		10098	TRUE	TRUE
Zooming		10289	FALSE	FALSE
ZoomNext		10402	TRUE	TRUE
ZoomObjects		27099	TRUE	TRUE
ZoomOptimal		10101	TRUE	TRUE
ZoomPage		10100	TRUE	TRUE
ZoomPageWidth		27098	TRUE	TRUE
ZoomPlus		10097	TRUE	TRUE
ZoomPrevious		10403	TRUE	TRUE
ZoomToolBox		10096	FALSE	TRUE

StarSuite 7 – Writer スロットコマンド名

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
AcceptRedlining	このダイアログでは、ドキュメントに対して行なった個々の変更を受け入れるか拒否する。	21829	TRUE	TRUE
ActivateRedlining	このコマンドは、特定のドキュメントに対する変更の記録を開始または停止する。	21825	TRUE	TRUE
AddAllUnknownWords		20606	TRUE	TRUE
AlignBottom	選択したオブジェクトをページ下の余白に揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、オブジェクトの下余白に揃えられる	20479	TRUE	TRUE
AlignCharBottom		20569	TRUE	TRUE
AlignCharTop		20568	TRUE	TRUE
AlignHorizontalCenter	選択したオブジェクトを、水平方向の中央で揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、すべてのオブジェクトは、それぞれの中心点で水平行上に配置される。	20477	TRUE	TRUE
AlignLeft	選択したオブジェクトは、左余白に揃えられる。複数のオブジェクトの場合は、左余白から最も離れているオブジェクト位置で揃えられる。	20475	TRUE	TRUE
AlignRight	選択したオブジェクトを右余白に揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、すべてのオブジェクトは、右余白から最も離れているオブジェクト位置で揃えられる。	20476	TRUE	TRUE
AlignRowBottom		20566	TRUE	TRUE
AlignRowTop		20565	TRUE	TRUE
AlignTop	選択したオブジェクトをページ上の余白に揃える。複数のオブジェクトが選択されている場合、すべてのオブジェクトの上端は、上余白から最も離れているオブジェクト位置で揃えられる。	20478	TRUE	TRUE
AlignVerticalCenter	選択したオブジェクトを垂直方向の中央に配置する。複数のオブジェクトが選択されている場合、オブジェクトの中心点が垂直線上に配置される。	20480	TRUE	TRUE
AlignVerticalCharCenter		20570	TRUE	TRUE
AlignVerticalRowCenter		20567	TRUE	TRUE
AuthoritiesEntryDialog		21833	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
AutoFormatApply	このコマンドは、現在のドキュメントの書式を自動的に設定する。	20401	TRUE	TRUE
AutoFormatRedlineApply	このコマンドは、現在のドキュメントの書式を自動的に設定する。変更はあとで編集できる。	20406	TRUE	TRUE
AutoSum	テーブルオブジェクトバーでこのアイコンをクリックして、合計 (sum) 機能をアクティブにする。最初に、合計を入力するセルにカーソルを置くか、そのセルを選択する。	20595	TRUE	TRUE
BackColor	選択したテキストを色で強調表示するには、このアイコンをクリックする。	10489	FALSE	TRUE
BackgroundDialog		20450	TRUE	TRUE
BorderDialog		20448	TRUE	TRUE
BulletsAndNumberingDialog		20121	TRUE	TRUE
Calc		20129	TRUE	TRUE
CalculateSel	このコマンドを使用して、現在の選択項目内に含まれる数式を計算する。計算結果は、クリップボードに格納される。	20615	TRUE	TRUE
CellVertBottom	アクティブセル内のテキストを下の方に揃える。	20587	TRUE	TRUE
CellVertCenter	アクティブセル内のテキストを中央揃えにする。	20586	TRUE	TRUE
CellVertTop	アクティブセル内のテキストを上の方に揃える。	20585	TRUE	TRUE
ChainFrames	選択したフレームを次のフレームにリンクするには、このアイコンをクリックする。	21736	TRUE	TRUE
ChangeDatabaseField	ドキュメントで使用されている現在のデータベースを別のデータベースに交換するには、このコマンドを選択する。	20309	TRUE	TRUE
ChapterNumberingDialog		20612	TRUE	TRUE
CharBackgroundExt		10490	FALSE	TRUE
CharColorExt		10488	FALSE	TRUE
CharLeftSel		20801	FALSE	FALSE
CharRightSel		20802	FALSE	FALSE
ClosePreview		21254	TRUE	TRUE
CommentRedlining	変更内容についてのコメントを入力する。既存のコマンドの表示と編集を行える。	21827	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ControlCodes	ここをクリックして、テキスト中の編集記号 (改行、タブストップ、スペースなど) を表示または非表示にする。	20224	TRUE	TRUE
ConvertTableText	この機能を使用して、選択したテキストから表 (またはこの逆) に変換する。テーブルフォームに変換するテキスト、またはテキストに変換するテーブルを選択してから、このコマンドを選択する。	20500	TRUE	TRUE
CreateAbstract	アクティブドキュメントの見出しと後続の複数の段落を新しい自動抽出ドキュメントにコピーする。自動抽出は、長いドキュメントの概要を得るのに役立つ。	21612	TRUE	TRUE
DecrementIndentValue		21751	TRUE	TRUE
DecrementLevel	このアイコンをクリックすると、選択した段落が階層の 1 レベル下に移動される。	20130	TRUE	TRUE
DecrementSubLevels	下位段落を 1 レベル下げる。	20139	TRUE	TRUE
DeleteColumns	このコマンドは、セキュリティ応答なしで、テーブル内の現在の列を削除する。	20504	TRUE	TRUE
DeleteRows	テーブルから現在の行を削除する。	20503	TRUE	TRUE
DelLine		20935	FALSE	FALSE
DelToEndOfLine		20931	FALSE	FALSE
DelToEndOfPara		20933	FALSE	FALSE
DelToEndOfSentence		20927	FALSE	FALSE
DelToEndOfWord		20929	FALSE	FALSE
DelToStartOfLine		20932	FALSE	FALSE
DelToStartOfPara		20934	FALSE	FALSE
DelToStartOfSentence		20928	FALSE	FALSE
DelToStartOfWord		20930	FALSE	FALSE
DistributeColumns	選択した列に同じ幅を割り当てる。	20582	TRUE	TRUE
DistributeRows	選択した列を同じ高さに調整する。	20583	TRUE	TRUE
EditCurIndex	このコマンドは、インデックスを編集できるダイアログを呼び出す。	21832	TRUE	TRUE
EditFootnote		20162	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
EditGlossary	入力支援を使用して、再利用可能な引用文を編成する。指定したテキストブロックテーマライブラリに、テキストのほか、書式設定や図も保存する。その後、各ショートカットを入力してF3を押すことにより、ドキュメントにこれらのテキストブロックを挿入できる。	20620	TRUE	TRUE
EditHyperlink		21835	TRUE	TRUE
EditRegion	ドキュメントで定義されているセクションの属性を編集する。	20165	TRUE	TRUE
EndOfDocumentSel		20808	FALSE	FALSE
EndOfLineSel		20806	FALSE	FALSE
EndOfParaSel		20820	FALSE	FALSE
EntireColumn	カーソルが現在配置されている表の全列を選択する。	20514	TRUE	TRUE
EntireRow	カーソルが配置されている表の全行を選択する。	20513	TRUE	TRUE
Escape		20941	TRUE	TRUE
ExecHyperlinks	ステータスバーのこの場所をクリックして、ドキュメントのテキストハイパーリンクをアクティブ (HYP) から編集 (SEL) に切り替える。	21186	FALSE	FALSE
ExecuteMacroField		20127	FALSE	FALSE
ExpandGlossary		20628	FALSE	FALSE
FieldDialog	コマンド 編集 → フィールド は、フィールドパラメータの変更に使用するダイアログを開く。	20104	TRUE	TRUE
Fieldnames	このコマンドを使用して、フィールド名と内容とで表示を切り替える。	20226	TRUE	TRUE
Fields		20215	TRUE	TRUE
FlipHorizontal	ここをクリックして、図を水平方向に反転させる。	20425	TRUE	TRUE
FlipVertical	ここをクリックして、図を垂直方向に反転させる。	20426	TRUE	TRUE
FontColor	カラーアイコン 文字 (StarSuite Writer) またはカラーアイコン フォント を使用して、文字に別の色を簡単に割り当てることができる。	10537	FALSE	TRUE
FootnoteDialog	脚注の設定を定義する。	20468	TRUE	TRUE
FootnoteDialog	このコマンドを使用して、現在の脚注を編集する。	20162	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
FormatColumns	フレームまたはセクションに、ページで使用する列数を定義する。また、カラムディバイダの種類、高さ、および位置の定義や、カラム幅の変更を行える。	20453	TRUE	TRUE
FormatDropcap		20454	TRUE	TRUE
FormatGroup	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトをグループ化する。	20347	TRUE	TRUE
FormatUngroup	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトのグループ化を解除する。	20348	TRUE	TRUE
FrameDialog	この機能を使用して、複数列構成のフレームを作成または編集する。	20456	TRUE	TRUE
Gallery		5960	TRUE	TRUE
GoDown		20904	FALSE	FALSE
GoLeft		20901	FALSE	FALSE
GoRight		20902	FALSE	FALSE
GoToAnchor		20959	TRUE	TRUE
GoToEnd		20948	FALSE	FALSE
GoToEndOfColumn		20918	TRUE	TRUE
GoToEndOfDoc	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの最後のページに移動する。	20908	TRUE	TRUE
GoToEndOfLine		20906	TRUE	TRUE
GoToEndOfNextColumn		20952	TRUE	TRUE
GoToEndOfNextPage		20910	TRUE	TRUE
GoToEndOfNextPageSel		20810	TRUE	TRUE
GoToEndOfPage		20914	TRUE	TRUE
GoToEndOfPageSel		20814	TRUE	TRUE
GoToEndOfPara		20920	FALSE	FALSE
GoToEndOfPrevColumn		20954	TRUE	TRUE
GoToEndOfPrevPage		20912	TRUE	TRUE
GoToEndOfPrevPageSel		20812	TRUE	TRUE
GotoNextIndexMark		20983	TRUE	TRUE
GotoNextInputField		20147	TRUE	TRUE
GotoNextObject		20944	TRUE	TRUE
GoToNextPara		20975	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GotoNextPlacemark		20976	TRUE	TRUE
GoToNextSentence		20923	FALSE	FALSE
GotoNextSentenceSel		20823	FALSE	FALSE
GotoNextTableFormula		20985	TRUE	TRUE
GoToNextWord		20921	FALSE	FALSE
GotoNextWrongTableFormula		20987	TRUE	TRUE
GotoPage		20659	FALSE	FALSE
GotoPrevIndexMark		20984	TRUE	TRUE
GotoPrevInputField		20148	TRUE	TRUE
GotoPrevObject		20945	TRUE	TRUE
GoToPrevPara		20974	FALSE	FALSE
GotoPrevPlacemark		20977	TRUE	TRUE
GoToPrevSentence		20924	FALSE	FALSE
GotoPrevSentenceSel		20824	FALSE	FALSE
GotoPrevTableFormula		20986	TRUE	TRUE
GoToPrevWord		20922	FALSE	FALSE
GotoPrevWrongTableFormula		20988	TRUE	TRUE
GoToStartOfTable		20947	FALSE	FALSE
GoToStartOfColumn		20917	TRUE	TRUE
GoToStartOfDoc	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの最初のページに移動する。	20907	TRUE	TRUE
GoToStartOfLine		20905	TRUE	TRUE
GoToStartOfNextColumn		20951	TRUE	TRUE
GoToStartOfNextPage		20909	TRUE	TRUE
GoToStartOfNextPageSel		20809	TRUE	TRUE
GoToStartOfPage		20913	TRUE	TRUE
GoToStartOfPageSel		20813	TRUE	TRUE
GoToStartOfPara		20919	FALSE	FALSE
GoToStartOfPrevColumn		20953	TRUE	TRUE
GoToStartOfPrevPage		20911	TRUE	TRUE
GoToStartOfPrevPageSel		20811	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GoUp		20903	FALSE	FALSE
Graphic	このアイコンがアクティブになると、図は表示されず、プレースホルダとしての空のフレームのみが表示される。	20213	TRUE	TRUE
GraphicDialog	この機能を使用して、図の属性を編集する。	20458	TRUE	TRUE
Grow		20403	FALSE	TRUE
HScroll		20218	TRUE	TRUE
HtmlMode		10414	FALSE	FALSE
Hyphenate	このコマンドを選択して、ハイフネーションをアクティブにする。	20605	TRUE	TRUE
IncrementIndentValue		21750	TRUE	TRUE
IncrementLevel	このアイコンをクリックすると、選択した段落が階層の 1 レベル上に移動される。	20131	TRUE	TRUE
IncrementSubLevels	下位段落を 1 レベル上げる。	20140	TRUE	TRUE
IndexEntryDialog	インデックスの既存のエントリを編集できる。	20123	TRUE	TRUE
IndexMarkToIndex		20962	TRUE	TRUE
InsertAnnotation	このコマンドを使用して、現在のカーソル位置にコメントを挿入する。	20329	TRUE	TRUE
InsertAuthorField	フィールドとして、ユーザー名をここに挿入する。	20398	TRUE	TRUE
InsertAuthoritiesEntry	このフィールドを使用して、参考文献表のエントリを挿入する。	21421	TRUE	TRUE
InsertBookmark	このコマンドを使用して、現在のカーソル位置にブックマークを挿入する。ブックマークはナビゲータにリストされ、単一マウスクリック操作で直接アクセスできる。	20302	TRUE	TRUE
InsertBreak	この機能を使用して、現在のカーソル位置で、改行、列の折り返し、または改ページを行う。	20304	TRUE	TRUE
InsertBusinessCard	この機能は、名刺の管理およびデザインに使用する。	21052	TRUE	TRUE
InsertCaptionDialog	この機能を使用して、図表番号の挿入や自動番号付けを行う。	20310	TRUE	TRUE
InsertColumnBreak		20305	TRUE	TRUE
InsertColumns	このアイコンをクリックすると、カーソル位置のあとに 1 列を表に挿入する。	20502	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertColumnSection	特定のテキスト引用文を非表示にしたり、ページごとの列割り当てで作業したり、あるいは段落を読み取り専用で定義するために、このコマンドを使用して、セクションを定義する。	21419	TRUE	TRUE
InsertCtrl	ここを長めにクリックして、フレーム、図、表、およびほかのオブジェクトを挿入するためのさまざまな機能が含まれる可動ツールバーを開く。素早くクリックすると、アイコンで表されているツールをアクティブにする。	20389	FALSE	TRUE
InsertDateField	フィールドとして、現在の日付を挿入する。	20392	TRUE	TRUE
InsertEndnoteDirect	このオプションを選択して、文末脚注を挿入する。	21418	TRUE	TRUE
InsertEnvelop	この機能により封筒の設定を定義する。	21050	TRUE	TRUE
InsertField	この機能を使用して、フィールドをドキュメントに挿入する。	20308	TRUE	TRUE
InsertFieldCtrl	ここをクリックしてサブメニューを開く。このサブメニューでは、ドキュメントに挿入するさまざまなフィールドを選べる。	20391	FALSE	TRUE
InsertFooter	ここをクリックして、HTML ドキュメントにフッタを挿入する。	21406	TRUE	TRUE
InsertFootnote	このコマンドを選択して、脚注を挿入する。	20312	TRUE	TRUE
InsertFootnoteDirect	このコマンドを選択して、脚注を挿入する。	20399	TRUE	TRUE
InsertFormula		20128	TRUE	TRUE
InsertFrame	この機能を使用して、複数列構成のフレームを作成または編集する。	20334	TRUE	TRUE
InsertFrameInteract	この機能を使用して、複数列構成のフレームを作成または編集する。	20333	TRUE	TRUE
InsertFrameInteractNoColumns		20336	TRUE	TRUE
InsertGraphicRuler	この機能を使用して、カーソル位置に横方向の線を挿入する。	21411	TRUE	TRUE
InsertHardHyphen		20385	TRUE	TRUE
InsertHeader	HTML ドキュメントに見出しを挿入する。	21405	TRUE	TRUE
InsertHyperlinkDlg	このコマンドを使用して、選択したテキストにハイパーリンクを割り当てる。	20314	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertIndexesEntry	挿入 → 目次と索引 → 目次と索引の登録項目を選択して、ダイアログを呼び出す。このダイアログでは、選択したテキストをインデックスエントリとして定義する。このインデックスは、目次、アルファベット順の索引か、ユーザーが定義したインデックスのいずれかになる。	20335	TRUE	TRUE
InsertLabels	この機能は、ラベルの管理とデザインに使用する。ラベルの図表番号は、手動で入力するか、図表番号としてデータベースの内容を選択する。	21051	TRUE	TRUE
InsertLinebreak		20318	TRUE	TRUE
InsertMultiIndex	この機能を使用して、ドキュメントの現在のカーソル位置にインデックスを挿入する。選択可能なインデックスの種類は複数あり、希望する数の種類を定義できる。	21420	TRUE	TRUE
InsertNeutralParagraph	これをクリックすると、番号付けを行わずに段落を挿入する。既存の番号付けには影響しない。	20136	TRUE	TRUE
InsertNonBreakingSpace		20344	TRUE	TRUE
InsertObjCtrl	このアイコンは、オブジェクトの挿入に使用するアイコンが含まれる可動ツールバー オブジェクトの挿入を開く。	20390	FALSE	TRUE
InsertObject		20322	TRUE	TRUE
InsertObjectStarMath	この機能は、数式の挿入に使用する StarSuite Math をアクティブにする。	20369	TRUE	TRUE
InsertPagebreak		20323	TRUE	TRUE
InsertPageCountField	フィールドとして、ドキュメントにページの合計数を挿入する。アラビア文字の番号付けシステムが標準書式。	20395	TRUE	TRUE
InsertPageFooter	このコマンドのサブメニューを使用して、フッタを含めるかフッタを削除する現在のドキュメント用にテンプレートを選択する。	21414	TRUE	FALSE
InsertPageHeader	このコマンドのサブメニューを使用して、現在のドキュメントから、新しい見出しを追加するスタイルを選択するか、見出しを削除するスタイルを選択する。	21413	TRUE	FALSE
InsertPageNumberField	フィールドとして、カーソル位置に現在のページ番号を挿入する。	20394	TRUE	TRUE
InsertPara		20303	TRUE	TRUE
InsertReferenzField	ドキュメントに挿入するフィールドの種類を選択する。	20313	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertRegion	特定のテキスト引用文を非表示にしたり、ページごとの列割り当てで作業したり、あるいは段落を読み取り専用で定義するために、このコマンドを使用して、セクションを定義する。	20345	TRUE	TRUE
InsertRows	表の行をカーソル位置の下に挿入する。	20501	FALSE	TRUE
InsertScript	この機能を使用して、カーソル位置にスクリプト (ユーザーの介入なしで実行できるコマンド) を挿入する。	21410	TRUE	TRUE
InsertSoftHyphen		20343	TRUE	TRUE
InsertSymbol	この機能を使用して、1 つまたは複数の特殊文字を挿入する。	20328	TRUE	TRUE
InsertTable	このコマンドを使用して、ドキュメントに表を挿入する。	20330	TRUE	TRUE
InsertTimeField	フィールドとして、現在の時刻を挿入する。	20393	TRUE	TRUE
InsertTitleField	フィールドとして、ドキュメントの属性に指定されているタイトルを挿入する。	20397	TRUE	TRUE
InsertTopicField	フィールドとして、ドキュメントの属性に指定されている件名を挿入する。	20396	TRUE	TRUE
JumpDownThisLevel		20133	TRUE	TRUE
JumpToEndOfDoc		20979	TRUE	TRUE
JumpToFooter		20961	TRUE	TRUE
JumpToFootnoteOrAnchor		20955	TRUE	TRUE
JumpToHeader		20960	TRUE	TRUE
JumpToNextBookmark		20168	TRUE	TRUE
JumpToNextFootnote		20956	TRUE	TRUE
JumpToNextFrame		20958	TRUE	TRUE
JumpToNextRegion		21609	TRUE	TRUE
JumpToNextTable		20949	TRUE	TRUE
JumpToPrevBookmark		20169	TRUE	TRUE
JumpToPrevFootnote		20957	TRUE	TRUE
JumpToPrevRegion		21610	TRUE	TRUE
JumpToPrevTable		20950	TRUE	TRUE
JumpToReference		20166	TRUE	TRUE
JumpToStartOfDoc		20978	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
JumpUpThisLevel		20132	TRUE	TRUE
LineDownSel		20804	FALSE	FALSE
LineNumberingDialog	このチェックボックスをチェックして、行の番号付けをアクティブにする。	20602	TRUE	TRUE
LineUpSel		20803	FALSE	FALSE
LinkDialog	アクティブドキュメントのリンクを編集できる。	20109	TRUE	TRUE
LoadStyles	別のドキュメントまたはテンプレートから、スタイルをアクティブドキュメントに読み込む。	5663	TRUE	TRUE
Marks	このコマンドは、テキスト中のフィールド表示を表示または非表示にする。	20225	TRUE	TRUE
MergeCells	これは、表中で選択したセルを 1 つの単一セルに結合する。	20506	TRUE	TRUE
MergeDialog	ここには、差し込み印刷の印刷および保存のためのすべての機能がある。	20364	TRUE	TRUE
MergeTable	このコマンドは、2 つの連続する表を 1 つの新しい表に結合する。	21752	TRUE	TRUE
MirrorGraphicOnEvenPages		21741	TRUE	TRUE
MirrorOnEvenPages		21740	TRUE	TRUE
MoveDown	現在の段落 (または任意の選択した段落) を、1 段落下に移動する。	20135	TRUE	TRUE
MoveDownSubItems	このアイコンをクリックすると、段落とすべての下位段落が次の段落より下に移動される。	20142	TRUE	TRUE
MoveUp	このアイコンをクリックすると、現在の段落 (または選択した任意の段落) が、それより 1 つ上の前に配置される。	20134	TRUE	TRUE
MoveUpSubItems	これをクリックすると、段落とその下位段落が前の段落の上に移動される。	20141	TRUE	TRUE
NameGroup		21614	TRUE	TRUE
NewGlobalDoc	この機能を使用して、見出し 1 スタイルで書式設定された段落に基づくマスタードキュメントと、見出し 1 スタイルを持つ各章用の新しい部分ドキュメントを作成できる。	20004	TRUE	TRUE
NewHtmlDoc	ファイル → 送る → HTML 形式ドキュメントの作成 を選択して、現在のドキュメントから、ハイパーリンクでリンクされる HTML サブドキュメント範囲を作成する。	20040	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
NumberFormatCurrency		21727	TRUE	TRUE
NumberFormatDate		21725	TRUE	TRUE
NumberFormatDecimal		21723	TRUE	TRUE
NumberFormatPercent		21728	TRUE	TRUE
NumberFormatScientific		21724	TRUE	TRUE
NumberFormatStandard		21721	TRUE	TRUE
NumberFormatTime		21726	TRUE	TRUE
NumberingStart	このアイコンをクリックすると、テキストの番号付けが再開される。	21738	TRUE	TRUE
NumberOrNoNumber		20146	TRUE	TRUE
ObjectBackOne	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階前に進める。	20522	TRUE	TRUE
ObjectForwardOne	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階戻す。	20523	TRUE	TRUE
OnlineAutoFormat	このコマンドをマークすると、入力するときにオートフォーマット機能がアクティブになる。	20402	TRUE	TRUE
OptimizeTable	表中の列と行を最適化するための機能を備えた可動ツールバーを開く。	20510	TRUE	TRUE
PageColumnDialog		20449	TRUE	TRUE
PageDialog	この機能を使用して、ページ全体の外観を固定する。余白、用紙サイズ、縦書きまたは横書きの書式、見出しとフッタ、列区切り、脚注の順序を選択できる。ページに枠線または背景を付けるかどうかも指定できる。	20452	TRUE	TRUE
PageDown	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの次のページに移動する。この機能は、メニュー ファイル で印刷プレビュー機能を選択した場合にのみ有効。	20938	TRUE	TRUE
PageDownSel		20830	TRUE	TRUE
PageOffsetDialog		20634	TRUE	TRUE
PageStyleApply		20493	TRUE	TRUE
PageStyleName	ステータスバーのこのフィールドは現在のページスタイルを表示する。ダブルクリックして編集する。	21182	FALSE	FALSE
PageUp	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの前のページに移動する。	20937	TRUE	TRUE
PageUpSel		20829	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
PasteSpecial	クリップボードの内容をドキュメントに貼り付けるときの書式を定義する。	20114	TRUE	TRUE
PreviewPrintOptions	ドキュメントの印刷出力の設定を行えるダイアログを開く。	20250	TRUE	TRUE
PreviewZoom	画面に表示されるページの数进行定義する。	20251	FALSE	TRUE
PrintLayout	このコマンドを使用して、印刷時のドキュメントレイアウトを表示する。表示 → 印刷プレビュー コマンドは、HTML ドキュメントが開かれている場合にのみ表示される。	20237	TRUE	TRUE
PrintPagePreView	印刷プレビューを印刷する。画面に表示されているとおりにプレビューを印刷する。	21253	TRUE	TRUE
Protect	このコマンドを選択して、表中のセルの内容が削除または変更されないように保護する。	20517	TRUE	TRUE
ProtectTraceChangeMode	変更履歴 機能をオンにし、同時に、あとで必要となるパスワードを定義する。パスワードは、この機能をオフにすると、および変更を受け入れるか拒否するときに必要となる。	21823	TRUE	TRUE
RefreshView		20201	TRUE	TRUE
Remove	このアイコンをクリックすると、現在の段落または選択した段落の番号付けまたは箇条書きがオフになる。	20137	TRUE	TRUE
RemoveTableOf	このコマンドを使用して、現在のインデックスを削除する。	20655	TRUE	TRUE
Repaginate	このコマンドを使用して、ドキュメントの改ページを再フォーマットする。	20161	TRUE	TRUE
RepeatSearch		20150	TRUE	TRUE
ResetAttributes	標準 コマンドは、選択した段落に対応する段落書式に再フォーマットする。	20469	TRUE	TRUE
ResetTableProtection		20559	TRUE	TRUE
Ruler	このコマンドを使用してルーラーを表示または非表示にする。	20211	TRUE	TRUE
SelectionMode	現在の選択モードがここに表示される。以下の 3 つのモードに切り替え可能。STD = 標準、EXT = 拡張選択、ADD = 追加選択	21185	FALSE	FALSE
SelectText		20197	TRUE	TRUE
SelectWord		20943	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
SendAbstractToStarImpress	このコマンドを使用して、自動抽出をドキュメントアウトラインとして新しいプレゼンテーションドキュメントに転送する。自動抽出は、長いドキュメントの概要を提供する。アウトラインレベルの数や、アウトラインレベルごとに表示される段落の数を指定できる。その他すべてのアウトラインレベルまたは段落は非表示になる。	21613	TRUE	TRUE
SendOutlineToClipboard	このコマンドを選択すると、ドキュメントのアウトラインが RTF (Rich Text Format) でクリップボードに送信される。	20037	TRUE	TRUE
SendOutlineToStarImpress	このコマンドは、アクティブドキュメントのアウトラインを新しいプレゼンテーションドキュメントに送信する。	20036	TRUE	TRUE
SetAnchorAtChar	このコマンドは、選択したオブジェクトを現在の文字にアンカーを設定する。	21412	TRUE	TRUE
SetAnchorToChar	このコマンドは、オブジェクトを文字としてアンカーを設定する。文字としてアンカーが設定されたオブジェクトは、テキストの通常文字として現れるため、行の高さおよび改行に影響する。段落内のテキストが変更されると、オブジェクトの水平位置も移動される。	20384	TRUE	TRUE
SetAnchorToFrame	このコマンドは、選択したオブジェクトを周囲のフレームにアンカーを設定する。	20366	TRUE	TRUE
SetAnchorToPage	このコマンドは、選択したオブジェクトをページにアンカーを設定する。	20350	TRUE	TRUE
SetAnchorToPara	このコマンドは、選択したオブジェクトを現在の段落にアンカーを設定する。	20351	TRUE	TRUE
SetExtSelection		20940	TRUE	TRUE
SetMultiSelection		20939	TRUE	TRUE
SetOptimalColumnWidth	このコマンドを使用して、列の幅をセルの内容に合わせる。	20521	TRUE	TRUE
SetOptimalRowHeight	このコマンドを使用して、表の行の高さをテキストのサイズに合わせる。	20528	TRUE	TRUE
SetRowHeight	このコマンドを使用して、行に固定の高さを指定する。	20507	TRUE	TRUE
ShadowCursor	このアイコンをクリックして、ダイレクトカーソルをアクティブまたは非アクティブにする。	22204	TRUE	TRUE
ShiftBackspace		20942	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ShowFourPages	このアイコンをクリックすると、ページプレビューウィンドウに、一度に 4 ページが表示される。	21252	TRUE	TRUE
ShowHiddenParagraphs	このコマンドは、非表示の段落を表示または非表示にする。	20242	TRUE	TRUE
ShowRedlining	このコマンドを選択すると、記録された変更が表示される。	21826	TRUE	TRUE
ShowTwoPages	このアイコンをクリックすると、プレビューウィンドウに 2 ページが表示される。	21251	TRUE	TRUE
Shrink		20404	FALSE	TRUE
SortDialog	このコマンドは、並べ替えを行うテキスト範囲を選択したあと、並べ替えオプションを設定できるダイアログを開く。	20614	TRUE	TRUE
Sourceview	HTML ソーステキスト コマンドは、HTML ページのソースコードを表示できるモードをアクティブにする。このコマンドは、HTML ドキュメントが開かれている場合にのみ有効。	5675	TRUE	TRUE
Spelling	このコマンドは、スペルチェックをアクティブにする。	20622	TRUE	TRUE
SplitCell	この機能は、単一のセルまたはセルのグループを追加セルに分割する。	20505	TRUE	TRUE
SplitTable	このコマンドは、現在の表をセルカーソル位置で 2 つの表に分割する。	21742	TRUE	TRUE
StartAutoCorrect		20649	TRUE	TRUE
StartOfDocumentSel		20807	FALSE	FALSE
StartOfLineSel		20805	FALSE	FALSE
StartOfParaSel		20819	FALSE	FALSE
StatePageNumber	現在のページ番号は、ステータスバーのこのフィールドに表示される。ダブルクリックでナビゲータを開く。ここから、別のページ番号にジャンプできる。	21181	FALSE	FALSE
SubScript	これは、フォント文字を下部に置く。拡大できる。	20412	TRUE	TRUE
SuperScript	これは、フォント文字を上部に置く。拡大できる。	20411	TRUE	TRUE
SwBackspace		20926	FALSE	FALSE
TableBoundaries	このオプションを選択すると、テーブルのセルが細い線で囲まれる。	20227	TRUE	TRUE
TableDialog	この機能を使用して、表の属性を定義する。	20460	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
TableModeFix	このモードがアクティブな場合、行または列に対する変更は、対象となる隣接行または列だけに影響する。	20589	TRUE	TRUE
TableModeFixProp	このモードがアクティブな場合、行または列に対する変更は表全体に影響する。	20590	TRUE	TRUE
TableModeVariable	このモードがアクティブな場合、行または列に対する変更は表のサイズに影響する。	20591	TRUE	TRUE
TableNumberFormatDialog	数の書式を定義する。	20445	TRUE	TRUE
TableNumberRecognition	このフィールドがマークされている場合、テキストテーブル内の数字は、番号として認識される。	20252	TRUE	TRUE
TextAttributes	テキスト図形描画オブジェクトを配置できる。	20376	TRUE	TRUE
TextWrap	オブジェクトの周りのテキストの折り返しを定義する。	20203	TRUE	TRUE
ThesaurusDialog	このコマンドは類義語辞典をアクティブにする。類義語辞典は、よく使われる単語を類義語に置き換えるのに使われる。	20603	TRUE	TRUE
ToggleAnchorType	アンカーの変更を使用して、ポップアップメニューを開く。このポップアップメニューで、あらゆるアンカーの可能性の中から選べる。	20349	TRUE	TRUE
ToggleObjectLayer		20352	TRUE	TRUE
UnderlineDouble		20405	TRUE	TRUE
UnhainFrames	このアイコンをクリックすると、2つのフレーム間で線が分割される。	21737	TRUE	TRUE
UnsetCellsReadOnly	このコマンドを選択すると、アクティブテーブル内のすべてのセルの保護が非アクティブになる。	20519	TRUE	TRUE
UpdateAll	このコマンドを選択すると、さまざまなドキュメント要素が更新される。	21828	TRUE	TRUE
UpdateAllIndexes	このコマンドにより、すべてのインデックスが更新される。	20653	TRUE	TRUE
UpdateAllLinks	このコマンドをクリックすると、ドキュメントのリンクが更新される。	21824	TRUE	TRUE
UpdateCharts	このコマンドを使用すると、表計算ドキュメントが変更されているドキュメントグラフがすべて更新される。	21834	TRUE	TRUE
UpdateCurIndex	このコマンドを使用して、現在のインデックスを更新する。	20654	TRUE	TRUE
UpdateFields	このコマンドを使用して、ドキュメントフィールドを更新する。	20126	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Writer スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
UpdateInputFields		20143	TRUE	TRUE
ViewBounds	このコマンドを使用してテキスト境界を表示または非表示にする。	20214	TRUE	TRUE
VRuler		20216	TRUE	TRUE
VScroll		20217	TRUE	TRUE
WordLeftSel		20822	FALSE	FALSE
WordRightSel		20821	FALSE	FALSE
WrapAnchorOnly	この機能を選択して、Enter キーを押したあとに、オブジェクトの下に新しい段落を開始する。	20581	TRUE	TRUE
WrapContour	この機能を選択した場合、オブジェクト自体の輪郭に沿ってテキストが流れる。	20584	TRUE	TRUE
WrapIdeal	オブジェクトの幅と位置によって、テキストを左または右で折り返すか、まったく折り返さない。	20563	TRUE	TRUE
WrapLeft		20572	TRUE	TRUE
WrapOff		20472	TRUE	TRUE
WrapOn		20473	TRUE	TRUE
WrapRight		20573	TRUE	TRUE
WrapThrough		20474	TRUE	TRUE
WrapThroughTransparent	このオプションをマークすると、オブジェクトの背景を通してテキストが折り返される。	20564	TRUE	TRUE

StarSuite 7 – Calc スロットコマンド名

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
AcceptChanges	このダイアログでは、ドキュメントに対して行った個々の変更を受け入れるか拒否する。	26258	TRUE	TRUE
Add		26350	TRUE	FALSE
AddPrintArea	このコマンドを使用して、現在の選択項目を、定義したポイントエリアに追加する。	26651	TRUE	TRUE
AdjustPrintZoom		26652	TRUE	TRUE
AlignBlock	このオプションを選択して、選択したセルの内容を均等割付にする。	26374	FALSE	TRUE
AlignBottom	内容をセルの下角に揃える。	26376	FALSE	TRUE
AlignHorizontalCenter	このオプションを選択して、選択したセルの内容を水平方向の中央で揃える。	26373	FALSE	TRUE
AlignLeft	選択したセルの内容を左揃えにする。	26371	TRUE	TRUE
AlignRight	選択したセルの内容を右揃えにする。	26372	FALSE	TRUE
AlignTop	内容をセルの上角に揃える。	26375	FALSE	TRUE
AlignVCenter	セルの垂直方向の中央で内容を揃える。	26377	FALSE	TRUE
ApplyNames		26274	TRUE	FALSE
AuditingFillMode	このコマンドは、トレース実行モードをアクティブにする。マウスポインタが特殊なシンボルに変わり、任意のセルをクリックして、前のセルへのトレースを見ることができる。このモードを終了するには、Escape キーを押すか、コンテキストメニューの End Fill Mode コマンドをクリックする。	26462	TRUE	TRUE
AutoComplete	このコマンドを使用して、オートコンプリートをアクティブにする。	26319	TRUE	FALSE
AutoFill		26556	TRUE	FALSE
AutomaticCalculation		26303	TRUE	FALSE
AutoOutline	このコマンドは、行および列の自動配置を開始する。数式が対応するセルに関連する場合、数式の左側のすべての行または数式の上のすべての行が結合される。	26333	TRUE	FALSE
AutoRefreshArrows	このボタンは、数式を変更したときにシート内のすべてのトレースを自動的に更新する場合に使用する。	26471	TRUE	TRUE
AutoStyle		26128	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Calculate	現在のシートを直ちに再計算する。自動再計算を選択解除した場合、または実際の新しい再計算されたステータス(特に、非常に大きなシートの場合)を取得したいときにこのコマンドを使用する。	26304	TRUE	FALSE
CalculateHard		26318	TRUE	FALSE
Cancel		26557	FALSE	TRUE
ChooseDesign	ダイアログ テーマの選択 により、特定のセルスタイルを置換できる。	26082	TRUE	TRUE
ClearArrowDependents	参照先ト レース で作成されたト レース矢印の 1 レベルを削除する。	26459	TRUE	FALSE
ClearArrowPrecedents	参照元ト レース で挿入されたト レース矢印の 1 レベルを削除する。	26457	TRUE	FALSE
ClearArrows	表計算ドキュメントからすべてのト レース矢印を削除する。	26461	TRUE	FALSE
ClearContents		26553	TRUE	FALSE
ColumnWidth	選択した列の幅を指定する。	26285	TRUE	FALSE
CommentChange	変更内容についてのコメントを入力できる。既存のコマンドの表示と編集を行える。	26259	TRUE	TRUE
ConditionalFormatDialog	条件付き書式設定 を選択して、特定の条件に基づく書式スタイルを定義する。	26159	TRUE	TRUE
CreateNames	このダイアログでは、選択したセル範囲の名前の自動生成を定義できる。	26273	TRUE	FALSE
DataAreaRefresh	このオプションを選択した場合、数式は自動的に再計算され、必要に応じて、結果が修正される。	26643	TRUE	TRUE
DataConsolidate	この機能を使用して、独立するいくつかのテーブルエリアからのデータを結合する。	26150	TRUE	TRUE
DataDataPilotRun	たとえば 3 次元またはそれ以上の大きなデータを再配列および編成するには、データパイロットを使用する。データパイロットにより、希望するデータ表示が提供される。	26151	TRUE	TRUE
DataFilterAutoFilter	ワークシートに表示する特定の値を データリストまたはデータベースから選択するには、オートフィルタを使用する。	26325	TRUE	TRUE
DataFilterHideAutoFilter	表範囲に定義されているオートフィルタを表すボタンを非表示にする。特定の行を非表示にするオートフィルタアクションは維持される。	26341	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
DataFilterRemoveFilter	選択した表範囲のフィルタセットをクリアする。フィルタされているセル範囲内にカーソルをセットする。フィルタの解除は、前に選択したフィルタをすべて削除する。	26326	TRUE	FALSE
DataFilterSpecialFilter	ドキュメント中のアクティブシートの数とワークシートの合計数がここに表示される。	26324	TRUE	TRUE
DataFilterStandardFilter	このダイアログでは、表データをフィルタする論理条件を指定する。	26323	TRUE	TRUE
DataImport	データソースの表示と非表示。	26335	TRUE	TRUE
DataReImport	外部データベースから挿入されたデータを更新する。表中のデータは、外部データベース内のデータと一致するように更新される。	26336	TRUE	FALSE
DataSelect	現在の列にあるテキストをすべて含むリストフィールドが表示される。	26610	TRUE	FALSE
DataSort		26322	TRUE	FALSE
DataSubTotals	このダイアログでは、小計の自動計算のための設定を定義できる。	26328	TRUE	FALSE
DefineDBName	このダイアログを使用して、シートのデータベース範囲を定義する。	26320	TRUE	TRUE
DefineLabelRange	このダイアログを使用して、ラベル範囲を定義する。	26629	TRUE	TRUE
DefineName	選択したエリアの名前を指定する。	26271	TRUE	TRUE
DefinePrintArea	このコマンドを使用して、アクティブなセル範囲または選択したセル範囲を印刷範囲として定義する。	26602	TRUE	TRUE
Delete	このダイアログを使用して、選択したセル、列、または行を完全に削除する。削除したセルの下または右側のスペースは、埋められる。	26222	TRUE	FALSE
DeleteAllBreaks	現在のシード内の手動入力区切りをすべて削除する。	26650	TRUE	TRUE
DeleteColumnbreak	アクティブセルの左にある手動入力区切りを削除する。	26264	TRUE	FALSE
DeleteColumns	少なくとも 1 つのセルを選択したあと、このオプションを使用して、シートから列全体を削除できる。	26237	TRUE	FALSE
DeleteColumns	少なくとも 1 つのセルを選択したあと、このオプションを使用して、シートから行全体を削除できる。	26237	TRUE	TRUE
DeletePivotTable	データパイロットテーブルを削除する。カーソル位置の表が削除される。	26315	TRUE	FALSE
DeletePrintArea	このコマンドを使用して、定義されている印刷範囲をクリアする。	26603	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
DeleteRowbreak	アクティブセルの上にある手動入力 の行区切りを削除する。	26263	TRUE	FALSE
DeleteRows	少なくとも 1 つのセルを選択したあ と、このオプションを使用して、シート から行全体を削除できる。	26236	TRUE	FALSE
DeleteRows	表に外部データ (WebQueries) を挿入 する。	26236	TRUE	TRUE
Deselect		26549	TRUE	FALSE
DrawChart	グラフをドキュメントに挿入する。	26071	TRUE	TRUE
EditHeaderAndFooter	このコマンドを使用して、見出しと フッタを定義および書式設定する。	26235	TRUE	TRUE
EditLinks	アクティブドキュメントのリンクを編 集できる。	26060	TRUE	FALSE
EditObject		26234	FALSE	FALSE
EditPrintArea	印刷範囲を編集できるダイアログを開 く。	26605	TRUE	TRUE
EditScenario		26667	FALSE	FALSE
EuroConverter		26083	TRUE	TRUE
FillDown	少なくとも 2 行の選択した範囲が、そ の範囲のトップセルの内容で埋められ る。	26224	TRUE	TRUE
FillLeft	このコマンドを選択して、アクティブ セルの上に、新しい行を挿入する。	26227	TRUE	TRUE
FillModeEnd		26467	FALSE	FALSE
FillRight	少なくとも 2 列の選択した範囲が、左 端のセルの内容で埋められる。	26225	TRUE	TRUE
FillSeries	このダイアログのオプションを使用し て、連続データを自動的に生成する。方 向、ステップ数、時間の単位、連続デー タの種類を決定する。	26229	TRUE	FALSE
FillTable	表計算ドキュメントまたは特定の表計 算ドキュメントの範囲を転送するた めのオプションを選択する。	26228	TRUE	FALSE
FillUp	少なくとも 2 行の選択した範囲が、一 番下のセルの内容で埋められる。	26226	TRUE	TRUE
FirstPage	このアイコンをクリックすると、ド キュメントの最初のページに移動す る。	26498	FALSE	TRUE
FocusCellAddress		26645	FALSE	FALSE
FocusInputLine		26089	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
FormatCellDialog	このコマンドを使用して、書式設定のさまざまなオプションを選択して、選択したセルに属性を適用する。	26280	TRUE	TRUE
FreezePanels	この機能をアクティブにすると、シートはアクティブセルの上左角で分割される。上左のエリアはフリーズされ、スクロールできなくなる。	26070	TRUE	FALSE
FunctionBox		26248	TRUE	TRUE
FunctionDialog	関数オートパイロットにより、対話式に数式を作成する。	26152	TRUE	TRUE
GoalSeekDialog	選択したセルのターゲット値を指定できるダイアログを開く。	26153	TRUE	TRUE
GoDownToEndOfData		26536	FALSE	FALSE
GoDownToEndOfDataSel		26540	FALSE	FALSE
GoLeftBlock		26527	FALSE	FALSE
GoLeftToStartOfData		26537	FALSE	FALSE
GoLeftToStartOfDataSel		26541	FALSE	FALSE
GoRightBlock		26529	FALSE	FALSE
GoRightBlockSel		26530	FALSE	FALSE
GoRightToEndOfData	このコマンドは、表示しない コマンドで非表示になっているシートを表示する。	26538	FALSE	FALSE
GoRightToEndOfDataSel		26542	FALSE	FALSE
GoToCurrentCell		26550	TRUE	FALSE
GoUpToStartOfData		26535	FALSE	FALSE
GoUpToStartOfDataSel		26539	FALSE	FALSE
Hide	このコマンドは、選択した行、列、または個々のシートを非表示にする。	26289	TRUE	FALSE
HideColumn	このコマンドは、選択した行、列、または個々のシートを非表示にする。	26287	TRUE	FALSE
HideRow	このコマンドは、選択した行、列、または個々のシートを非表示にする。	26283	TRUE	FALSE
Hyphenate	少なくとも 1 つのセルを選択したあと、このオプションを使用して、シートから列全体を削除できる。	26087	TRUE	TRUE
InsCellsCtrl	可動ツールバーを開いて、セル、行、列を挿入する。	26627	FALSE	TRUE
Insert	新しいシートを挿入するのに使用するオプションを定義する。	26269	TRUE	FALSE
InsertCell	ドキュメントに新しいセルを入力するためのオプションを定義する。	26266	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertCellsDown	このオプションは、セルが挿入される場合に、選択した範囲の内容を下方へ移動させる場合に使用する。	26278	TRUE	TRUE
InsertCellsRight	このコマンドを選択すると直ちに、セルのコメントが永続的に表示され、そのコマンドの横にチェックマークが現れる。	26279	TRUE	TRUE
InsertColumnBreak	アクティブセルの左に、手動で列区切りを挿入する。	26262	TRUE	FALSE
InsertColumns	アクティブセルの左に新しい列を挿入する。	26268	TRUE	TRUE
InsertContents	このチェックボックスを選択すると、マークしたセル範囲のすべての内容が貼り付けられる。	26265	TRUE	FALSE
InsertCtrl	可動ツールバーを開いて、画像および特殊文字を挿入する。	26626	FALSE	TRUE
InsertExternalDataSource		26085	TRUE	TRUE
InsertName	前に定義したセル範囲を選択して、現在のカーソル位置にそれを挿入する。	26272	TRUE	FALSE
InsertObjectStarImage		26061	TRUE	TRUE
InsertObjectStarMath	この機能は、数式の挿入に使用する StarSuite Math をアクティブにする。	26063	TRUE	TRUE
InsertRowBreak	このコマンドは、アクティブセルの上に手動で行区切りを挿入する。	26261	TRUE	FALSE
InsertRows		26267	TRUE	TRUE
InsObjCtrl	このアイコンは、オブジェクトの挿入に使用するアイコンが含まれる可動ツールバー オブジェクトの挿入 を開く。	26628	FALSE	TRUE
JumpToNextUnprotected		26545	FALSE	FALSE
JumpToPreviousCell		26558	FALSE	FALSE
JumpToPreviousUnprotected		26546	FALSE	FALSE
JumpToPrevTable		26544	FALSE	FALSE
JumpToTable		26042	FALSE	FALSE
LastPage		26499	FALSE	TRUE
MergeCells	選択したセル範囲を結合して、1つのセルにする。	26293	TRUE	TRUE
Move	このダイアログを使用して、シートをドキュメント内の別の位置または別のドキュメントに移動またはコピーする。	26348	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Name	このコマンドは、現在のシートに別の名前を割り当てることができるダイアログを開く。	26347	TRUE	FALSE
NextPage	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの次のページに移動する。この機能は、メニュー ファイル で 印刷プレビュー 機能を選択した場合にのみ有効。	26496	FALSE	TRUE
NoteVisible	外部データベースから挿入されたデータを更新する。表中のデータは、外部データベース内のデータと一致するように更新される。	26630	TRUE	TRUE
NumberFormatCurrency	現在の書式でセルの内容を表示する。	26045	TRUE	TRUE
NumberFormatDate	このコマンドは、妥当性検査の規則に当てはまらない値を持つシート内のすべてのセルをマークする。	26053	TRUE	TRUE
NumberFormatDecDecimals	このアイコンをクリックして、選択したセル内の数字の最終小数位を削除する。	26058	TRUE	TRUE
NumberFormatDecimal		26054	TRUE	TRUE
NumberFormatIncDecimals	選択したセル内の数字に小数位を追加する。	26057	TRUE	TRUE
NumberFormatPercent	パーセンテージの書式でセルの内容を表示する。	26046	TRUE	TRUE
NumberFormatScientific		26055	TRUE	TRUE
NumberFormatStandard	標準の数字書式でセルの内容を表示する。	26052	TRUE	TRUE
NumberFormatTime		26056	TRUE	TRUE
ObjectMirrorHorizontal	このコマンドを使用して、オブジェクトを水平方向に反転させる。オブジェクトの左側は、反転したオブジェクトの右側になる。	26066	TRUE	FALSE
ObjectMirrorVertical	このコマンドを使用して、オブジェクトを垂直方向に反転させる。オブジェクトの左上角は、反転したオブジェクトの右下角になる。	26065	TRUE	FALSE
PagebreakMode	このメニュー項目を選択すると、シートの改ページが表示される。	26247	TRUE	TRUE
PageFormatDialog	ドキュメントの全ページの外観を決定できるダイアログを開く。	26295	TRUE	TRUE
PasteSpecial	クリップボードの内容をドキュメントに貼り付けるときの書式を定義する。	26220	TRUE	TRUE
PreviousPage	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの前のページに移動する。	26497	FALSE	TRUE
Protect	変更されないようにシートを保護する。	26306	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ProtectTraceChangeMode		26084	TRUE	TRUE
RecalcPivotTable	データパイロットで作成した表を更新する。	26314	TRUE	FALSE
RefreshArrows	このコマンドを使用して、シート内のすべてのトレースを再描画する。トレースを再描画することで変更された数式も考慮される。	26470	TRUE	TRUE
Remove	クエリーの確認後、現在のシートを削除する。	26223	TRUE	FALSE
RepeatSearch		26612	TRUE	TRUE
RenameObject		26088	TRUE	TRUE
ResetAttributes	標準 コマンドは、選択したすべてのセルを標準の書式に戻す。	26067	TRUE	FALSE
ResetPrintZoom		26653	TRUE	TRUE
RowHeight	このダイアログで、選択した行の高さを変更する。	26281	TRUE	FALSE
Scale		26244	TRUE	FALSE
ScenarioManager	このフィールドを使用して、選択した表範囲のシナリオを定義する。	26312	TRUE	TRUE
SelectColumn		26547	TRUE	FALSE
SelectData		26551	TRUE	FALSE
SelectDB	前に定義したデータベースエリアをここで選択する。	26321	TRUE	FALSE
SelectRow		26548	TRUE	FALSE
SelectScenario		26378	TRUE	TRUE
SetInputMode		26552	FALSE	FALSE
SetOptimalColumnWidth	選択した列に、最適な列幅をセットする。	26286	TRUE	FALSE
SetOptimalColumnWidthDirect	選択した列に、最適な列幅をセットする。	26299	TRUE	TRUE
SetOptimalRowHeight	選択した行に、最適な行の高さを選択する。	26282	TRUE	FALSE
Show	このアイコンをクリックすると、ドキュメントの最後のページに移動する。	26290	TRUE	FALSE
ShowChanges	このコマンドを選択すると、記録された変更が表示される。	26239	TRUE	TRUE
ShowColumn	このコマンドを選択すると、非表示にされていた行または列が表示される。	26288	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ShowDependents	アクティブセル内の値に依存する数式から、アクティブセルヘトレーサ矢印を描く。	26458	TRUE	FALSE
ShowErrors	この機能は、選択したセル内でエラー値を引き起こすすべてのセルにトレーサ矢印を描く。	26460	TRUE	FALSE
ShowInvalid		26469	TRUE	TRUE
ShowPrecedents	この機能は、数式を含む現在のセルと、数式の中で使用されるセルとの関連性を示す。	26456	TRUE	FALSE
ShowRow	このコマンドを選択すると、非表示にされていた行または列が表示される。	26284	TRUE	FALSE
SimpleReferenz		25727	TRUE	TRUE
SortAscending	このアイコンを使用して、並べ替え順を選択する (昇順または降順)。数のフィールドは、サイズ順で並べ替えられ、テキストフィールドは、含まれる文字の ASCII 順に並べ替えられる。	26344	FALSE	TRUE
SortDescending	このアイコンを使用して、並べ替え順を選択する (昇順または降順)。数のフィールドは、サイズ順で並べ替えられ、テキストフィールドは、含まれる文字の ASCII 順に並べ替えられる。	26343	FALSE	TRUE
SplitCell	このコマンドを使用して、結合されているセル範囲を区切る。	26294	TRUE	TRUE
SplitWindow	このメニュー項目をアクティブにすると、現在のウィンドウがアクティブセルの左上角で分割される。	26069	TRUE	FALSE
StandardTextAttributes	標準 コマンドは、選択したすべてのセルを標準の書式に戻す。	26296	TRUE	TRUE
StarChartDataDialog	データ範囲 コマンドは、ダイアロググラフデータ範囲の変更を開く。	26158	TRUE	TRUE
StarChartDialog	グラフをドキュメントに挿入する。	26155	TRUE	TRUE
StatusDocPos		26114	FALSE	FALSE
StatusPageStyle	ステータスバーのこのフィールドは現在のページスタイルを表示する。ダブルクリックして編集する。	26115	FALSE	FALSE
StatusSelectionMode	現在の選択モードがここに表示される。以下の 3 つのモードに切り替え可能。STD = 標準、EXT = 拡張選択、ADD = 追加選択	26116	FALSE	FALSE
StatusSelectionModeExp	少なくとも 2 列の選択した範囲が、右端のセルの内容で埋められる。	26122	FALSE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
TableOperationDialog	多重演算で、同じ数式をさまざまなセルに適用できる。異なる値はパラメータで指定する。	26154	TRUE	TRUE
TableRename	このコマンドは、現在のシートに別の名前を割り当てることができるダイアログを開く。	26346	TRUE	FALSE
TableSelectAll	シートタブのコンテキストメニューで、すべてを選択 を選択して、現在のドキュメントのすべてのシートを選択する。	26349	TRUE	FALSE
TextAttributes	このダイアログを使用して、テキスト図形描画オブジェクトに必須の属性を適用する。	26297	TRUE	TRUE
ToggleAnchorType		26412	TRUE	TRUE
ToggleRelative		26609	TRUE	TRUE
ToolProtectionDocument	変更されないように全ドキュメントを保護する。シートの挿入、削除、名前変更、移動、コピーは不可。	26307	TRUE	FALSE
ToolsOptions	ダイアログを使用して、計算表ドキュメント用のあらゆる設定を定義する。セルエントリのあとに表示される内容とカーソル方向を定義する。順序リストを定義し、小数部分の桁数や、変更の記録と強調表示のための設定を決定できる。	26309	TRUE	TRUE
TraceChangeMode	このコマンドを使用して、特定のドキュメントに対する変更の記録を開始または停止する。	26238	TRUE	TRUE
UnderlineDotted		26649	TRUE	TRUE
UnderlineDouble	二重下線 コマンドは、二重線付きで文字を示す。	26648	TRUE	TRUE
UnderlineNone		26646	TRUE	TRUE
UnderlineSingle		26647	TRUE	TRUE
UpdateChart		26013	FALSE	FALSE
Validation	このダイアログは、選択した表範囲のさまざまな妥当性基準を定義する。	26625	TRUE	TRUE
ViewInputLineOnOff	このメニュー項目をマークすると、数式バーが表示される。数式バーは、数式の入力と編集に使用する。表計算ドキュメントで作業する場合に使用頻度の高いツール。	26241	TRUE	FALSE
ViewRowColumnHeader- sOnOff	このメニューエントリをマークすると、列と行の見出しが表示される。	26242	TRUE	FALSE
ViewValueHighlightingOnOff	このメニューエントリをマークすると、シート内の数値が強調表示される。	26245	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Calc スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
WrapText		10230	FALSE	TRUE
ZoomIn	プレビューの倍率を大きくする。現在の倍率は、ステータスバーのスケールフィールドに示される。	26501	FALSE	TRUE
ZoomOut	プレビューの倍率を小さくする。現在の倍率は、ステータスバーのスケールフィールドに示される。	26502	FALSE	TRUE

StarSuite 7 – Draw スロットコマンド名

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ActionMode	このアイコンをアクティブにすると、プレゼンテーションを起動しなくても、インタラクションを直接実行できる。	27060	TRUE	TRUE
AdvancedMode	このツールは、効果 ウィンドウを開く。このウィンドウで、異なる効果を使用してオブジェクトを編集できる。	27095	TRUE	TRUE
AnimationEffects	プレゼンテーション実行中に選択したオブジェクトをクリックした場合にどのように動作するかを定義する。	27063	TRUE	TRUE
AnimationMode	この機能を使用すると、プレゼンテーションを起動しなくても、直接ドキュメント内でアニメーション効果を見ることが出来る。	27059	TRUE	TRUE
AnimationObjects	アニメーションシーケンスの構成および順序を定義する。	27062	TRUE	TRUE
AnimatorAddObject		27110	FALSE	FALSE
AnimatorCreateObject		27111	FALSE	FALSE
ArrowsToolbox	線と矢印 可動ツールバーは、異なるエンドの罫線のためのアイコンを備えたウィンドウを開く。	27171	TRUE	TRUE
Backward	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階戻す。	27032	TRUE	TRUE
BeforeObject	このコマンドは、オブジェクトをほかのオブジェクトの前に配置する。このコマンドは、配置するレイヤーを変更するだけで、オブジェクトは移動しない。	27326	TRUE	TRUE
BehindObject	このコマンドは、オブジェクトをほかのオブジェクトの後ろに配置する。このコマンドは、配置するレイヤーを変更するだけで、オブジェクトは移動しない。	27116	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
BigHandles	このアイコンをクリックすると、表示されているハンドルを拡大する。	27168	TRUE	TRUE
Break	このコマンドは、前に接続された線(結合 コマンドにより)の結合を切り離す。	27094	TRUE	TRUE
Bullet	この機能を使用して、1つまたは複数の特殊文字を挿入する。	27019	TRUE	TRUE
CapturePoint	スナップポイントまたは垂直/水平スナップラインを定義する。スナップポイントまたはスナップラインは、描画中に、図形描画オブジェクトを揃えるのに使用する。挿入したスナップポイントおよびスナップラインは、アクティブドキュメントのすべてのスライドで使用できる。プレゼンテーションや印刷時には表示されない。	27038	TRUE	FALSE
ChangeBezier	選択したオブジェクトをベジェ曲線に変換する。	27036	TRUE	TRUE
ChangePolygon	オブジェクトを多角形に変換する。	27037	TRUE	TRUE
ClickChangeRotation	この機能をアクティブにすることにより、オブジェクトをダブルクリックすると回転モードが割り当てられる。	27170	TRUE	TRUE
ColorView	このアイコンを使用して、白黒のテキスト表示をオンまたはオフにする。	27257	FALSE	TRUE
Combine	このコマンドは、選択した要素から新しい図形描画要素を作成する。	27026	TRUE	TRUE
Cone	このアイコンは、円錐を挿入する。	27299	TRUE	TRUE
Connect	このコマンドは、選択した線、線の部分、またはベジェ曲線から、新しい線オブジェクトまたはベジェ曲線を作成する。	27093	TRUE	TRUE
Connector	このアイコンを使用して、コネクタを挿入できる。	27058	TRUE	TRUE
ConnectorArrowEnd	このアイコンを使用して、先端が矢印のコネクタを挿入できる。	27120	FALSE	TRUE
ConnectorArrows	このアイコンを使用して、矢印付きのコネクタを挿入できる。	27121	FALSE	TRUE
ConnectorArrowStart	このアイコンを使用して、矢印付きのコネクタを挿入できる。	27119	FALSE	TRUE
ConnectorAttributes	コネクタの属性を選択できる。	27338	TRUE	TRUE
ConnectorCircleEnd	このアイコンを使用して、先端に丸が付くコネクタを挿入できる。	27123	FALSE	TRUE
ConnectorCircles	このアイコンを使用して、各先端に丸が付くコネクタを挿入できる。	27124	FALSE	TRUE
ConnectorCircleStart	このアイコンを使用して、丸付きのコネクタを挿入できる。	27122	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ConnectorCurve	このアイコンを使用して、曲線のコネクタを挿入できる。	27132	FALSE	TRUE
ConnectorCurveArrowEnd	このアイコンを使用して、先端が矢印の曲線コネクタを挿入できる。	27134	FALSE	TRUE
ConnectorCurveArrows	このアイコンを使用して、矢印付きの曲線コネクタを挿入できる。	27135	FALSE	TRUE
ConnectorCurveArrowStart	このアイコンを使用して、矢印付きの曲線コネクタを挿入できる。	27133	FALSE	TRUE
ConnectorCurveCircleEnd	このアイコンを使用して、先端が丸の曲線コネクタを挿入できる。	27137	FALSE	TRUE
ConnectorCurveCircles	このアイコンを使用して、各先端が丸の曲線コネクタを挿入できる。	27138	FALSE	TRUE
ConnectorCurveCircleStart	このアイコンを使用して、丸付きの曲線コネクタを挿入できる。	27136	FALSE	TRUE
ConnectorLine	このアイコンを使用して、直線コネクタを挿入できる。	27125	FALSE	TRUE
ConnectorLineArrowEnd	このアイコンを使用して、先端が矢印の直線コネクタを挿入できる。	27127	FALSE	TRUE
ConnectorLineArrows	このアイコンを使用して、矢印付きの直線コネクタを挿入できる。	27128	FALSE	TRUE
ConnectorLineArrowStart	このアイコンから始まる矢印付きの直線コネクタを挿入できる。	27126	FALSE	TRUE
ConnectorLineCircleEnd	このアイコンを使用して、先端が丸の直線コネクタを挿入できる。	27130	FALSE	TRUE
ConnectorLineCircles	このアイコンを使用して、各先端が丸の直線コネクタを挿入できる。	27131	FALSE	TRUE
ConnectorLineCircleStart	このアイコンを使用して、丸付きの直線コネクタを挿入できる。	27129	FALSE	TRUE
ConnectorLines	このアイコンを使用して、線コネクタを挿入できる。	27139	FALSE	TRUE
ConnectorLinesArrowEnd	このアイコンを使用して、先端が矢印の線コネクタを挿入できる。	27141	FALSE	TRUE
ConnectorLinesArrows	このアイコンを使用して、矢印付きの線コネクタを挿入できる。	27142	FALSE	TRUE
ConnectorLinesArrowStart	このアイコンを使用して、矢印付きの線コネクタを挿入できる。	27140	FALSE	TRUE
ConnectorLinesCircleEnd	このアイコンを使用して、先端が丸の線コネクタを挿入できる。	27144	FALSE	TRUE
ConnectorLinesCircles	このアイコンを使用して、各先端が丸の線コネクタを挿入できる。	27145	FALSE	TRUE
ConnectorLinesCircleStart	このアイコンを使用して、丸付きの線コネクタを挿入できる。	27143	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ConnectorToolbox	コネクタは、線を使用してオブジェクトを組み合わせる場合に使用する。オブジェクトを移動すると、コネクタは自動的に調節される。接続されている線をコピーすると、コネクタもコピーされる。	27028	TRUE	TRUE
convert_to_contour	このコマンドは、選択したオブジェクトをオブジェクトの全ジオメトリを含む多角形のグループに変換する。	27381	TRUE	TRUE
ConvertInto3D	オブジェクトを 3 次元表示に変換する。	10648	TRUE	TRUE
ConvertInto3DLathe	このツールを使用して、2D オブジェクトを 3D 回転オブジェクトに変更できる。2D オブジェクトが選択されている場合、回転軸の回りを回転させて 3 次元回転オブジェクトを作成できる。	27008	TRUE	TRUE
ConvertInto3DLatheFast	オブジェクトを 3 次元回転オブジェクトに変換する。	10649	TRUE	TRUE
ConvertIntoBitmap	オブジェクトをビットマップオブジェクト (ピクセル図、グリッド図) に変換する	27378	TRUE	TRUE
ConvertIntoMetaFile	このコマンドは、オブジェクトをメタファイルオブジェクト (ベクトル図) 書式に変換する。	27379	TRUE	TRUE
ConvertTo1BitMatrix	白黒点のグリッドでオブジェクトを色付けする。	27162	TRUE	TRUE
ConvertTo1BitThreshold	オブジェクトを白黒で色付けする。明度レベルで、中央の値より下はすべて黒になり、上はすべて白になる。	27161	TRUE	TRUE
ConvertTo4BitColors	原色にできるだけ緊密に一致するように、16 色でオブジェクトを色付けする。	27164	TRUE	TRUE
ConvertTo4BitGrays	オリジナルの明度に一致する 16 色グレースケールでオブジェクトを色付けする。	27163	TRUE	TRUE
ConvertTo8BitColors	原色にできるだけ緊密に一致するように、256 色でオブジェクトを色付けする。	27166	TRUE	TRUE
ConvertTo8BitGrays	オリジナルの明度に一致する 256 色グレースケールでオブジェクトを色付けする。	27165	TRUE	TRUE
ConvertToTrueColor	およそ 1600 万色のパレットからオブジェクトを色付けできる。	27167	TRUE	TRUE
CopyObjects	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを複製する。	27004	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
CrookRotate	このツールを使用して、選択したオブジェクトを遠近法により円上にセットする。	27090	TRUE	TRUE
CrookSlant	このツールを使用して、マークしたオブジェクトを傾斜させて、円内にセットする。	27091	TRUE	TRUE
CrookStretch		27092	TRUE	TRUE
Cube	このアイコンを使用して、3Dの立方体を定義できる。Shift キーを押したまま描画して、正確な立方体を定義する。	27296	TRUE	TRUE
CustomShowDialog	このコマンドは、現在のプレゼンテーションのスライドのカスタムスライドショーを定義し開始する。	27365	TRUE	TRUE
Cylinder	このアイコンを使用して、円柱を挿入できる。	27298	TRUE	TRUE
Cyramid	このアイコンは、4つの基準エッジで角錐を挿入する。たとえば、三角形ベースの角錐を挿入する場合は、3D効果 → 幾何デザイン → 切片 → 水平に で、3を入力する。	27300	TRUE	TRUE
DeleteLayer	このコマンドは、ドキュメントの現在のレイヤーを削除する。このコマンドは、挿入 → レイヤー でレイヤーを挿入したあとに有効になる。	27081	TRUE	TRUE
DeletePage	このコマンドは、現在のスライドを削除する。削除が行われる前にセキュリティエラーが表示される。	27080	TRUE	TRUE
DeleteSnapItem	現在のスナップポイントまたはスナップラインを削除する。	27108	TRUE	FALSE
Dia	現在のページまたは選択したページに、クロスフェード効果および画面切り替え速度を選択する。	10160	TRUE	TRUE
DiaAuto	自動、半自動、または手動の画面切り替えを指定する。	27056	FALSE	TRUE
DiaEffect	このリストボックスから、必須のクロスフェード効果をあらかじめ選ぶ。	27054	FALSE	TRUE
DiaMode	この機能を使用して、スライドモードをアクティブにする。このモードでは、ライトテーブル上で表示する場合と同じように、作業エリアで縮小サイズのスライドを表示できる。	27011	TRUE	TRUE
DiaSpeed	このリストフィールドに、次のスライドに切り替わる速度を定義する。	27055	FALSE	TRUE
DiaTime	スライドが表示されている時間を指定する。このフィールドは、切り替えが自動の場合にのみ有効。	27057	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
Dismantle	このコマンドは、個々のコンポーネントの組み合わせ (組み合わせ コマンド) によって作成された図形描画要素を分割する。	27082	TRUE	TRUE
DoubleClickTextEdit	このアイコンをアクティブにすると、ドキュメント上でテキストオブジェクトをダブルクリックすることでテキスト編集モードに切り替わる。	27169	TRUE	TRUE
DrawingMode	このコマンドは、図形描画モードをアクティブにする。	27009	TRUE	TRUE
DuplicatePage	このコマンドは、現在のスライドのコピーを作成する。複製されたスライドは、元のスライドの直後に新しいスライドとして挿入される。	27342	TRUE	TRUE
EditHyperlink		27382	TRUE	FALSE
EffectWindow	移動するオブジェクトを表示するときに使用する効果を定義する。	27328	TRUE	TRUE
EllipseToolbox	可動ツールバー 楕円形 には、楕円と円を挿入するためのアイコンが含まれる。	10400	TRUE	TRUE
ExpandPage	このコマンドは、現在のページの最初のアウトラインレベルから、追加ページを作成する。現在のページは、保持するか削除する。	27343	TRUE	TRUE
FillDraft	このオプションを選択すると、塗りつぶした図形描画の輪郭のみを表示する。図形描画の塗りつぶしは、表示されない。	27147	TRUE	TRUE
Forward	このコマンドを使用して、選択したオブジェクトを 1 段階前に進める。	27031	TRUE	TRUE
GlueEditMode	このアイコンをクリックして、選択したオブジェクトの接着点を編集する。	27301	FALSE	TRUE
GlueEscapeDirection		27304	FALSE	TRUE
GlueEscapeDirectionBottom	このアイコンをクリックすると、現在選択されている接着点に接続するコネクタが、オブジェクトの下から抜ける。	27317	FALSE	TRUE
GlueEscapeDirectionLeft	このアイコンをクリックすると、ここに配置されたコネクタは、オブジェクトの左へ抜ける。これは、現在選択されている接着点に適用される。抜ける方向 左へ、抜ける方向 右へ、抜ける方向 上へ、抜ける方向 下への 4 つのアイコンの中からいくつか選択できる。StarSuite Impress によって、コネクタに使用する最良のものが選択される。	27314	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GlueEscapeDirectionRight	このアイコンをクリックすると、現在選択されている接着点に接続するコネクタが、オブジェクトの右で抜ける。	27315	FALSE	TRUE
GlueEscapeDirectionTop	このアイコンをクリックすると、現在選択されている接着点に接続するコネクタが、オブジェクトの上で抜ける。	27316	FALSE	TRUE
GlueHorzAlignCenter	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの中央で固定されて維持される。	27305	FALSE	TRUE
GlueHorzAlignLeft	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの左角で固定されて維持される。	27306	FALSE	TRUE
GlueHorzAlignRight	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの右角で固定されて維持される。	27307	FALSE	TRUE
GlueInsertPoint	追加の接着点を挿入する。マウスポインタをクリックするごとに、選択したオブジェクトのエリア内の必要な位置に新しい接着点をセットできる。接着点の挿入を終了するには、このアイコンをもう一度クリックする。	27302	FALSE	TRUE
GluePercent	このアイコンがアクティブな場合は、接着点付きのオブジェクトをスケールすると、それに応じて接着点もスケールされる。	27303	FALSE	TRUE
GlueVertAlignBottom	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの下角で固定されて維持される。	27310	FALSE	TRUE
GlueVertAlignCenter	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの縦方向の中央で固定されて維持される。	27308	FALSE	TRUE
GlueVertAlignTop	オブジェクトのサイズを変更すると、現在の接着点はオブジェクトの上角で固定されて維持される。	27309	FALSE	TRUE
GrafFilterInvert	このフィルタは、カラーイメージの色の値、またはグレースケールや白/黒イメージの明度の値を逆転する。	27374	TRUE	TRUE
GrafFilterRemoveNoise	このフィルタは、イメージから単一ピクセルを削除できる。	27377	TRUE	TRUE
GrafFilterSharpen	このフィルタは、イメージ中のコントラストを強くする。	27376	TRUE	TRUE
GrafFilterSmooth	このフィルタは、イメージ中のコントラストを弱くする。	27375	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
GraffilterToolbox	図オブジェクトのツールバー上でフィルタ アイコンをクリックし、フィルタ ウィンドウを開く。このウィンドウでは、選択した図イメージに対してあらゆるフィルタを使用できる。	27373	TRUE	TRUE
GraphicDraft	このオプションを選択すると、挿入した画像の輪郭のみが表示される。	27146	TRUE	TRUE
GridFront	このオプションは、すべてのオブジェクトの前面に見えるグリッドを挿入する。	27323	TRUE	TRUE
HalfSphere	このアイコンは、半球を挿入する。	27313	TRUE	TRUE
HandlesDraft	選択したオブジェクトに単純な (2D) ハンドルを指定する場合は、このアイコンを使用する。	27150	TRUE	TRUE
HandoutMasterPage	ハンドアウトモードで背景スライドを編集するには、このコマンドを選択する。	27349	TRUE	TRUE
HandoutMode		27070	TRUE	FALSE
HelplinesFront	このオプションは、スナップラインをすべてのオブジェクトの前面にセットする。	27325	TRUE	TRUE
HelplinesUse	このオプションを選択すると、図オブジェクトの輪郭が最も近いスナップラインに揃えられる。これは、マウスカーソルがスナップエリア内に配置されている場合のみ可能。	27152	TRUE	TRUE
HelplinesVisible	このアイコンをアクティブにすると、画面上にスナップラインが表示される。	27324	TRUE	TRUE
HideSlide	スライドショーで、スライドを表示するか表示しないかを選択できる。	10161	TRUE	TRUE
Hyphenation	テキストオブジェクトのハイフネーションをオンまたはオフにする。	27340	TRUE	TRUE
ImportFromFile	ドキュメントにプレゼンテーション、HTML、またはテキストファイルを挿入するダイアログを開く。ローカルハードドライブ上のファイルだけでなく、インターネット上のファイルも挿入できる。	27015	TRUE	TRUE
InsertAuthorField	フィールドとして、ドキュメントに姓名を入力する。	27364	TRUE	TRUE
InsertDateFieldFix	このコマンドは、フィールドとして、現在のシステム日付をドキュメントに挿入する。日付は更新されない。	27358	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
InsertDateFieldVar	このコマンドは、ドキュメントの表示が更新されるたびに日付が更新されるように、変数で現在の日付を挿入する。	27357	TRUE	TRUE
InsertFileField	フィールドとして、アクティブドキュメントの名前を挿入する。	27363	TRUE	TRUE
InsertLayer	このコマンドは、現在のドキュメントに追加の図形描画レイヤーを挿入する。標準で使用されるレイヤーは、レイアウトとコントロールのみである。複雑な図形描画の作業でさらにレイヤーを挿入した場合、複数の図形描画要素を1つのレイヤーに移動することができる。	27043	TRUE	TRUE
InsertPage	このコマンドを選択すると、プレゼンテーションに新しいスライドを挿入するときに使用する既定義のレイアウトを選択できるダイアログが現れる。	27014	TRUE	TRUE
InsertPageField	フィールドとして、ドキュメントに現在のページ番号を挿入する。	27361	TRUE	TRUE
InsertPageQuick		27352	TRUE	TRUE
InsertTimeFieldFix	ドキュメントに現在の時刻をテキストとして挿入する。時刻は更新されない。	27360	TRUE	TRUE
InsertTimeFieldVar	現在の時刻を変数で挿入する。この時刻は、ドキュメントを開いたり、表示するたびに更新される。	27359	TRUE	TRUE
InsertToolbox	ここを長めにクリックすると、グラフ、オブジェクト、表計算ドキュメント、ファイル、イメージ、スライドを挿入するための機能を備えた可動ツールバーが開く。	27318	TRUE	TRUE
InteractiveGradient	このツールを使用して、すでにグラデーションがかかっている選択したオブジェクトのカラーグラデーションを対話式に変更できる。	27101	TRUE	TRUE
InteractiveTransparence	このツールを使用して、透過性のあるグラデーションを対話式に定義できる。	27100	TRUE	TRUE
LayerMode	このアイコンをクリックして、スライドを編集するためのレイヤーモードにアクセスする。	27050	TRUE	TRUE
LayoutStatus	ステータスバーのこのフィールドは現在のページスタイルを表示する。ダブルクリックして編集する。	27087	FALSE	FALSE
LeaveAllGroups	このアイコンをクリックして、すべてのグループを終了する。	27345	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
LineArrowCircle	このアイコンを使用して、片方が矢印でもう一方が丸の直線を引くことができる。	27175	FALSE	TRUE
LineArrowEnd	このアイコンを使用して、先端が矢印の直線を引くことができる。	27173	FALSE	TRUE
LineArrows	このアイコンを使用して、両端が矢印の直線を引くことができる。	27174	FALSE	TRUE
LineArrowSquare	このアイコンを使用して、片方が矢印でもう一方が四角形の直線を引くことができる。	27177	FALSE	TRUE
LineArrowStart	このアイコンを使用して、矢印で始まる直線を引くことができる。	27172	FALSE	TRUE
LineCircleArrow	このアイコンを使用して、片方が丸でもう一方が矢印の直線を引くことができる。	27176	FALSE	TRUE
LineDraft	細い線で、線と輪郭を常に表示する。現在使用されている線幅は、表示に適用されない。	27149	TRUE	TRUE
LineSquareArrow	このアイコンを使用して、片方が四角形でもう一方が矢印の直線を引くことができる。	27178	FALSE	TRUE
LineTo		27251	FALSE	FALSE
LineToolbox	曲線 可動ツールバーには、線の描画に使用する記号が含まれる。	10401	TRUE	TRUE
LivePresentation		27033	FALSE	FALSE
ManageLinks	アクティブドキュメントのリンクを編集できる。	27005	TRUE	TRUE
MasterPage	このコマンドを使用して、背景表示に切り替える。このモードを使用して、プレゼンテーションで変更されない背景要素を作成および編集できる。	27053	TRUE	TRUE
MeasureAttributes	任意の長さの (たとえば、オブジェクトなど) 寸法に対するオプションを決定できる。	27320	TRUE	TRUE
MeasureLine	このアイコンを使用して、寸法線を引くことができる。	27051	TRUE	TRUE
MirrorHorz	このコマンドを使用して、オブジェクトを水平方向に反転させる。オブジェクトの左側は、反転したオブジェクトの右側になる。	27035	TRUE	FALSE
MirrorVert	このコマンドを使用して、オブジェクトを垂直方向に反転させる。オブジェクトの上角は、反転したオブジェクトの下角になる。	27034	TRUE	FALSE
ModifyField	挿入した日付、時刻、著者、ページ番号、ファイル名フィールドの書式を編集する。	27362	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ModifyLayer	現在のレイヤに対するオプションを変更する。	27048	TRUE	TRUE
ModifyPage	ページの外観を変更するダイアログを呼び出す。別のページレイアウトの選択は、作成および配置した図形描画要素に影響しない。ただし、テキスト要素は、新しく追加されたイメージまたはフレームによって変わる場合がある。	27046	TRUE	TRUE
ModifyPresentationObject	このダイアログで、さまざまなスタイルを作成、変更、適用できる。さらに、現在のドキュメントに適用されているすべてのスタイルを編成できる。	27113	FALSE	FALSE
Morphing	この機能は、指定したステップで、2つの閉じた図形描画オブジェクトを一緒にフェードアウトする。	27319	TRUE	TRUE
NameGroup	オブジェクトに名前を付けるための名前 ダイアログを表示する。	27027	TRUE	TRUE
NewRouting	このコマンドは、コネクタのコンテキストメニューにあり、線スタイル 1 から線スタイル 3 のもとで、もとの位置に戻されたコネクタのコースをセットする。	27341	TRUE	TRUE
NotesMasterPage	ノートモードで、背景スライドを選択する。	27350	TRUE	TRUE
NotesMode		27069	TRUE	TRUE
ObjectPosition	以降は、オブジェクトを縦一列に配置するのに使用するコマンドの要約である。	27022	TRUE	TRUE
Objects3DToolbox	可動ツールバー 3D 体オブジェクトは、3D オブジェクトの描画を支援する。	27295	TRUE	TRUE
OutlineMode	このアイコンは、アウトラインモードをアクティブにする。	27010	TRUE	TRUE
OutputQualityBlackWhite	このオプションを選択すると、カラーまたはグレースケールなしの白黒表示になる。したがって、黒のアウトライン上では、黒い影は白になる。	27368	TRUE	TRUE
OutputQualityColor	プレゼンテーションまたはイメージ上の背景、フォント、またはほかのオブジェクトをカラーで作成し、それらをカラーで表示する場合は、このオプションを選択する。	27366	TRUE	TRUE
OutputQualityGrayscale	グレースケールディスプレイを希望する場合は、このオプションを選択する。すべての色は、濃淡のレベルで描かれる。灰色の輝度は、基調色によって変わる。	27367	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
OutputQualityContrast		27400	TRUE	TRUE
PackAndGo	この機能を使用して、プレゼンテーションを圧縮ファイル (いくつかに分けて圧縮することも可) でエクスポートする。	27380	TRUE	FALSE
PageMargin		27254	FALSE	FALSE
PageMode	スライドモードに切り替えて、プレゼンテーションスライドを編集するには、このコマンドを選択する。スライドモードを使用して、前景にあるスライドの図形描画要素を作成または編集する。これは、プログラムが開始されたときの標準モード。	27049	TRUE	TRUE
PageSetup	ページ設定 ダイアログを開く。このダイアログでは、用紙の書式や背景など、さまざまな設定を定義できる。	27002	TRUE	TRUE
PagesPerRow	スライドモードで 1 行当りに表示するスライドの数を入力する。	27284	FALSE	TRUE
PageStatus	通常モードでは、このステータスバーフィールドは現在のページ番号を表示する。	27086	FALSE	FALSE
ParaspaceDecrease	このアイコンをシングルクリックすると、段階的に上部の間隔が減少する。	27347	TRUE	TRUE
ParaspaceIncrease	このアイコンをクリックすると、選択した段落の上にある段落の間隔が増加する。	27346	TRUE	TRUE
PasteClipboard	クリップボードの内容をドキュメントに貼り付けるときの書式を定義する。	27003	TRUE	TRUE
PickThrough	テキストをクリックしてテキストフレームを選択するには、このオプションを選択する。	27159	TRUE	TRUE
PixelMode		27021	TRUE	TRUE
Polygon	このアイコンを使用して、塗りつぶしの多角形を定義する。このアイコンをクリックしたあと、まず、最初の 2 つのポイントをつなぐ線を引くことにより、多角形の点を定義する。ドキュメント上でクリックして、点をさらに追加する。点は直線で接続される。	10117	TRUE	TRUE
Presentation	このコマンドは、スライドショーを開始する。	10157	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
PresentationDialog	このコマンドは、ダイアログ スライドショーを開く。プレゼンテーションで開始されるスライドを定義できる。また、プレゼンテーションシーケンス用にいくつかのオプションを定義できる。	27339	TRUE	TRUE
PresentationLayout	ページデザイン ダイアログでは、プレゼンテーションに適用するレイアウトを選択できる。選択されたページスタイルは、現在のスライドに適用される。ページスタイルに含まれるオブジェクトは、すでにスライドに含まれているオブジェクトの後ろに表示される。	27064	TRUE	TRUE
PreviewQualityBlackWhite	このオプションを選択すると、カラーまたはグレースケールなしの白黒表示になる。したがって、黒のアウトライン上では、黒い影は白になる。	27371	TRUE	TRUE
PreviewQualityColor	プレゼンテーションまたはイメージ上の背景、フォント、またはほかのオブジェクトをカラーで作成し、それらをカラーで表示する場合は、このオプションを選択する。	27369	TRUE	TRUE
PreviewQualityGrayscale	グレースケールディスプレイを希望する場合は、このオプションを選択する。すべての色は、濃淡のレベルで描かれる。灰色の輝度は、基調色によって変わる。	27370	TRUE	TRUE
PreviewQualityContrast		27400	TRUE	TRUE
PreviewWindow	このコマンドを選択して、プレビューウィンドウを表示する。プレビューウィンドウは、現在のスライドがプレゼンテーションでどのように表示されるかを示す。	27327	TRUE	TRUE
Publish	このダイアログを使用して、プレゼンテーションおよび図形描画、または選択したオブジェクトを別の図書式でエクスポートする。	27283	TRUE	FALSE
QuickEdit	このボックスをマークすることにより、テキストをクリックすると直ちにテキスト編集モードに切り替わる。	27158	TRUE	TRUE
RectangleToolbox	可動ツールバー 四角形 は、塗りつぶしまたは空のシェイプを提供する。これらのシェイプは、スライドに挿入できる。	10399	TRUE	TRUE
RehearseTimings	プレゼンテーションの所要時間が表示されるところで、プレゼンテーションを開始する。	10159	TRUE	TRUE
RenameLayer	このコマンドを使用して、既存のレイヤーの名前を変更する。	27269	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
RenamePage	このコマンドでは、既存のスライドまたはマスターページ (プレゼンテーションレイアウト) の名前を変更できる。	27268	TRUE	TRUE
ReverseOrder	このコマンドは、オブジェクトの順序を入れ替える。選択したオブジェクトは、逆順で重ね合わさる。	27117	TRUE	TRUE
Shear	マークしたオブジェクトをゆがめるには、このツールを選択する。	27107	TRUE	TRUE
Shell3D	このアイコンは、鉢を挿入する。	27311	TRUE	TRUE
SlideChangeAssign		27336	FALSE	FALSE
SlideChangeWindow	現在のページまたは選択したページに、クロスフェード効果および画面切り換え速度を選択する。	27334	TRUE	TRUE
SlideMasterPage	図形描画モードの背景スライドを編集するには、このコマンドを使用する。	27348	TRUE	TRUE
SnapBorder	このオプションを使用して、図オブジェクトの輪郭を最も近いページ余白に揃える。	27155	TRUE	TRUE
SnapFrame	このオプションを選択して、図オブジェクトの輪郭を、最も近い図オブジェクトのオブジェクトフレームに揃える。	27156	TRUE	TRUE
SnapPoints	このオプションを選択して、図オブジェクトの輪郭を、最も近い図オブジェクトのオブジェクトポイントに揃える。	27157	TRUE	TRUE
SolidCreate	このアイコンをクリックすると、オブジェクトがドラッグされて開かれたときに属性で満たされる。	27151	TRUE	TRUE
Sphere	このアイコンは、楕円形の本体を定義する。Shift キーを押したまま描画して、正確な球を定義する。	27297	TRUE	TRUE
SummaryPage	このコマンドを使用して、概要ページを作成する。概要ページには、章レベルで各ページのタイトルが含まれている。目次に似ている。	27344	TRUE	TRUE
SwitchLayer		27047	TRUE	TRUE
SwitchPage		27045	TRUE	TRUE
TextAttributes	テキスト図形描画オブジェクトを配置できる。	27281	TRUE	TRUE
TextDraft	このオプションを選択すると、テキスト内容を含まないテキストウィンドウを表示する。	27148	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Draw スロット コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
TextFitToSizeTool	このアイコンは、テキストフレームのサイズにリンクされるフォントサイズでテキストを入力する場合に使用する。アイコンをクリックして、テキストを記述するドキュメントでフレームを作成する。	27285	TRUE	TRUE
TextToolbox	このアイコンは、可動ツールバー テキスト を表示する。ここで、テキストと図をリンクできる。	10398	TRUE	TRUE
TitleMasterPage	タイトルスライドの背景スライドを編集するには、このコマンドを使用する。	27351	TRUE	TRUE
Torus	このアイコンは、円環を挿入する。	27312	TRUE	TRUE
VerticalTextFitToSizeTool	このアイコンは縦書きテキストを入力する場合に使用する。フレームサイズによってテキストのサイズが決まる。	27286	TRUE	TRUE
ZoomPanning	このアイコンを使用すると、カーソルが手のアイコンに代り、ウィンドウの内容をシフトできる。	27017	TRUE	TRUE

StarSuite 7 – Chart スロットコマンド名

StarSuite 7 Chart コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
AllTitles	選択したタイトルまたはすべてのタイトルの属性を変更する。	30562	TRUE	FALSE
Backward	選択したデータ行を後方 (左に) に送る。	30595	TRUE	TRUE
BarWidth		30591	FALSE	TRUE
CharTitle		30520	TRUE	TRUE
ContextType	現在のグラフの種類の名前を表示する。	30538	FALSE	TRUE
DataDescriptionType		30588	FALSE	TRUE
DataInColumns	グラフデータの分類を変更する。	30536	FALSE	TRUE
DataInRows	グラフデータの分類を変更する。	30535	FALSE	TRUE
DefaultColors		30590	FALSE	TRUE
DiagramArea	グラフエリアの属性を編集する。グラフエリアとは、グラフのすべての要素の背後にある背景のこと。	30526	TRUE	FALSE
DiagramAxisA	挿入 → 軸 で、この追加 X 軸をオンにすると、線スタイル、フォント、および軸ラベルのテキスト方向をセットできる。	30616	TRUE	FALSE
DiagramAxisAll	軸の属性を編集できるダイアログを開く。	30555	TRUE	FALSE
DiagramAxisB	線スタイル、文字効果、スケール、数の書式、第 2 Y 軸の配置をコントロールする。この設定は、挿入 → 軸とグリッド でオンにできる。	30617	TRUE	FALSE
DiagramAxisX	軸の属性を編集できるダイアログを開く。	30552	TRUE	FALSE
DiagramAxisY	軸の属性を編集できるダイアログを開く。	30553	TRUE	FALSE
DiagramAxisZ	軸の属性を編集できるダイアログを開く。	30554	TRUE	FALSE
DiagramData	グラフデータを編集できるダイアログを呼び出す。	30514	TRUE	TRUE
DiagramFloor	グラフの床面の属性を編集する。グラフの床面とは、3D グラフの下部の領域のこと。したがって、この機能は 3D グラフでのみ利用可能。	30525	TRUE	FALSE
DiagramGrid		30523	TRUE	FALSE
DiagramGridAll	グリッドの属性を定義するダイアロググリッドを開く。	30566	TRUE	FALSE

StarSuite 7 Chart コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
DiagramGridXHelp	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30578	TRUE	FALSE
DiagramGridXMain	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30563	TRUE	FALSE
DiagramGridYHelp	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30579	TRUE	FALSE
DiagramGridYMain	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30564	TRUE	FALSE
DiagramGridZHelp	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30580	TRUE	FALSE
DiagramGridZMain	グリッドの属性を定義するダイアログ グリッド を開く。	30565	TRUE	FALSE
DiagramObjects	StarSuite Chart ドキュメントの選択した オブジェクトに特定の属性を割り当 てる。	30572	TRUE	FALSE
DiagramType	既定義のオプションから、グラフの種 類を選ぶ。	30528	TRUE	TRUE
DiagramWall	グラフの壁面の属性を編集する。グラ フの壁面とは、グラフのデータエリア の背後にある垂直な背景のこと。	30524	TRUE	FALSE
Forward	選択したデータ行を前へ (右へ) 移動 する。	30594	TRUE	TRUE
InsertAxis	グラフで表示される軸を指定する。	30518	TRUE	FALSE
InsertDescription	データラベルをセットできるダイアロ グを開く。	30517	TRUE	FALSE
InsertGrids	軸にグリッド線を割り当てることで、 軸に目盛りを付けることができる。こ れにより、特に、大きなグラフで作業し ている場合など、簡単に概観を得るこ とができる。	30540	TRUE	FALSE
InsertLegend	ここで、グラフの凡例の配置を変更で きる。	30516	TRUE	TRUE
InsertStatistics	このダイアログでは、2D オブジェクト で作業している場合に、平均、エラーの カテゴリーまたは回帰などの統計機能 を表示するかどうかを決定できる。	30556	TRUE	FALSE
InsertTitle	ダイアログを開いて、グラフのタイト ルを入力するか、変更する。	30515	TRUE	FALSE
Legend	凡例の枠、エリア、および文字属性を定 義する。	30521	TRUE	FALSE
LegendPosition		30589	FALSE	TRUE
MainTitle	選択したタイトルの属性を変更する。	30557	TRUE	FALSE
NewArrangement	グラフを元の表示に戻す。	30539	FALSE	TRUE
NumberOfLines		30592	FALSE	TRUE

StarSuite 7 Chart コマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツール バー
ScaleText	テキストの倍率をアクティブにする。テキストの倍率がアクティブな場合、StarSuite Chart オブジェクトが表示されるウィンドウのサイズが変更されると、テキストのサイズも修正される。テキストの倍率がアクティブでないと、テキストのサイズは変更されない。	30586	FALSE	TRUE
SubTitle	選択したタイトルまたはすべてのタイトルの属性を変更する。	30558	TRUE	FALSE
ToggleAxisDescr	標準ツールバーにあるこのアイコンは、すべての軸のラベル付けをオンまたはオフにする。	30532	FALSE	TRUE
ToggleAxisTitle	標準ツールバーにある 軸のタイトル オン/オフ をクリックして、軸ラベルを表示または非表示にする。	30531	FALSE	TRUE
ToggleGridHorizontal	標準ツールバーにあるアイコン 目盛り線(横) オン/オフ は、X軸のグリッド表示をオンまたはオフにする。ただし、チェックボックス 補助目盛り線は、アクティブにしてはならない。	30533	FALSE	TRUE
ToggleGridVertical	標準ツールバーにある 目盛り線(縦) オン/オフ アイコンは、Y軸のグリッド表示をオンまたはオフにする。ただし、補助目盛り線 チェックボックスは、アクティブにしてはならない。	30534	FALSE	TRUE
ToggleLegend	凡例を表示または非表示にするには、標準ツールバーにある 凡例 オン/オフ をクリックする。	30530	FALSE	TRUE
ToggleTitle	標準ツールバーにある タイトル オン/オフ をクリックして、タイトルおよびサブタイトルを表示または非表示にする。	30529	FALSE	TRUE
ToolSelect		30537	TRUE	TRUE
Update		30546	TRUE	TRUE
View3D	3D グラフ用に次元の軸の回転を定義する。	30527	TRUE	FALSE
XTitle	選択したタイトルの属性を変更する。	30559	TRUE	FALSE
YTitle	選択したタイトルまたはすべてのタイトルの属性を変更する。	30560	TRUE	FALSE
ZTitle	選択したタイトルの属性を変更する。	30561	TRUE	FALSE

StarSuite 7 – Math スロットコマンド名

StarSuite 7 Math スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツールバー
Adjust	すべての要素が含まれるように、可能な最大サイズで全数式を表示する。作業エリアに数式要素がすべて表示できるように、数式は縮小または拡大される。すべて表示 は、ツールバーの 数式全体 アイコンと同等。	30269	TRUE	TRUE
ChangeAlignment	1 行以上の数式と、1 行に複数の要素が含まれる数式の配置を定義する。	30309	TRUE	TRUE
ChangeDistance	インデックス、範囲、演算子などの数式要素の間隔を決定する。	30308	TRUE	TRUE
ChangeFont	特定の数式要素に適用されるフォントを定義する。	30306	TRUE	TRUE
ChangeFontSize	数式のフォントサイズを指定する。基本サイズを選択する。数式のすべての要素はこの基本サイズを基に拡大/縮小される。	30307	TRUE	TRUE
CommandWindow		30378	FALSE	FALSE
Config		30262	TRUE	TRUE
ConfigName		30356	FALSE	FALSE
CopyObject		30373	FALSE	FALSE
Draw	新しいフォームで、ドキュメントウィンドウに数式を書く。	30268	TRUE	TRUE
FitInWindow		30359	TRUE	TRUE
FormelCursor	数式カーソルをアクティブにする。このカーソルは、長い数式で、カーソルの位置を見つけるのに役立つ。	30271	TRUE	TRUE
Graphic		30357	FALSE	FALSE
InsertCommand		30361	TRUE	TRUE
InsertConfigName		30360	TRUE	TRUE
InsertFormula	数式をインポートするためのダイアログを開く。	30314	TRUE	TRUE
LoadSymbols		30363	FALSE	FALSE
ModifyStatus	ドキュメントに対する変更がハードディスクに保存されていない場合は、ステータスバーのこのフィールドに (*) が表示される。保存されていない新しいドキュメントの場合も同様。	30366	FALSE	FALSE
NextError	カーソルを次のエラーにセットする (右へ移動)。	30257	TRUE	TRUE

StarSuite 7 Math スロットコマンド名	概要説明	ID	メニュー	ツールバー
NextMark	カーソルを次のマーカーにセットする(右へ移動)。	30259	TRUE	TRUE
PasteObject		30374	FALSE	FALSE
PrevError	カーソルを前のエラーにセットする(左へ移動)。	30258	TRUE	TRUE
PrevMark	カーソルを前のマーカーにセットする(左へ移動)。	30260	TRUE	TRUE
RedrawAutomatic	変更した数式を自動的に更新する。このオプションを選択しないと、表示 → 再表示 を選択して F9 を押したあとに数式が更新されない。	30311	TRUE	TRUE
SaveSymbols		30364	FALSE	FALSE
SetPaperSize		30377	FALSE	FALSE
SymbolCatalogue	数式に挿入する記号を選択できるダイアログ 記号 を開く。	30261	TRUE	TRUE
Symbols	数式に挿入する記号を選択できるダイアログ 記号 を開く。	30312	TRUE	TRUE
Textmode	テキストモードのオンとオフを切り替える。テキストモードでは、数式はテキスト行と同じ高さで表示される。	30313	TRUE	TRUE
TextStatus		30367	FALSE	FALSE
ToolBowWindow		30379	FALSE	FALSE
ToolBox	演算子、関数、記号および可能な書式を入力するための記号のリスト。	30270	TRUE	TRUE
View100	通常の表示に戻す。	30264	TRUE	TRUE
View200		30265	TRUE	TRUE
View50		30263	TRUE	TRUE
ZoomIn	数式の表示倍率を 25% 増加する。	30266	TRUE	TRUE
ZoomOut	数式の表示倍率を 25% 減少する。	30267	TRUE	TRUE

Solaris オペレーティングシステムでのパッチのインストール

インストールを正確に実行するためには、第 ??? 章 (??? ページ) に記述されているパッチをインストールする必要があります。システムパッチをインストールするには、パッチ #106327-08 の例に従って作業を進めてください。この例では、<http://sunsolve.sun.com> からダウンロードしたあと、パッチファイルは 106327-08.zip のように圧縮されていることを想定しています。

1. root アクセス権でシステムにログインします。

```
su -
```

2. 圧縮されているパッチファイルの解凍用に一時ディレクトリを作成します (例: **/tmp/patches**)。

```
mkdir /tmp/patches
```

3. 圧縮パッチファイルをこのディレクトリにコピーして、ここで解凍します。

```
unzip 106327-08.zip
```

4. **patchadd** コマンドを使用して、パッチをインストールします。

```
patchadd 106327-08
```

5. パッチのインストールが正常に終了したあと、一時ディレクトリを削除します。

```
rm -rf /tmp/patches
```



システムにすでにインストールされているパッチのリストを表示するには、**showrev -p** または **patchadd -p** コマンドを使用します。インストールしたパッチを削除するには、**patchrm** コマンドを入力します。
